

P5WDG2-WS

Motherboard

ASUS[®]

J2374

初版

2005年12月

Copyright © 2005 ASUSTeK Computer Inc. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合には、保証やサービスを受けることができません。

- (1)ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2)製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容は変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

ご注意	vi
安全上のご注意	vii
このマニュアルについて	viii
P5WDG2-WS 仕様一覧	x
Chapter 1: 製品の概要	
1.1 ようこそ	1-1
1.2 パッケージの内容	1-1
1.3 特長	1-2
1.3.1 製品の特長	1-2
1.3.2 ASUS AI 機能	1-5
1.3.3 ASUS の革新技術	1-6
Chapter 2: ハードウェア	
2.1 始める前に	2-1
2.2 マザーボードの概要	2-2
2.2.1 設置方向	2-2
2.2.2 ネジ穴	2-2
2.2.3 ASUS Stack Cool 2	2-3
2.2.4 マザーボードのレイアウト	2-4
2.2.5 レイアウトの内容	2-5
2.3 CPU	2-7
2.3.1 CPUを取り付ける	2-8
2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける	2-10
2.3.3 CPUからヒートシンクとファンを取り外す	2-12
2.4 システムメモリ	2-14
2.4.1 概要	2-14
2.4.2 メモリ構成	2-14
2.4.3 メモリを取り付ける	2-20
2.4.4 メモリを取り外す	2-20
2.5 拡張スロット	2-21
2.5.1 拡張カードを取り付ける	2-21
2.5.2 拡張カードを設定する	2-21
2.5.3 割り込み割り当て	2-22
2.5.4 PCI Express x16 スロット	2-23
2.5.5 PCI スロット	2-23
2.5.6 PCI-X スロット	2-23
2.6 ジャンパ	2-28
2.7 コネクタ	2-31
2.7.1 リアパネルコネクタ	2-31
2.7.2 内部コネクタ	2-34

もくじ

Chapter 3: 電源をオンにする

3.1	初めて起動する.....	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする.....	3-2
3.2.1	OSシャットダウン機能を使用する.....	3-2
3.2.2	電源スイッチのデュアル機能を使用する.....	3-2

Chapter 4: BIOS セットアップ

4.1	BIOS管理更新.....	4-1
4.1.1	ASUS Update.....	4-1
4.1.2	ブートフロッピーディスクを作成する.....	4-4
4.1.3	ASUS EZ Flash.....	4-5
4.1.4	AFUDOS.....	4-6
4.1.5	ASUS CrashFree BIOS 2.....	4-9
4.2	BIOS 設定プログラム.....	4-11
4.2.1	BIOS メニュー画面.....	4-12
4.2.2	メニューバー.....	4-12
4.2.3	ナビゲーションキー.....	4-12
4.2.4	メニュー.....	4-13
4.2.5	サブメニュー.....	4-13
4.2.6	構成フィールド.....	4-13
4.2.7	ポップアップウィンドウ.....	4-13
4.2.8	スクロールバー.....	4-13
4.2.9	ヘルプ.....	4-13
4.3	メインメニュー.....	4-14
4.3.1	System Time.....	4-14
4.3.2	System Date.....	4-14
4.3.3	Legacy Diskette A.....	4-14
4.3.4	Language.....	4-14
4.3.5	Primary, Third, and Fourth IDE Master/Slave.....	4-15
4.3.6	IDE Configuration.....	4-16
4.3.7	システム情報.....	4-18
4.4	拡張メニュー.....	4-19
4.4.1	JumperFree Configuration.....	4-19
4.4.2	LAN Cable Status.....	4-23
4.4.3	USB 設定.....	4-24
4.4.4	CPU の設定.....	4-25
4.4.5	チップセット.....	4-27
4.4.6	オンボードデバイス設定構成.....	4-29
4.4.7	PCI PnP.....	4-31

もくじ

4.5	電源メニュー	4-32
4.5.1	Suspend Mode	4-32
4.5.2	Repost Video on S3 Resume.....	4-32
4.5.3	ACPI 2.0 Support	4-32
4.5.4	ACPI APIC Support	4-33
4.5.5	APM の設定	4-33
4.5.6	ハードウェアモニタ	4-35
4.6	ブートメニュー	4-37
4.6.1	ブートデバイスの優先順位	4-37
4.6.2	ブート設定	4-38
4.6.3	セキュリティ	4-39
4.7	終了メニュー	4-41

Chapter 5: ソフトウェア

5.1	OSをインストールする.....	5-1
5.2	サポートCD情報	5-1
5.2.1	サポートCDを実行する	5-1
5.2.2	ドライバメニュー	5-2
5.2.3	ユーティリティメニュー	5-3
5.2.4	Make Disk menu	5-5
5.2.5	マニュアルメニュー	5-6
5.2.6	コンタクトインフォメーション	5-6
5.2.7	その他の情報	5-7
5.3	ソフトウェア	5-11
5.3.1	ASUS MyLogo2™	5-11
5.3.2	AI NET2	5-13
5.3.3	オーディオ設定	5-14
5.3.4	ASUS PC Probe II.....	5-19
5.4	RAID	5-25
5.4.1	Serial ATA ハードディスクを取り付ける.....	5-26
5.4.2	Intel® RAID	5-26
5.5	RAID ドライブディスクを作成する.....	5-37

参考: CPU の機能

A.1	Intel® EM64T	A-1
A.2	EIST (拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー).....	A-1
A.3	Intel® Hyper-Threading Technology	A-3

ご注意

Federal Communications Commission Statement

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003. The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

安全上の注意

電気の取り扱い

- ・ 本製品について作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 正しい電圧でご使用ください。ご使用になる地域の出力電力がわからない場合は、お近くの電力会社にお尋ねください。
- ・ 電源装置は、ご自分で修理しないでください。修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルをよくお読みください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。



左のマークは、本製品が電気製品または電子装置であり、地域のゴミと一緒に捨てられないことを示すマークです。廃棄の際は、地方自治体の廃棄処理に関する条例または規則等に従って下さい。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けや構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

- Chapter 1: 製品の概要
マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。
- Chapter 2: ハードウェア
システムコンポーネントをインストールする際に必要なハードウェアのセットアップ手順について。
マザーボードのスイッチ、ジャンパ、コネクタの説明
- Chapter 3: 電源をオンにする
電源をオン/オフにする手順について。
- Chapter 4: BIOSのセットアップ
BIOS Setup メニューでのシステム設定の変更方法。
BIOS パラメータの詳細。
- Chapter 5: ソフトウェア
マザーボードパッケージに付属のサポート CD の内容。
- 参考: CPUの機能
本製品がサポートする CPU について。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS Webサイト (<http://www.asus.co.jp/>)
各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。
2. 追加ドキュメント
パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。



危険/警告: 本製品を取扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意: 本製品を取扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要: 本製品を取扱う上で、必要な指示です。



注記: 本製品を取扱う上でのヒントと追加情報です。

表記

<Key>

<> で囲った文字は、キーボードのキーです。

例: <Enter>→Enter もしくは リターンキーを押してください。

<Key1+Key2+Key3>

一度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。

例: <Ctrl+Alt+D>

Command

表記されている通りのコマンドを入力してください。
続けて[]で指示している文字列または値を入力してください。

例: DOS プロンプトで、コマンドラインを入力

```
afudos /i [filename]
```

↓

```
afudos /iP5WDG2WS.ROM
```

P5WDG2-WS 仕様一覧

CPU	LGA775 ソケット (Intel® Pentium® 4/Celeron/Pentium® プロセッサ Extreme Edition/Pentium® D プロセッサ対応) Intel® Enhanced Memory 64Technology (EM64T)対応 Enhanced Intel SpeedStep® Technology (EIST)対応 Intel® Hyper-Threading Technology 対応
チップセット	ノースブリッジ: Intel® 975X Express Memory Controller Hub (MCH) サウスブリッジ: Intel® ICH7R PCI-X ブリッジ: Intel® 6702PXH (PXH-V)
フロントサイドバス	1066/800/533 MHz
メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ対応 240 ピンメモリソケット×4最大8 GB システムメモリ unbuffered ECC/non-ECC DDR2 667/533 MHz メモリ Native DDR2 800 対応
拡張スロット	PCI Express™ x16 スロット×2 : ディスクリートビデオカード対応 PCI-X® スロット×2 PCI 2.2 スロット×2
CrossFire™	ATI CrossFire™ ビデオカード対応 (x8 モードにも対応)
記憶装置	Intel® ICH7R サウスブリッジのサポート内容: <ul style="list-style-type: none"> - IDE コネクタ×1 : Ultra ATA100/66/33 ハードディスク 2 台まで対応 - Serial ATA I/II 3.0 Gb/s ハードディスク×4 : RAID 0、RAID 1、RAID 10、RAID 5に対応 - Intel® Matrix Storage Technology Marvell® 88SE6141 Serial ATA コントローラのサポート内容: <ul style="list-style-type: none"> - Serial ATA I/II 3.0 Gb/s ハードディスク×4 : RAID 0、RAID 1 対応 (RAID 10 と JBOD のサポートは対応ドライバが必要)
LAN	Marvell® 88E8066/8062 Dual Gigabit LAN コントローラ - Marvell® Virtual Cable Tester (VCT) テクノロジー対応
無線 LAN (オプション)	Realtek® RTL8187L supports IEEE 802.11 b/g 準拠

(次項へ)

P5WDG2-WS 仕様一覧

HD オーディオ	Realtek® ALC882 8チャンネル + 2チャンネルHDオーディオ CODEC(High Definition Audio) マルチストリーミング、ジャック検出、ジャックリタスキング機能 に対応 同軸/光学 S/P DIF 出力ポート
IEEE 1394a	T1 1394a コントローラのサポート内容 - IEEE 1394a ポート× 2 (リアパネルとミッドボードに配置)
USB	USB 2.0 ポートを8ポートまでサポート
ASUS スペシャル機能	ASUS AI NET2 ASUS AI Overclocking (intelligent CPU frequency tuner) ASUS MyLogo2 ASUS Q-Fan2 ASUS Multi-language BIOS ASUS CrashFree BIOS 2 ASUS EZ Flash ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall) ASUS CPU Lock Free AI Quiet ASUS PEG Link (シングル/デュアルビデオカードのパフォーマンス を自動調整) Precision Tweaker Stack Cool 2 特許取得のファンレス 冷却技術 8段階電源設計 Stepless Frequency Selection (SFS) : FSBの調節 (133 MHz ~ 400 MHz : 1 MHz インCREMENT) CPU、メモリ、PCI Express x16 の電圧が調節可能
BIOS	8 Mb Flash ROM、AMI BIOS、Green PnP、DMI2.0、WfM2.0、 ACPI 2.0a、SM BIOS 2.3
マネージメント機能	PMEIによるWOL、ケース開閉検出機能、PXE、AI NET2、(PMEに よるWORのサポートは対応ドライバが必要)
電源	ATX 電源 (24ピン/2 x 4ピン12Vプラグ) ATX 12V 2.0 以降に準拠
フォームファクター	ATX フォームファクタ: 30.5 cm x 24.4 cm (12 in x 9.6 in)

(次項へ)

P5WDG2-WS 仕様一覧

リアパネル	PS/2 マウス ポート× 1 PS/2 キーボードポート× 1 パラレルポート× 1 LAN (RJ-45) ポート× 2 同軸 S/P DIF 出力 ポート× 1 光学 S/P DIF 出力 ポート× 1 IEEE 1394a ポート× 1 USB 2.0 ポート× 4 (オプションの Wi-Fi edition は 5 ポート) 無線 LAN ポート (IEEE 802.11 b/g) (オプション)× 1 8チャンネルオーディオポート
内部コネクタ	フロッピーディスクドライブコネクタ× 1 Primary IDE コネクタ× 1 ICH7R Serial ATA コネクタ× 4 Marvell® 88SE6141 Serial ATA RAID コネクタ× 4 光学ドライブオーディオコネクタ× 1 フロントパネルオーディオコネクタ× 1 USB コネクタ× 2 (追加USB 2.0 ポート 4 ポートに対応) IEEE 1394a ポートコネクタ× 1 GAME/MIDI ポートコネクタ× 1 ケース開閉検出コネクタ× 1 CPUファンコネクタ× 1 ケースファンコネクタ× 2 電源ファンコネクタ× 1 シリアルポート (COM1) コネクタ× 1 EATX 電源コネクタ (24ピン/2×4ピン) ASUS EZ Plug™ コネクタ システムパネルコネクタ
サポート CD	各デバイスドライバ BIOS Flash Utility (DOS環境) ASUS AI Booster ASUS Update ASUS PC Probe 2 Symantec NIS 2005 Microsoft® DirectX 9.0c Adobe® Acrobat Reader® RAID ユーティリティ

*仕様は予告なく変更することがあります。

マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。

製品の概要

1.1	ようこそ	1-1
1.2	パッケージの内容	1-1
1.3	特長	1-2

1.1 ようこそ

ASUS® P5WDG2-WS をお買い上げいただき、ありがとうございます。

このマザーボードは多くの新機能と最新の技術を提供するASUSの高品質マザーボードです。

マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを始める前に、パッケージの中に以下のものが揃っていることを確認してください。

1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに次のアイテムがあることを確認してください。

マザーボード	ASUS P5WDG2-WS
I/O モジュール	IEEE 1394a × 1 2ポートUSB 2.0/GAME× 1 COM1 モジュール× 1
ケーブル	2 イン 1 FDD/ATA/Logo+プルケーブル× 1 Serial ATA ケーブル× 8 Serial ATA 電源ケーブル× 4 (8 デバイス対応可)
アクセサリ	I/O シールド Wi-Fi アンテナ× 1 (オプション)
アプリケーションCD	ASUSマザーボードサポートCD
ドキュメント	ユーザーマニュアル(本書)



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

1.3 特長

1.3.1 製品の特長

最新のプロセッサ技術



本マザーボードは775ピン Land Package のIntel® Pentium® 4 プロセッサ用に設計されたLand Grid Array (LGA) ソケットを搭載。1066/800/533 MHz Front Side Bus(FSB)でIntel® Pentium® 4/Celeron®/Pentium® D/Pentium® Processor Extreme Edition プロセッサをサポートします。また、Intel® Hyper-Threading Technology に対応しており、Intel® 05B/05A と 04B/04A プロセッサと完全な互換性があります。(詳細 2-7 参照)

Intel® Dual-Core Technology CPU サポート



物理的に2つのCPUコアを内蔵し、より強力な処理機能を持ったデュアルコアプロセッサをサポートします。(詳細 2-7 参照)

Intel® 975X Express/ICH7R チップセット

Intel® 975X Express Memory Controller Hub (MCH) と ICH7R I/O コントローラハブは、マザーボードに不可欠なインターフェースを提供。Intel® 975X Express は最高 8 GB デュアルチャンネル DDR2 800/667/533 MHz、1066/800/533 FSB、デュアルコアCPUとともに、Dual PCI Express グラフィックスに対応するように設計された最新のチップセットです。MCH はまた Intel® Memory Pipeline Technology (MPT)に対応しており、パフォーマンスが向上します。

Intel® ICH7R サウスブリッジは、Serial ATA 3 Gb/s RAID コントローラを介して4つのSerial ATA I/II コネクタを統合。データの安全性を守り、高い処理能力を実現します。

Intel® Memory Pipeline Technology (MPT)



Intel® MPT は、CPUとシステムメモリとのメモリアクセスを最適化し、システムレベルとオペレーションパフォーマンスを向上させます。

Intel® EM64T



本マザーボードは Intel® EM64T (Extended Memory 64 Technology)を搭載した Intel® Pentium® 4 CPUをサポートしています。Intel® EM64T は 64bit でお使いのマシンを動作させ、より大きなシステムメモリにアクセスが可能です。(詳細「参考」参照)

Enhanced Intel SpeedStep® Technology (EIST)

EIST はCPUの負荷、システムのスピードと電源の要求に応じて自動的に CPU の電圧とコアクロックを調整することでCPUリソースを効果的に管理します。
(詳細 4-26と参考を参照)



DDR2 メモリサポート

800/667/533 MHz のデータ転送が可能な DDR2メモリをサポートし、最新の3Dグラフィックス処理、マルチメディア処理、インターネットアプリケーションなどの高いバンド幅を要する処理が可能です。デュアルチャンネルアーキテクチャにより、システムメモリのバンド幅を2倍にし、システムパフォーマンスを向上し、最高10.7GB/sのバンド幅でボトルネックを解決します。(詳細 2-14 参照)



Dual RAID

オンボード搭載の RAID コントローラで、デュアルRAID 機能が利用できます。

Intel® ICH7Rチップセットで、4つの Serial ATA I/II コネクタに対応。RAID 1、RAID 10、RAID 5が構築可能です。また、Intel® Matrix Storage Technology にも対応しています。
(詳細 2-35 参照)

Marvell® 88SE6141 Serial ATA コントローラは4つの追加 Serial ATA I/II コネクタに対応。最新ドライバをインストールすることで、RAID 0、RAID 1や RAID 10、JBODが構築できます。(詳細 2-36 参照)



PCI-X® インターフェース

本マザーボードはPCI規格の改良版 PCI-Xに対応しています。PCI-Xは、より高速のデータ転送率を実現し、ECC シングルビット自動エラー修復機能とダブルビットエラー検出機能でシステムの安定性も向上。PCI-XはPCI準拠のハード/ソフトウェアにも下位互換があり、広帯域化に対応。ファイバーチャンネル、RAID、InfiniBrand™ アーキテクチャ、iSCSI 等、ビジネスに不可欠なアプリケーションに対応可能です。(詳細 2-23 参照)

PCI Express™ インターフェース

PCI Express を完全にサポートし、また、最新の I/O 相互接続技術で PCI バスのスピードアップを図っています。PCI Express は各デバイス間で point-to-point シリアル相互接続を提供し、より高いクロックでの動作を実現しています。この高速インターフェースは既存の PCI 仕様とソフトウェアによる互換性があります。(詳細 2-23 参照)

8 チャンネル + 2 チャンネル HD オーディオ

Realtek® ALC882 High Definition Audio 8 チャンネル + 2 チャンネルオーディオ CODEC がオンボード搭載されています。この CODEC は Intel® High Definition Audio 規格 (192 KHz, 24bit オーディオ) に完全に対応しています。この CODEC とオーディオポート、S/P DIF インターフェースで、コンピュータをデコーダに接続し、クリアなデジタルオーディオをお楽しみいただけます。

Realtek® ALC882 CODEC には専用のソフトウェアが付属しており、接続された各ジャックの状態を検出するジャック機能や、オーディオデバイスを決定するための電気抵抗検出機能、様々なオーディオデバイスに対応するために等価性を事前に定義する機能があります。(詳細 2-31、2-33、5-14 参照)

S/P DIF デジタルサウンド対応

S/P DIF 出力機能をサポートしています。S/P DIF 技術は、お使いのコンピュータをパワフルなオーディオおよびスピーカーシステムにデジタル接続できる高性能エンターテインメントシステムに変えます。(詳細 2-33 参照)

IEEE 1394a

IEEE 1394a インターフェースを搭載することで、IEEE 1394a 規格と互換性のある周辺機器との接続が柔軟かつ高速になりました。IEEE 1394a インターフェースは、経済的でバンド幅の大きい非同期 (リアルタイム) インターフェースを通じて、コンピュータ、周辺機器、消費者家電 (ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラ等) との転送率を最高 400 Mbps まで可能にしました。(詳細 2-33 と 2-38 参照)

USB 2.0

USB 2.0 仕様を実装して、接続速度を USB 1.1 の 12 Mbps バンド幅から USB 2.0 の高速 480 Mbps に大幅に高めています。USB 2.0 は USB 1.1 と下位互換性があります。(詳細 2-33 と 2-38 参照)

デュアル Gigabit LAN



デュアルGigabit LAN コントローラで、ネットワークのトータルソリューションを提供。これらのネットワークコントローラはPCI Express セグメントを使用し、より高速なデータ転送率を実現。無線・有線インターネット、LAN、ファイルの共有に最適です。

(詳細 2-32 参照)

Trusted Platform Module (TPM) [オプション]

TPM は安定したマイクロコントローラ・ハードウェア・コンポーネントでソフトウェアが組み込まれています。本マザーボードはオプションとしてこのモジュールを実装し、信頼の安定性を提供。システムへのシングルサインオンで利便性が高上し、デジタル署名を可能にすることでデータ通信の安定性も向上します。(詳細 2-43 参照)

1.3.2 ASUS Intelligence (AI) 機能

Serial ATA I/II



Serial ATA インターフェースと Intel® 975X Express MCH チップセットを通じ、Serial ATA 3 Gb/s に対応。現行のSerial ATA 製品のバンド幅の2倍を実現し、NCQ (Native Command Queuing)、電源管理実行アルゴリズム (Power Management (PM) Implementation Algorithm)、ホットスワップ機能等の多数の新機能をサポート。

Serial ATA は少ないピン数で、より薄く柔軟なケーブルを実現。

(詳細 2-35、2-36 参照)

ASUS Stack Cool 2



ファンレスでゼロノイズの冷却機能で、PCB (Printed Circuit Board: プリント基板) 上で熱を拡散するために特殊な設計を採用しています。この機能で重要なコンポーネントの温度を最大20°C下げます。(詳細 2-3 参照)

無線 LAN (オプション)

IEEE 802.11 b/g 規格準拠のオンボード 無線LAN 用のRealtek® RTL8187L LAN コントローラを搭載。2.4 GHz/5 GHz 周波数バンドを用いることで、最高54 Mbps のデータ転送率を実現。ASUSのウィザードは分かりやすく、無線LANの設定も簡単です。

AI Quiet



CPUスピードを管理し、温度とファンスピードを抑えることで、ノイズも抑えます。

(詳細 4-35 参照)

1.3.3 ASUSの革新技术

Native DDR2-800 メモリサポート



Native DDR2-800 は、CPU とメモリをオーバークロックした際のボトルネックを解消。パフォーマンスが最大限に発揮され、3D グラフィクスやシステム集約型アプリケーションに対応します。(詳細 2-16、4-20 参照)

AI Overclocking



メニューから選択するだけで、最高 30 % (CPU とメモリに左右されます) のオーバークロックが可能です。システムの安定性を維持しながらパフォーマンスを増強することができます。(詳細 4-19 参照)

AI NET2



BIOS ベースの診断ツールで、イーサネットケーブルの障害とショートを検出して報告します。このユーティリティを使用すると、LAN (RJ-45)ポートに接続されたイーサネットケーブルの状態を簡単にモニタできます。起動プロセスの間に、AI NET 2 は LAN ケーブルを直ちに検出して、故障とショートを1メートル単位で最大100メートルまで検出・報告します。(詳細 4-23、5-13 参照)

PEG Link Mode



マザーボードが自動的にPCI Express グラフィックリンクモードを調整してシステム設定に応じた周波数に修正することで、PCI Express ビデオカードのパフォーマンスを向上させます。4 つの詳細設定で PEG Link Modeをオーバークロックさせることができます。(詳細 4-28 参照)

CPU Lock Free

CPU 動作倍率を 14倍速にできます。BIOS 設定を適切な設定にすると、自動的に CPU 動作倍率を減らし、外部 FSB を増幅したときの柔軟性が増します。(詳細 4-20 参照)

ASUS Q-Fan 2



システムの負荷に応じてファンスピードを調整し、ノイズを抑えながら効果的に冷却します。(詳細 4-35 参照)

ASUS Multi-language BIOS



オプションから言語選択が可能です。特定の BIOS メニューでは、より簡単な設定が可能になります。(詳細 4-14 参照)

ASUS MyLogo2™



この機能を使用すると、自分で選んだブートロゴを表示することができます。(詳細 4-38、5-11 参照)

ASUS CrashFree BIOS 2



BIOS コードとデータが破損した場合に、サポートCDからオリジナルの BIOS データを復元することができます。これで、交換用 ROMチップを購入する必要がなくなります。(詳細 4-9 参照)

ASUS EZ Flash BIOS



OSをロードする前でも、BIOSの更新が簡単に行えます。DOSベースのユーティリティやブートディスクは不要です。(詳細 4-5 参照)

システムの組み立てにおける、ハードウェアのセットアップ手順について。また、マザーボードのジャンパやコネクタに関する説明。

ハードウェア **2**

2.1	始める前に	2-1
2.2	マザーボードの概要.....	2-2
2.3	CPU	2-7
2.4	システムメモリ	2-14
2.5	拡張スロット	2-21
2.6	ジャンパ.....	2-28
2.7	コネクタ	2-31

2.1 始める前に

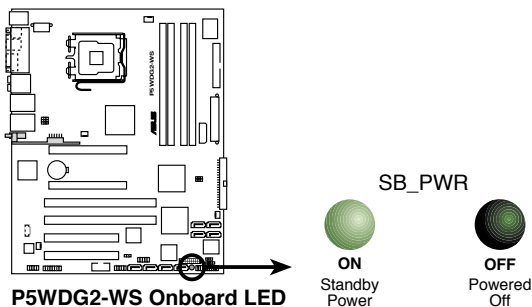
パーツの取り付けや設定を変更する前に、次の事項に注意してください。



- 各パーツを取り扱う前に、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置か、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
- パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがOFFの位置にあるか、電源コードが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。

オンボードLED

スタンバイLEDが搭載されており、電力が供給されている間は緑のLEDが点灯します。マザーボードに各パーツを取り付けたり、取り外したりする際は、オンボードLEDを確認し、点灯している場合は、システムをOFFにし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



2.2 マザーボードの概要

マザーボードを取り付ける前に、ケースの構成を調べて、マザーボードがケースにフィットすることを確認してください。



マザーボードの取り付け、取り外しを行う前に、必ず電源コードを抜いてください。感電、故障の原因となります。

2.2.1 設置方向

マザーボードが正しい向きでケースに取り付けられているかを確認してください。下の図のように外部ポートをケースの背面部分に合わせます。(次項の図を参照)

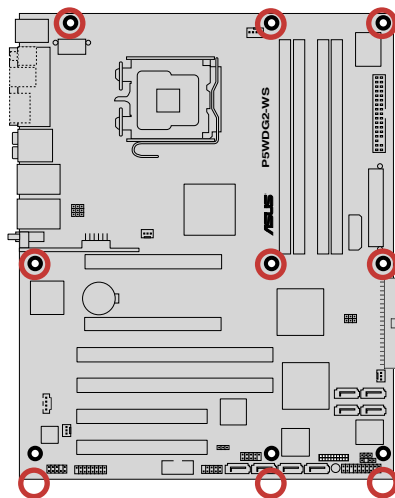
2.2.2 ネジ穴

ネジ穴は9カ所あります。ネジ穴の位置を合わせてマザーボードをケースに固定します。



ネジをきつく締めすぎないでください。マザーボードの破損の原因となります。

この面をケースの背面に合わせ
ます。

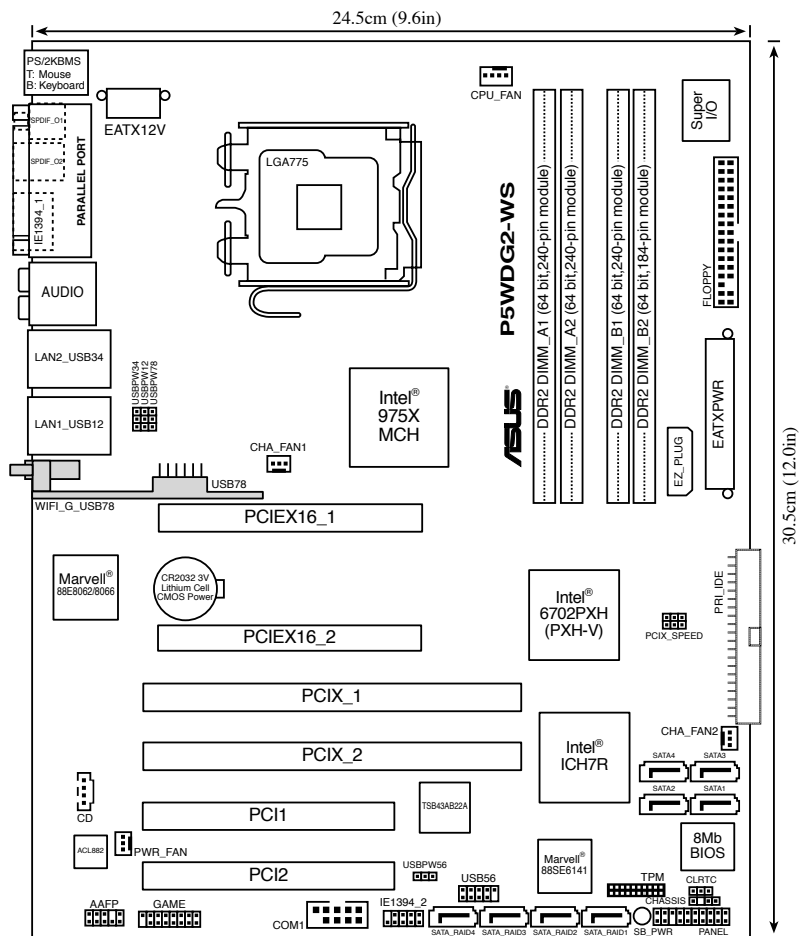


2.2.3 ASUS Stack Cool 2

本マザーボードは、コンポーネントを冷却するASUS Stack Cool 2を採用しています。PCB(プリント基板)上の特殊な設計で熱を最大20℃下げます。



2.2.4 マザーボードのレイアウト



無線LAN モジュールと USB ポートはオプションで、上の図ではグレーで表示しました。

2.2.5 レイアウトの内容

スロット	ページ
1. DDR2 メモリスロット	2-14
2. PCI Express x16 スロット	2-23
3. PCI スロット	2-23
4. PCI-X スロット	2-23

ジャンパ	ページ
1. RTC RAMのクリア (3ピン CLRTC)	2-28
2. USB デバイス ウェークアップ (3ピン USBPW12, USBPW34, USBPW56, USBPW78)	2-29
3. PCI-X スピード設定 (6ピン PCIX_SPEED)	2-30

リアパネルコネクタ	ページ
1. PS/2 マウスポート (グリーン)	2-31
2. パラレルポート	2-31
3. リアスピーカー出力 (ブラック)	2-31
4. センター/サブウーファーポート (オレンジ)	2-31
5. ライン入力ポート (ライトブルー)	2-31
6. ライン出力ポート (ライム)	2-31
7. LAN2 (RJ-45) ポート	2-32
8. LAN1 (RJ-45) ポート	2-32
9. 無線 LAN アクティビティ LED (オプション)	2-32
10. 無線 LAN ポート (オプション)	2-33
11. USB 2.0 ポート 8 (オプション)	2-33
12. USB 2.0 ポート 3 と 4	2-33
13. USB 2.0 ポート 1 と 2	2-33
14. マイクポート (ピンク)	2-33
15. サイドスピーカー出力ポート (グレー)	2-33
16. IEEE 1394a ポート	2-33
17. 光学 S/P DIF 出力ポート	2-33
18. 同軸 S/P DIF 出力ポート	2-33
19. PS/2 キーボードポート (パープル)	2-33

内部コネクタ	ページ
1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1 ピン FLOPPY)	2-34
2. プライマリ IDE コネクタ (40-1 ピン PRI_IDE)	2-34
3. ICH7R Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1 [レッド], SATA2 [レッド], SATA3 [ブラック], SATA4 [ブラック])	2-35
4. Marvell® 88SE6141 Serial ATA RAID コネクタ (7ピン SATA_RAID1, SATA_RAID2, SATA_RAID3, SATA_RAID4)	2-36
5. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピン CD)	2-37
6. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン AAFP)	2-37
7. USB コネクタ (10-1 ピン USB56, USB78 [オプション])	2-38
8. IEEE 1394a ポート コネクタ (10-1 ピン IE1394_2 [レッド])	2-38
9. GAME/MIDI ポート コネクタ (16-1 ピン GAME)	2-39
10. ケース開閉検出コネクタ (4-1 ピン CHASSIS)	2-39
11. CPU、ケース、電源ファンコネクタコネクタ (4ピン CPU_FAN, 3ピン PWR_FAN, 3ピン CHA_FAN1, 3ピン CHA_FAN2)	2-40
12. Serial ポート コネクタ (10-1 ピン COM1)	2-41
13. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR, 2x4ピン EATX12V, 4ピン EZ_PLUG)	2-41
14. TPM コネクタ (20-1 ピン TPM)	2-43
15. システムパネル コネクタ (20ピン PANEL) <ul style="list-style-type: none"> • Sシステム電源LED (グリーン 3ピン PLED) • HDD Activity LED (レッド 2ピン IDE_LED) • Sシステム警告スピーカー (オレンジ 4ピン SPEAKER) • ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン (ライム 2ピン PWRSW) • リセットボタン (ブルー 2ピン RESET) 	2-44

2.3 CPU

本製品は775-land Package 版Intel® Pentium® 4/Celeron®/Intel® Pentium® Dプロセッサ用に設計された、LGA775ソケットを採用しています。

また、Intel® Pentium® プロセッサ Extreme Edition、デュアル物理コアとHyper-Threading 技術を実装した最新のCPUをサポート。これらの技術革新より、CPUは4スレッド管理可能です。下の表はOSのサポートリストです。

OS ライセンスサポートリスト	
Intel Dual-Core CPU サポート	Pentium® Processor Extreme Edition (Hyper-Threading Technology に対応)
Windows® 2000 Professional	
Windows® 2000 Advanced Server	Windows® 2000 Advanced Server
Windows® XP Home	Windows® XP Home
Windows® XP Professional	Windows® XP Professional
Windows® Server 2003 - Standard, Enterprise	Windows® Server 2003 - Standard, Enterprise



デュアルコア CPU の取り付けの際は、システムの安定性のため、ケースファンケーブルを CHA_FAN 1 コネクタに接続してください。

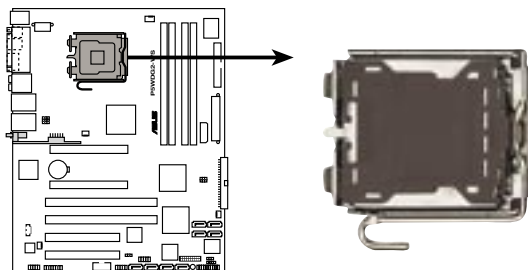


- マザーボードをご購入後、ソケットキャップがソケットに付いていること、ソケットピンが曲がっていないことを確認してください。ソケットキャップがないときや、ソケットキャップ/ソケットピン/マザーボードコンポーネントが破損しているときは、直ちに販売店にご連絡ください。これらの損傷が出荷時もしくは輸送中に発生した場合にはASUSは無償で修理いたします。
- マザーボードを取りつけた後も、ソケットキャップを保管してください。このソケットキャップが装着されている場合のみ ASUS は RMA (保証サービス) を提供します。
- 製品の保証は、CPUやソケットキャップの間違った取り付け・取り外しや、ソケットキャップの紛失に起因する故障、不具合には適用されません。

2.3.1 CPUを取り付ける

手順

1. マザーボードのCPUソケットの位置を確認します。

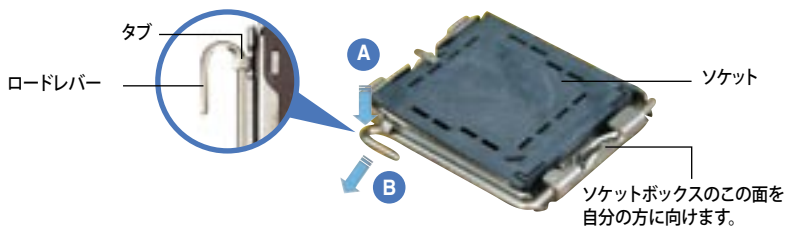


P5WDG2-WS CPU Socket 775



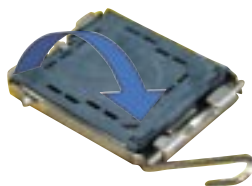
CPUを取り付ける前にCPUソケットを手前に向け、ロードレバーが向かって左側にあることを確認してください。

2. 親指でロードレバーを押し(A)、タブから外れるまで左に動かします(B)。

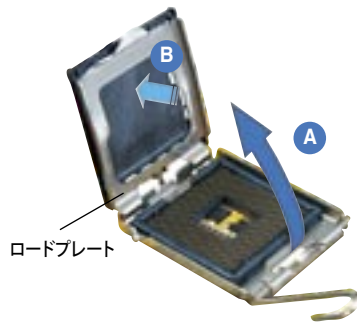


ソケットピンの損傷防止のため、ソケットキャップはCPUを取り付けるまで外さないでください。

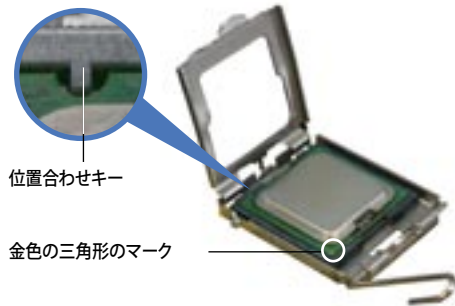
3. 矢印の方向に135°ほどロードレバーを持ち上げます。



4. ロードプレートを親指と人差し指で100°ほど持ち上げ(A)、ロードプレートウィンドウからソケットキャップを押し取ります(B)。



5. CPU にかかれている金色の三角形がソケット、ソケットの左下隅になるようにCPUをソケットの上に載せます。このとき、ソケットの位置合わせキーは、CPUの溝にぴったりあわせる必要があります。



CPU は一方方向にのみぴったり合うようになっています。CPU をソケットに無理に押し込まないでください。ソケットのコネクタが曲がったり、CPU が破損したりする原因となります。

6. ロードプレート(A)を閉じ、ロードレバー(B)がタブに収まるまで押します。
7. デュアルコア CPU の取り付けの際は、システムの安定性のため、ケースファンケーブルを CHA_FAN 1 コネクタに接続してください。



本製品は Intel® Enhanced Memory 64 Technology (EM64T), Enhanced Intel SpeedStep® Technology (EIST), Hyper-Threading Technology を搭載した Intel® Pentium® 4 LGA775 プロセッサをサポートしています。詳細は「参考」をご覧ください。

2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける

Intel® Pentium® 4 LGA775 プロセッサ用に、特別に設計されたヒートシンクとファンを組み合わせて、効率的な冷却を行いCPU パフォーマンスを引き出します。



- 箱入りの Intel® Pentium® 4 プロセッサを購入した場合、パッケージにはヒートシンクとファンが入っています。CPU のみをお求めになった場合、Intel® が認定したマルチディレクションヒートシンクとファンを必ずご使用ください。
- Intel® Pentium® 4 LGA775 用のヒートシンクとファンにはプッシュピンデザインが採用されており、取り付けの際に特別な工具は必要ありません。
- CPU ヒートシンクとファンを別々にお買い求めになった場合は、ヒートシンクとファンを取り付ける前に、サーマルインターフェースがCPU ヒートシンクやCPU に正しく設置されていることを確認してください。



CPUファンとヒートシンクを取り付ける前に、ケースにマザーボードを取り付けてください。

ヒートシンクとファンの取り付け手順

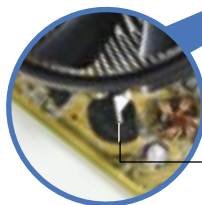
1. 4つのファスナーがマザーボードの穴の位置と合っていることを確認しながら、ヒートシンクをCPUの上に置きます。



CPUファンケーブルとCPUファンコネクタをできるだけ近づけて、ヒートシンクとファンを配置してください。



マザーボードの穴
ファスナー

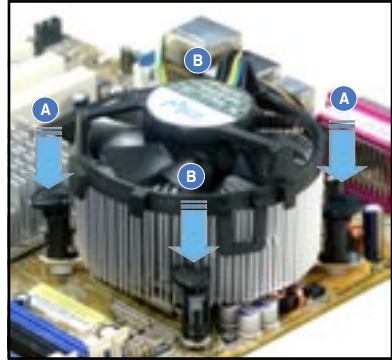
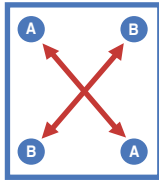


溝の細い方

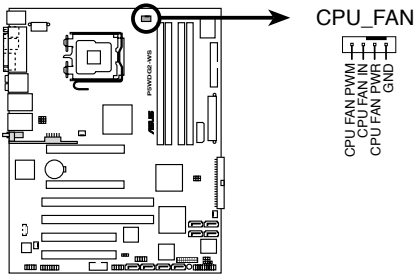


それぞれの留め具の溝の細い方が外側に向いていることを確認してください。(写真は、溝に陰影を付けて強調しています)

2. 対角線上にある2つのファスナーを同時に押し下げ、ヒートシンクとファンを正しい場所に固定します。



3. CPUファンのケーブルをCPU_FANと表示されたコネクタに接続します。



P5WDG2-WS CPU fan connector

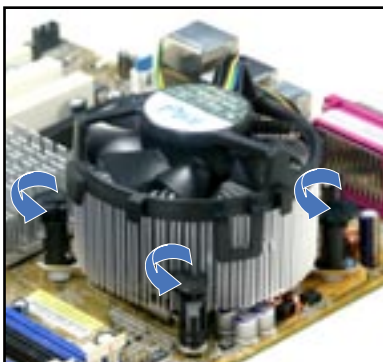


CPUファンのケーブルを接続するのを忘れないでください。ハードウェアのモニタリングエラーが発生することがあります。

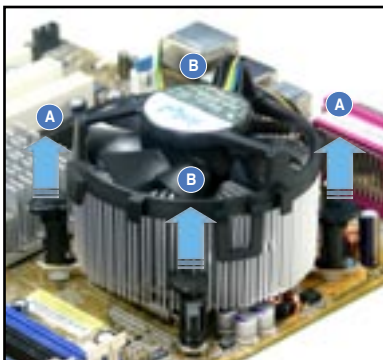
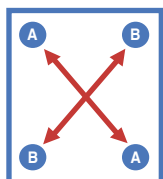
2.3.3 CPUからヒートシンクとファンを取り外す

手順

1. マザーボードのコネクタからCPUファンのケーブルを抜きます。
2. 各ファスナーを左へ回します。



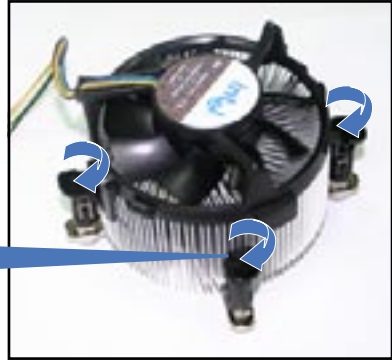
3. 対角線上の2つのファスナーを同時に引き抜いて、マザーボードからヒートシンクとファンを外します。



4. マザーボードからヒートシンクとファンを慎重に取り外します。



5. 再び取り付ける際には、ファスナーを右方向に回し、ファスナーの方向が正しいことを確認します。



再び取り付けた後は、溝の細い方が外側を向いている必要があります。(写真は、溝に陰影を付けて強調しています)

溝の細い方



ファンの取り付けに際しては、CPUファンに付属の説明書などをお読みください。

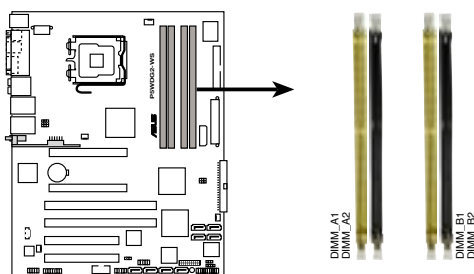
2.4 システムメモリ

2.4.1 概要

本製品には DDR2 デュアルインラインメモリソケットが 4 つ搭載されています。

DDR2メモリは DDR メモリと同様の大きさですが、240ピンです (DDR メモリは184ピン)。DDR2 DIMM は DDR DIMMのソケットに取り付けることができないように、異なるノッチが付けられています。

次の図は、ソケットの場所を示しています。



P5WDG2-WS 240-pin DDR2 DIMM sockets

チャンネル	ソケット
Channel A	DIMM_A1 と DIMM_A2
Channel B	DIMM_B1 と DIMM_B2

2.4.2 メモリ構成

以下の構成で、256MB、512MB、1GB、2 GBの DDR2 に対応した non-ECC Unbuffered メモリをメモリスロットに取り付けることができます。



- デュアルチャンネルを使用するには、各チャンネルに取り付けるメモリの総容量は同じでなければなりません。
 $\text{DIMM_A1} + \text{DIMM_A2} = \text{DIMM_B1} + \text{DIMM_B2}$
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。また、メモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。QVL (Qualified Vendor List: 推奨ベンダーリスト) はページ 2-16 に記載しました。なお、最新のQVLはASUSのWebサイトで (<http://www.asus.co.jp/>) ご確認ください。
- チップセットのリソース割り当ての制限により、2 GBの DDR 2 メモリを 4 枚取り付けても、システムは 8 GB以下のシステムメモリしか認識しないことがあります。
- 128Mbのメモリチップ、ダブルサイドで16個のメモリチップを搭載したメモリをサポートしていません。



Windows® XP 32bit バージョンに関する注記

OS の制限により、システムデバイスにメモリスペースが割り当てられます。Windows XP 32bit バージョンのOSをインストールしている場合は、合計 3 MB未満のシステムメモリを取り付けることをお勧めします。それ以上のメモリを取り付けても使用上の問題はありますが、利点はありません。

詳細は ASUS の FAQ サイトをご覧ください (日本語の記載あり)。

<http://support.asus.com/faq/faq.aspx?SLanguage=en-us>
一般検索から、右下の図のように選択し、検索をクリック。表示された記事の中から「4GB メモリを取り付けても、検出されるメモリサイズが4GBに満たない問題」という記事をご覧ください。



また、下のURLから、サードパーティの記事を見ることが出来ます (英語)。

http://dlsvr01.asus.com/pub/ASUS/mb/4GB_Rev1.pdf

<http://www.intel.com/support/motherboards/server/sb/cs-016594.htm>



メモリの制限に関する注記

- チップセットの制限のため、本マザーボードは下に記載したOSで8 GB まで対応しています。各スロットに最高 2 GB のメモリを取り付けることができますが、DDR2-533 2 GB のモジュールしか取り付けることができません。

32-bit	64-bit
Windows® 2000 Advanced Server	Windows® Server 2003 Standard x64 Edition
Windows® Server 2003 Enterprise Edition	Windows® XP Professional x64 Edition
	Windows® Server 2003 Enterprise x64 Edition

- 以前のバージョンの DDR2-667 DIMM には、Intel[®] の On-Die-Termination (ODT) の要求に合わないものもあり、自動的にダウングレードし、DDR2-533 で動作します。このような場合は、メモリの販売店に ODT の値をお問い合わせください。
- チップセットの制限により、DDR2-667 (CL=4) はダウングレードし、デフォルトで DDR2-533 で動作します。低いレイテンシで動作させたい場合は、メモリのタイミングを手動で調整してください。
- チップセットの制限により、DDR2-533 (CL=3) はダウングレードし、デフォルトで DDR2-400 で動作します。低いレイテンシで動作させたい場合は、メモリのタイミングを手動で調整してください。

QVL (推奨ベンダーリスト)

DDR2-800 MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	ブランド	サイド	パーツ No.	メモリ サポート			
						CL	A	B	C
512 MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	-	SS	KHX6400D2/512	-	•	•	•
256 MB	SAMSUNG	K4T56083QF-ZCE7	-	SS	M378T3253FZ3-CE7	-	•	•	•
256 MB	SAMSUNG	K4T56083QF-ZCE7(ECC)	-	SS	M391T3253FZ3-CE7	-	•	•	•
512 MB	SAMSUNG	EDD339XX	-	SS	M378T6553CZ0-CE7	-	•	•	•
512 MB	Infinion	HYB18T256800AF25	-	DS	HYS64T64520HU-2.5-A	-	•	•	•
512 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-S6	-	SS	HYMP564U64AP8-S6	-	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-S6	-	DS	HYMP512U64AP8-S6	-	•	•	•
512 MB	MICRON	5JAIJ9DQQ	-	SS	MT8HTF6464AY-80EA3	-	•	•	•
1024 MB	MICRON	5JAIJ9DQQ	-	DS	MT16HTF12864AY-80EA3	-	•	•	•
512 MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	-	SS	CM2X512A-6400	-	•	•	•
256 MB	A-DATA	E2508AB-GE-E	-	SS	M20EL6F3G3170A1D0Z	-	•	•	•
256 MB	A-DATA	E2508AB-GE-E	-	SS	M20EL6F3G3160A1D0Z	-	•	•	•
256 MB	A-DATA	E2508AB-GE-E	-	SS	M20EL6F3G3160A1D0Z	-	•	•	•
512 MB	A-DATA	E2508AB-GE-E	-	DS	M20EL6F3H4170A1D0Z	-	•	•	•
256 MB	Apacer	E2508AB-GE-E	-	SS	78.81091.420	-	•	•	•
512 MB	Apacer	E2508AB-GE-E	-	DS	78.91091.420	-	•	•	•
256 MB	TwinMOS	E2508AB-GE-E	-	SS	8G-24K2-EBT	-	•	•	•
512 MB	OCZ	Heat-Sink Package	-	SS	OCZ28001024EBDCPE-K	-	•	•	•

DDR2-667 MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	ブランド	サイド	パーツ No.	メモリ サポート			
						CL	A	B	C
512 MB	KINGSTON	E5108AE-6E-E	-	SS	KVR667D2N5/512	-	•	•	•
1024 MB	KINGSTON	E5108AE-6E-E	-	DS	KVR667D2N5/1G	-	•	•	•
512 MB	KINGSTON	E5108AE-6E-E	-	SS	KVR667D2N5/512	-	•	•	•
1024 MB	KINGSTON	E5108AE-6E-E	-	DS	KVR667D2N5/1G	-	•	•	•
512 MB	KINGSTON	E5108AE-6E-E	-	SS	KVR667D2E5/512	-	•	•	•
256 MB	KINGSTON	HYB18T256800AF3	-	SS	KVR667D2N5/256	-	•	•	•
256 MB	SAMSUNG	K4T56083QF-ZCE6	-	SS	M378T3253FZ0-CE6	-	•	•	•
512 MB	SAMSUNG	K4T56083QF-ZCE6	-	DS	M378T6453FZ0-CE6	-	•	•	•
256 MB	SAMSUNG	K4T56083QF-ZCE6(ECC)	-	SS	M391T3253FZ0-CE6	-	•	•	•
512 MB	SAMSUNG	K4T56083QF-ZCE6(ECC)	-	DS	M391T6453FZ0-CE6	-	•	•	•
256 MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE6	-	SS	M378T3354CZ0-CE6	-	•	•	•
512 MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	-	SS	M378T6553CZ0-CE6	-	•	•	•
1024 MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	-	DS	M378T2953CZ0-CE6	-	•	•	•
256 MB	MICRON	45B42D9CZM	-	SS	MT8HTF3264AY-667B5	-	•	•	•
512 MB	MICRON	4VB41D9CZM	-	DS	MT16HTF6464AY-667B4	-	•	•	•
256 MB	MICRON	5FB429DPN	-	SS	MT8HTF3264AY-667B6	-	•	•	•
256 MB	Infinion	HYB18T512160AF-3S	-	SS	HYS64T3200HU-3S-A	-	•	•	•
512 MB	Infinion	HYB18T512800AF3S	-	SS	HYS64T6400HU-3S-A	-	•	•	•
1024 MB	Infinion	HYB18T512800AF3S	-	DS	HYS64T128020HU-3S-A	-	•	•	•
256 MB	Infinion	HYB18T256800AF3S(ECC)	-	SS	HYS72T3200HU-3S-A	-	•	•	•
512 MB	Infinion	HYB18T512800AF3S(ECC)	-	SS	HYS72T6400HU-3S-A	-	•	•	•

(次項に続く)

DDR2-667 MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	ブランド	サイド	パーツ No.	メモリサポート				
						CL	A	B	C	
1024 MB	Infineon	HYB18T512800AF3S(ECC)	-	DS	HYS72T128020HU-3S-A	-	•	•	•	•
512 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y5	-	SS	HYMP564U64AP8-Y5	-	•	•	•	
1024 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y5	-	DS	HYMP512U64AP8-Y5	-	•	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS1G831FP-Y5(ECC)	-	SS	HYMP112U72P8-Y5	-	•	•	•	•
512 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y5(ECC)	-	SS	HYMP564U72AP8-Y5	-	•	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y5(ECC)	-	DS	HYMP512U72AP8-Y5	-	•	•	•	•
512 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y4	-	SS	HYMP564U64AP8-Y4	-	•	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y4	-	DS	HYMP512U64AP8-Y4	-	•	•	•	
512 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y4(ECC)	-	SS	HYMP564U72AP8-Y4	-	•	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y4(ECC)	-	DS	HYMP512U72AP8-Y4	-	•	•	•	•
256 MB	ELPIDA	E2508AB-GE-E	-	SS	EBE25UC8ABFA-6E-E	-	•	•	•	
512 MB	ELPIDA	E5108AE-GE-E	-	SS	EBE51UD8AEFA-6E-E	-	•	•		
1024 MB	ELPIDA	Engineering Sample	-	DS	EBE11U08AEFA-6E-E	-	•	•		
256 MB	crucial	Heat-Sink Package	-	SS	BL3264AA664.8FB	-	•	•	•	•
512 MB	crucial	Heat-Sink Package	-	DS	BL6464AA664.16FB	-	•	•	•	
1024 MB	crucial	Heat-Sink Package	-	DS	BL12864AA664.16FA	-	•	•	•	•
512 MB	crucial	Heat-Sink Package	-	DS	BL6464AL664.16FB	-	•	•	•	
1024 MB	crucial	Heat-Sink Package	-	DS	BL12864AL664.16FA	-	•	•	•	
512 MB	Kingmax	E5108AE-6E-E	-	SS	KLCC28F-A8EB5	-	•	•		
1024 MB	Kingmax	E5108AE-6E-E	-	DS	KLCD48F-A8EB5	-	•	•	•	•
512 MB	Apacer	E5108AE-6E-E	-	SS	78.91092.420	-	•	•	•	
1024 MB	Apacer	E5108AE-6E-E	-	DS	78.01092.420	-	•	•	•	•
512 MB	A-DATA	E5108AE-6E-E	-	SS	M20EL5G3H3160B1COZ	-	•	•	•	
512 MB	TwinMOS	E5108AE-6E-E	-	SS	8G-25JK5-EBT	-	•	•	•	
512 MB	GEIL	Heat-Sink Package	-	SS	GX21GB5300UDC	-	•	•	•	
512 MB	GEIL	Heat-Sink Package	-	SS	GX21GB5300DC	-	•	•	•	
256 MB	NANYA	NT5TU32M16AG-3C	-	SS	NT256T64UH4A0FY-3C	-	•	•	•	
512 MB	NANYA	NT5TU64M8AE-3C	-	SS	NT512T64U88A0BY-3C	-	•	•	•	
512 MB	OCZ	Heat-Sink Package	-	SS	OCZ26671024EBDCPE-K	-	•	•	•	
1024 MB	OCZ	Heat-Sink Package	-	DS	OCZ26672048EBDCPE-K	-	•	•	•	
1024 MB	PQI	E5108AE-5C-E	-	DS	MEAD-403LA	-	•	•	•	
512 MB	WINTEC	4UAI2D9CRZ	-	SS	39127282	-	•	•	•	
1024 MB	WINTEC	4WAIID9CWX	-	DS	39137282	-	•	•	•	
512 MB	MDT	18D51280D-30518	-	SS	M512-667-8	-	•	•	•	
1024 MB	MDT	18D51280D-30528	-	DS	M924-667-16	-	•	•	•	

サイド: SS - シングルサイド DS - ダブルサイド

メモリサポート

- A- シングルチャンネルメモリ構成で、1枚のモジュールをサポート。
- B- デュアルチャンネルメモリで、2枚のモジュールをサポート。
- C- デュアルチャンネルメモリ構成で、4枚のモジュールをサポート。



最新の DDR2-800/667 MHz QVLはASUSのWebサイト(<http://www.asus.co.jp/>)をご覧ください。

DDR2-533 MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	ブランド	サイド	パーツ No.	メモリスポート			
						CL	A	B	C
256 MB	KINGSTON	E5116AB-5C-E	-	SS	KVR533D2N4/256	-	•	•	•
512 MB	KINGSTON	HY5PS56821F-C4	-	DS	KVR533D2N4/512	-	•	•	•
1024 MB	KINGSTON	D6408TE7BL-37	-	DS	KVR533D2N4/1G	-	•	•	•
2048 MB	KINGSTON	E1108AA-5C-E	-	DS	KVR533D2N4/2G	-	•	•	•
512 MB	SAMSUNG	K4T51083QB-GCD5	-	SS	M378T6553BG0-CD5	-	•	•	•
256 MB	SAMSUNG	K4T56083QF-GCD5	-	SS	M378T3253FG0-CD5	-	•	•	•
512 MB	SAMSUNG	K4T56083QF-GCD5	-	DS	M378T6453FG0-CD5	-	•	•	•
512 MB	SAMSUNG	K4T56083QF-GCD5(ECC)	-	DS	M391T6453FG0-CD5	-	•	•	•
1024 MB	SAMSUNG	K4T51083QB-GCD5(ECC)	-	DS	M391T2953BG0-CD5	-	•	•	•
512 MB	MICRON	4FBID9BQM	-	DS	MT16HTF6464AG-53E82	-	•	•	•
256 MB	MICRON	4DBIZ9BQT	-	SS	-	-	•	•	•
256 MB	MICRON	4FBID9CHM	-	SS	MT8HTF3264AY-53E83	-	•	•	•
512 MB	MICRON	4FBIID9CHM	-	DS	MT16HTF6464AY-53E82	-	•	•	•
1024 MB	MICRON	4MAIID9CRZ(ECC)	-	DS	MT18HTF12872AY-53EA1	-	•	•	•
512 MB	Infineon	HYB18T512800AF3(ECC)	-	SS	HYS72T64000HU-3.7-A	-	•	•	•
512 MB	Infineon	HYB18T512800AC37	-	SS	HYS64T64000GU-3.7-A	-	•	•	•
256 MB	Infineon	HYB18T512160AF-3.7	-	SS	HYS64T32000HU-3.7-A	-	•	•	•
512 MB	Infineon	HYB18T512800AF37	-	SS	HYS64T64000HU-3.7-A	-	•	•	•
1024 MB	Infineon	HYB18T512800AF37	-	DS	HYS64T128020HU-3.7-A	-	•	•	•
2048 MB	Infineon	HYB18T1G800AF-3.7	-	DS	HYS64T256020HU-3.7-A	-	•	•	•
256 MB	Infineon	HYB18T5121608BF-3.7	-	SS	HYS64T32000HU-3.7-B	-	•	•	•
512 MB	Infineon	HYB18T512800BF37	-	SS	HYS64T64000HU-3.7-B	-	•	•	•
1024 MB	Infineon	HYB18T512800BF37	-	DS	HYS64T128020HU-3.7-B	-	•	•	•
512 MB	Hynix	HY5PS12821F-C4	-	SS	HYMP564U648-C4	-	•	•	•
512 MB	Hynix	HY5PS12821F-C4(ECC)	-	SS	HYMP564U728-C4	-	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS12821F-C4	-	DS	HYMP512U648-C4	-	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS12821F-C4(ECC)	-	DS	HYMP512U728-C4	-	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS12821F-E3(ECC)	-	DS	HYMP512U728-C4	-	•	•	•
512 MB	Hynix	HY5PS12821FP-C4(ECC)	-	SS	HYMP564U728-C4	-	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS12821FP-C4	-	DS	HYMP512U648-C4	-	•	•	•
512 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-C3	-	SS	HYMP564U64AP8-C3	-	•	•	•
1024 MB	Hynix	HY5PS12821AFP-C3	-	DS	HYMP512U64AP8-C3	-	•	•	•
512 MB	ELPIDA	E5108AB-5C-E(ECC)	-	SS	EBE51ED8ABFA-5C-E	-	•	•	•
512 MB	ELPIDA	E5108AB-5C-E	-	SS	EBE51UD8ABFA-5C	-	•	•	•
512 MB	ELPIDA	E5108AB-5C-E	-	SS	EBE51UD8ABFA-5C-E	-	•	•	•
1024 MB	ELPIDA	E5108AB-5C-E	-	DS	EBE11UD8ABFA-5C-E	-	•	•	•
2048 MB	ELPIDA	E1108AA-5C-E	-	DS	EBE21EE8AFA-5C-E	-	•	•	•
256 MB	CORSAIR	MII0051832M8CEC	-	SS	VS256MB533D2	-	•	•	•
512 MB	CORSAIR	MI110052432M8CEC	-	DS	V5512MB533D2	-	•	•	•
256 MB	Apacer	E5116AB-5C-E	-	SS	78.81077.420	-	•	•	•
512 MB	Apacer	-	-	SS	73.963B3.800	-	•	•	•
256 MB	crucial	Heat-Sink Package	-	SS	BL3264AA53V.8FB	-	•	•	•
512 MB	crucial	Heat-Sink Package	-	DS	BL6464AA53V.16FB	-	•	•	•
256 MB	KINGMAX	E5116AB-5C-E	-	SS	KLBB68F-36EP4	-	•	•	•
512 MB	KINGMAX	E5108AE-5C-E	-	SS	KLBC28F-A8EB4	-	•	•	•
1024 MB	KINGMAX	E5108AE-5C-E	-	DS	KLBD48F-A8EB4	-	•	•	•
512 MB	Transcend	K4T51083QB-GCD5	-	SS	TS64MLQ64V5J	-	•	•	•
1024 MB	Transcend	K4T51083QB-GCD5	-	DS	TS128MLQ64V5J	-	•	•	•
256 MB	CENTURY	K4T56083QF-GCD5	-	SS	25V6S85SD5F4-K43	-	•	•	•

(次項に続く)

DDR2-533 MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	ブランド	サイド	パーツ No.	メモリサポート			
						CL	A	B	C
512 MB	CENTURY	E5108AB-5C-E	-	SS	25V2H8EL5CB4-J43	-	-	-	-
1024 MB	CENTURY	E5108AB-5C-E	-	DS	25V0H8EL5CB4-J45	-	-	-	-
1024 MB	CENTURY	E5108AB-5C-E	-	DS	25V0H8EL5C	-	-	-	-
256 MB	elixir	N2TU51216AF-37B	-	SS	M2U25664TUH4A0F-37B	-	-	-	-
512 MB	elixir	N2TU51280AF-37B	-	SS	M2U51264TU88A0F-37B	-	-	-	-
256 MB	Aeneon	AET960UD00-37C88X	-	SS	AET560UD00-370A98X	-	-	-	-
512 MB	Aeneon	AET960UD00-37C88X	-	SS	AET660UD00-370A98X	-	-	-	-
512 MB	Aeneon	AET93F370AG0513	-	SS	AET660UD00-370A98X	-	-	-	-
256 MB	Aeneon	AET94F370A	-	SS	AET560UD00-370A98Z	-	-	-	-
256 MB	Aeneon	AET94F370A	-	SS	AET560UD00-370A98X	-	-	-	-
512 MB	Aeneon	AET93F370A	-	SS	AET660UD00-370A98Z	-	-	-	-
512 MB	Aeneon	AET93F370A	-	SS	AET660UD00-370A98X	-	-	-	-
512 MB	Aeneon	AET93F370	-	SS	AET660UD00-370A98X	-	-	-	-
256 MB	NANYA	NT5TU32M16AF-37B	-	SS	NT256T64UH4A0F-37B	-	-	-	-
512 MB	NANYA	NT5TU64M8AF-37B	-	SS	NT512T64U88A0F-37B	-	-	-	-
512 MB	NANYA	NT5TU64M8AF-37B(ECC)	-	SS	NT512T72U89A0F-37B	-	-	-	-
1024 MB	NANYA	NT5TU64M8AF-37B	-	DS	NT1GT64U8HA0F-37B	-	-	-	-
1024 MB	PQI	64MX8D2-E	-	DS	MEAB-323LA	-	-	-	-
512 MB	PQI	64MX8D2-E	-	SS	MEAB-423LA	-	-	-	-
512 MB	TwinMOS	K4T51083QB-GCD5	-	SS	8D-22J85-K2T	-	-	-	-
256 MB	SimpleTech	858S032F25A	-	SS	SVM-42DR2/256	-	-	-	-
512 MB	SimpleTech	858S064F25A	-	DS	SVM-42DR2/512	-	-	-	-
1024 MB	Patriot	Heat-Sink Package	-	SS	PDC21G5600+XBLK	-	-	-	-
512 MB	MDT	18D51280D-3.70S20	-	SS	M512-533-8	-	-	-	-
1024 MB	MDT	18D51280D-3.70448	-	DS	M924-533-16	-	-	-	-

サイド: SS - シングルサイド DS - ダブルサイド

メモリサポート

- A- シングルチャンネルメモリ構成で、1枚のモジュールをサポート。
- B- デュアルチャンネルメモリで、2枚のモジュールをサポート。
- C- デュアルチャンネルメモリ構成で、4枚のモジュールをサポート。



最新のDDR2-533 MHz QVLはASUSのWebサイト(<http://www.asus.co.jp/>)をご覧ください。

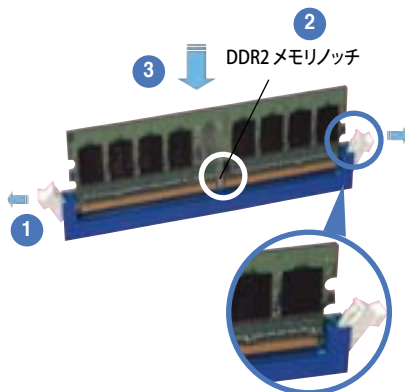
2.4.3 メモリを取り付ける



メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

手順

1. 保持クリップを外側に押して、メモリソケットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがソケットの切れ目に一致するように、メモリをソケットに合わせます。
3. 保持クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをソケットにしっかり押し込みます。



ロック解除された保持クリップ



- DDR2 メモリは、取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にソケットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。
- DDR2 メモリのソケットは DDR メモリをサポートしていません。DDR2 メモリのソケットに DDR メモリを取り付けしないでください。

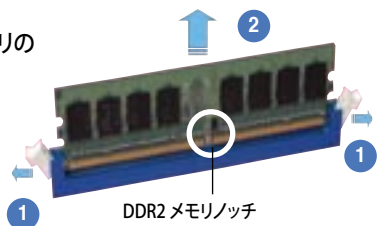
2.4.4 メモリを取り外す

手順

1. 保持クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



保持クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っばります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。



2. ソケットからメモリを取り外します。

2.5 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに書かれている拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードを追加したり取り外したりする前に、電源コードを抜いていることを確認してください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷をしたり、マザーボードコンポーネントが損傷したりする恐れがあります。

2.5.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

2.5.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter 2 をご覧ください。
2. IRQ (割り込み要求) 番号をカードに合わせます。次のページの表を参照してください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。



PCI カードをシェアスロットに挿入する際は、ドライバが、Share IRQ (IRQの共有) をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないこと、を確認してください。2つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなります。詳細は次のページの表をご覧ください。

2.5.3 割り込み割り当て

標準の割り込み割り当て

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマー
1	2	キーボードコントローラ
2	—	IRQ#9にリダイレクト
3	11	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
4	12	通信ポート(COM1)*
5	13	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7	15	プリンタポート(LPT1)*
8	3	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	4	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
10	5	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
11	6	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	7	PS/2 互換マウスポート*
13	8	数値データプロセッサ
14	9	プライマリ IDE チャンネル
15	10	セカンダリ IDE チャンネル

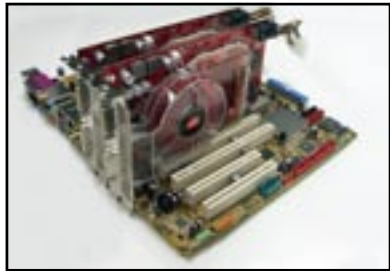
* 上の IRQ は通常、ISA または PCI デバイスで使用されています。

割り込み割り当て

	A	B	C	D	E	F	G	H
PCI スロット 1	—	—	—	—	—	共有	—	—
PCI スロット 2	—	—	—	—	—	—	共有	—
PCIX スロット 1	—	—	共有	—	—	—	—	—
PCIX スロット 2	—	—	—	共有	—	—	—	—
オンボード SATA	共有	—	—	—	—	—	—	—
オンボード 1394	—	—	—	—	—	共有	—	—
オンボード LAN 1/2	共有	—	—	—	—	共有	—	—
PCIe x16 1	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCIe x16 2	共有	—	—	—	—	—	—	—
USB コントローラ 1	共有	—	—	—	—	—	—	—
USB コントローラ 2	—	共有	—	—	—	—	—	—
USB コントローラ 3	—	—	共有	—	—	—	—	—
USB コントローラ 4	—	—	—	共有	—	—	—	—
USB 2.0 コントローラ	共有	—	—	—	—	—	—	—
Serial ATA	—	共有	—	—	—	—	—	共有
HD オーディオ	共有	—	—	—	—	—	—	—

2.5.4 PCI Express x16 スロット

PCI Express 規格準拠のATI CrossFire™ PCI Express x16 ビデオカードを2枚取り付けることができます。写真はビデオカードを2枚挿入したものです。



- CrossFire™ モードでは、マスターのカードを PCIEX16_1 (ブルーのスロット) に挿してください。各 PCI Express x16 スロットのバンド幅は x8 です。
- シングルカードモードでは、バンド幅を x16 にするためビデオカードを PCIEX16_1 (ブルーのスロット) に挿してください。PCIEX16_2 (ブラック) に挿すと、バンド幅は x8 となります。
- 電源が20ピン ATX 電源でビデオカードを2枚使用する場合、またはビデオカードに補助電源プラグがない場合は、EZ Plug™ を接続してください。

2.5.5 PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 仕様対応のカードをサポートしています。写真は LAN カードを取り付けたものです。



2.5.6 PCI-X スロット

LAN カードや SCSI カード、USB カード等の PCI-X 1.0 規格準拠のカードをサポートしています。写真は RAID カードを取り付けたものです。



推奨 PCI Express x16 ビデオカード

モデル	ドライババージョン	OS	状態	チップセット
Abit RX600XT-PCIE Rev. B (BIOS: V008.015)	V6.14.10.7801	Windows® 2000 Pro	Pass	ATI Radeon X600XT
Albatron PCX5750 (BIOS: V4.36.20.38)	V6.14.10.7801	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce PCX5750
Albatron PC6200 (BIOS: V5.43.02.27)	V6.14.10.7801	Windows® 2000 Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6200
Albatron PC6600GT (BIOS: V5.43.02.16)	V6.14.10.7801	Windows® 2000 Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6600GT
ASUS EAX300 Rev. V1.00 (BIOS: V5b60.8.15.117.0)	V6.14.10.6525	Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X300
ASUS EAX300SE Rev. V1.00 (BIOS: V5b60.8.15.117.0)	V8.172.0.0	Windows® XP Pro (Chinese-Traditional)	Pass	ATI Radeon X300SE
ASUS EAX300SE-HM128 Rev. V1.00 (BIOS: V008.015.128.000)	V6.14.10.6546	Windows® XP Home	Pass	ATI Radeon X300SE (Hyper Memory)
ASUS EAX300SE-X Rev. V1.00 (BIOS: V008.015.117.000)	V6.14.10.6553	Windows® 2003 Standard	Pass	ATI Radeon X300SE
ASUS EAX550GE 256M (BIOS: V5b60.8.15.139. AS01) V6.14.10.6546		Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X550
ASUS EAX600XT Rev. V1.02 (BIOS: V113-AA20306-100-AS)	V6.14.10.6546	Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X600XT
ASUS EAX700 (BIOS: V5E4D.9.7.1.3. A901)	V6.14.10.6525	Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X700
ASUS EAX700-X 128M Rev. V1.00a (BIOS: V009.008.001.004)	V6.14.10.6546	Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X700LE
ASUS EAX700LE 128M (BIOS: V5E4D.9.8.1.4. AS13)	V6.14.10.6546	Windows® XP Home	Pass	ATI Radeon X700LE
ASUS EAX700PRO Rev. V1.00 (BIOS: V113-AA.30602-100)	V6.14.10.6546	Windows® XP Pro (Chinese-Traditional)	Pass	ATI Radeon X700PRO
ASUS EAX800 (BIOS: V554F.9.7.1.AS02)	V8.172.0.0	Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X800
ASUS EAX800PRO Rev. V1.00 (BIOS: V5549.9.4.1.10.AS)	V8.172.0.0	Windows® 2000 Pro	Pass	ATI Radeon X800PRO
ASUS EAX800XL Rev. V1.00 (BIOS: V554D.9.7.1.AS02)	V8.172.0.0	Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X800XL
ASUS EAX800XT Rev. V1.00 (BIOS: V5D57.9.4.1.8.AS)	V6.14.10.6553	Windows® 2003 Standard	Pass	ATI Radeon X800XT
ASUS EAX850PRO (BIOS: V5D4F.9.7.1.4.AS02)	V8.172.0.0	Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X850PRO
ASUS EAX850XT 256MB Rev. PN: 109-A47401-10 (BIOS: V009.007.001.004)	V6.14.10.6553	Windows® 2003 Standard	Pass	ATI Radeon X850XT
ASUS EAX850XT PE Rev. PN: 109-A47401-10 (BIOS: V009.007.001.004)	V6.14.10.6546	Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X850XT PE
ASUS EN5750/128 Rev. 1.01 (BIOS: V04.32.20.38.00)	V6.14.10.7801	Windows® 2000 Pro	Pass	nVIDIA GeForce PCX5750

(次項に続く)

推奨 PCI Express x16 ビデオカード

モデル	ドライババージョン	OS	状態	チップセット
ASUS EN5900 Rev. 1.01 (BIOS: V04.35.20.45)	V6.14.10.7189	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce PCX5900
ASUS EN6200GE Rev V1.00A (BIOS: V5.43.02.27.AS07)	V6.14.10.7189	Windows® 2003 Standard	Pass	nVIDIA GeForce 6200
ASUS EN6200TC128/T/16M Rev V1.01 (BIOS: V5.44.02.11)	V6.14.10.7777	Windows® XP-64 Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6200 (with Turbo cache)
ASUS EN6600 128M Rev V1.00A (BIOS: V5.43.02.61)	V6.14.10.7801	Windows® XP Home	Pass	nVIDIA GeForce 6600
ASUS EN6600 256M Rev V1.00A (BIOS: V5.43.02.16.AS11)	V6.14.10.7777	Windows® XP-64 Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6600
ASUS EN6600GT Rev. V1.00 (BIOS: V5.43.02.16.AS27)	V6.14.10.7189	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6600GT
ASUS EN6800LE Rev. V1.00 (BIOS: V5.41.02.34.AS01)	V6.14.10.7801	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6800LE
ASUS EN6800GT Rev. V1.02 (BIOS: V5.40.02.26.AS05)	V6.14.10.7801	Windows® XP Home	Pass	nVIDIA GeForce 6800GT
ASUS EN6800ULTRA (BIOS: V5.40.02.32.AS07)	V6.14.10.7189	Windows® 2003 Standard	Pass	nVIDIA GeForce 6800ULTRA
ASUS EN7800GT 256MB Rev: V1.00 (BIOS: V5.70.02.13.AS01)	V6.14.10.7189	Windows® 2003 Standard	Pass	nVIDIA GeForce 7800GT
ASUS EN7800GTX 256MB (BIOS: V5.70.02.11.01)	V6.14.10.7801	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce 7800GTX
ELSA FalcoX X85 XT 256B3 DTV Rev: PN: 109 A47401-10 (BIOS: 009.007.001.004)	V6.14.10.6546	Windows® XP Pro (Chinese-Traditional)	Pass	ATI Radeon X850 XT
ELSA Gladiac PCX 935 Rev. W01-46W53 (BIOS: V4.35.20.45.E0)	V6.14.10.7189	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce PCX5900
ELSA Gladiac 620TC 128T DVT Rev. 1A (BIOS: V5.44.02.11.E1)	V6.14.10.7801	Windows® 2000 Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6200 (with Turbo cache)
ELSA Gladiac 660GT 128MB3 Rev: 2B (BIOS: V5.43.02.46.E1)	V6.14.10.7189	Windows® 2003 Standard	Pass	nVIDIA GeForce 6600GT
ELSA Gladiac 780GTX 256B3 (BIOS: V5.70.02.11.E1)	V6.14.10.7189	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce 7800GTX
Gigabyte GV-NX62TC256D8 (BIOS: V5.44.02.32)	V6.14.10.7801	Windows® 2000 Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6200TC
Gigabyte GV-NX68T256D-B Rev: B (BIOS: V5.40.02.36.09)	V6.14.10.7801	Windows® 2000 Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6800
Gigabyte GV-RX70P128D Rev: 1.1 (BIOS: V009.004.001.032)	V6.14.10.6546	Windows® XP Home	Pass	ATI Radeon X700PRO
Leadtek WinFast PX6200 TD Rev. A1 (BIOS: V5.43.02.36.68)	V6.14.10.7189	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6200
Leadtek WinFast PX6200TC 64M Rev. A (BIOS: V5.44.02.18)	V6.14.10.7801	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6200 (with Turbo cache)

(次項に続く)

モデル	ドライババージョン	OS	状態	チップセット
Leadtek WinFast PX6600 TDH Rev. A1 (BIOS: V5.43.02.16)	V6.14.10.7801	Windows® 2000 Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6600
Leadtek WinFast PX6600GT TDH Rev. A (BIOS: V5.43.02.16)	V6.14.10.7801	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6600GT
Leadtek WinFast PX6800GT TD256M Rev. C1 (BIOS: V5.40.02.32)	V6.14.10.8185	Windows® XP-64 Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6800GT
MSI NX6600GT-TD128E Rev.V200 (BIOS: V5.43.02.16)	V6.14.10.7189	Windows® XP Pro	Pass	nVIDIA GeForce 6600GT
MSI RX600XT-TD128 Rev.V2.00 (BIOS: V8.015)	V8.172.0.0	Windows® 2000 Pro	Pass	ATI Radeon X600XT
PowerColor Radeon X800GT 256M (BIOS: V009.010.001.015)	V6.14.10.6525	Windows® XP Pro	Pass	ATI Radeon X800GT

推奨 RAID カード

SATA ディスクコントローラ

モデル	接続インターフェース	OS	状態	チップセット
タイプ: PCI				
Promise SATAII 150 TX2 Plus (BIOS: V1.00.0.28)	PCI2, PCI_X_2	Windows® XP Pro	Pass	Promise PDC20575
Promise SATAII 150 TX4 (BIOS: V1.00.0.28)	PCI1, PCI_X_1	Windows® XP Pro	Pass	Promise PDC40518

SATA RAID コントローラ

モデル	接続インターフェース	OS	状態	チップセット
タイプ: PCI				
Promise FastTrak S150 TX4 (BIOS: V1.00.0.37)	PCI2, PCI_X_1	Windows® XP Pro	Pass	Promise PDC20319
Promise FastTrak TX2200 (BIOS: V2.00.0.23)	PCI1	Windows® 2003 Standard	Pass	Promise PDC20571
Promise FastTrak TX4200 (BIOS: V2.00.0.23)	PCI_X_2	Windows® XP Pro	Pass	Promise PDC40519
タイプ: PCI-X				
Adaptec AAR2410SA (BIOS: V4.2-0)	PCI_X_2	Windows® 2003 Standard	Pass	Adaptec 2410SA

SCSI ディスクコントローラ

モデル	接続インターフェース	OS	状態	チップセット
タイプ:PCI				
Adaptec ASC-29320 Rev.C (BIOS: V4.10.1)	PCI1, PCI_X_1	Windows® 2003 Standard	Pass	AIC-7902

SCSI RAID コントローラ

モデル	接続インターフェース	OS	状態	チップセット
タイプ:PCI-X				
ASUS PXL-S30 Rev.1.04 (BIOS:V5.07.03)	PCI_X_2	Windows® XP Pro	Pass	LSI LS153C1030
Intel® SRCU42L Ultra320	PCI_X_1	Windows® XP Pro	Pass	
LSI Logic-22320	PCI_X_1	Windows® 2003 Standard	Pass	

2.6 ジャンパ

1. RTC RAMのクリア(CLRTC)

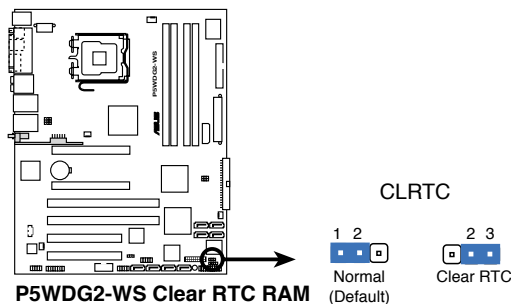
このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの保持は、マザーボードのボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. マザーボード上のボタン電池を取り外します。
3. CLRRTCのピン1-2にあるジャンパキャップをピン2-3に移動させます。5~10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。

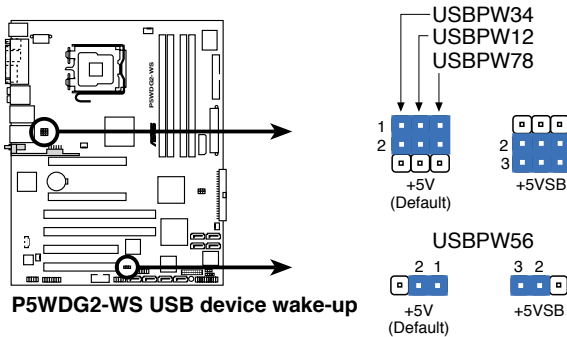


オーバークロックによりシステムがハングアップした場合は、RTC RAM をクリアする必要はありません。オーバークロックによるシステムエラーの場合、C.P.R.(CPU Parameter Recall)機能を使用してください。システムを自動的に停止して再起動すると、BIOS はパラメータ設定をデフォルト値に戻します。

2. USB デバイス ウェークアップ (3 ピン USBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)

USB デバイスを利用して、S1 スリープモード(CPU 停止、DRAM リフレッシュ、低電力モードでのシステム稼働) から復帰するには、+5V に設定します。S3 と S4 スリープモード(CPUへの電源供給がゼロの状態、スローリフレッシュ状態のDRAM、電力削減モード) から復帰するには、+5VSB に設定します。

USBPW12 と USBPW34 ジャンパはリアの USB ポート用です。USBPW56 と USBPW78 ジャンパは内部 USB コネクタ用で、追加の USB ポートを接続できます。



- USB デバイスウェイクアップ機能には、各 USB ポート用の +5VSB リード線に 500mA の電流供給ができる電源装置が必要です。それ以外ではシステムは復帰しません。
- 総消費電流は、通常の条件でもスリープモードでも、電源装置の能力(+5VSB)を超過してはいけません。

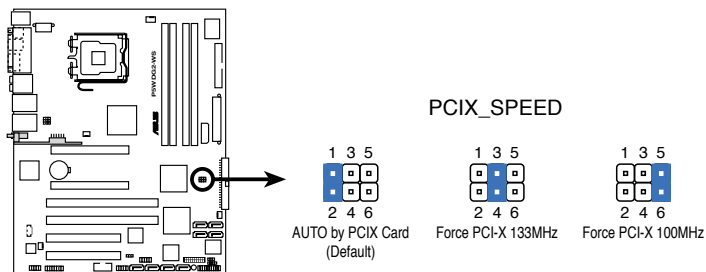
3. PCI-X スピード設定 (6ピン PCIX_SPEED)

このジャンパで、PCI-X スロットの最大周波数の設定ができます。

デフォルト設定 [Auto]: PCI-X スロットにPCI-X カードを1枚挿した場合は133 MHz、2枚の場合 100 MHz で安定性を図ります。

3~4: 枚数に関わらず、133 MHz。

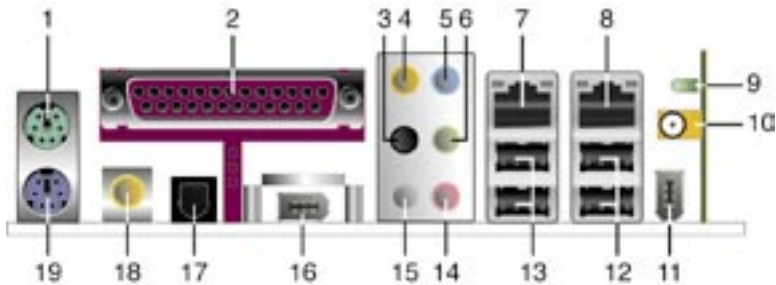
5~6: 枚数に関わらず、100 MHz。



P5WDG2-WS PCIX Speed setting

2.7 コネクタ

2.7.1 リアパネルコネクタ



1. PS/2 マウスポート (グリーン): PS/2マウス用です。
2. パラレルポート: この25ピンポートはパラレルプリンタやスキャナなどのデバイスを接続します。
3. リアスピーカ出力ポート(ブラック): 4/6/8チャンネルオーディオ構成でリアスピーカーを接続します。
4. センター/サブウーファポート(オレンジ): センター/サブウーファースピーカーを接続します。
5. ライン入力ポート(ライトブルー): テープ、CD、DVDプレーヤー、またはその他のオーディオソースを接続します。
6. ライン出力ポート(ライム): ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4、6、8チャンネルの出力設定のときは、このポートはフロントスピーカー出力になります。



2、4、6、8チャンネル構成時のオーディオポートの機能については、下のオーディオ構成表を参考にしてください。

オーディオ構成表

ポート	ヘッドフォン 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
ブラック	-	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
グレー	-	-	-	サイドスピーカー出力
オレンジ	-	-	センター/サブウーファ	センター/サブウーファ

7. LAN 1 (RJ-45) ポート: ローカルエリアネットワーク (LAN)と Gigabit Ethernet 接続ができます。LAN ポートLEDの表示については、下の表を参考にしてください。
8. LAN 2 (RJ-45) ポート: ローカルエリアネットワーク (LAN)と Gigabit Ethernet 接続ができます。LAN ポートLEDの表示については、下の表を参考にしてください。

32bit OS LANポートLED

Activity/Link	スピード LED	説明
オフ	オフ	ソフトオフモード
イエロー*	オフ	10 Mbps
イエロー*	オレンジ	100 Mbps
イエロー*	グリーン	1 Gbps

* 点滅中

64bit OS LANポートLED

Activity/Link	スピード LED	説明
DNR	DNR	ソフトオフモード
DNR	DNR	10 Mbps
DNR	DNR	100 Mbps
DNR	DNR	1 Gbps

DNR - Driver Not Ready



以下9～11はオプションの無線LAN用の記載です。

9. 無線LAN アクティビティ LED (オプション): 無線LANモジュールに Activity LEDが付いています。下の表を参照してください。

状態	説明
オン	無線LAN モジュールはオン、ただし、データは無効
オフ	無線LAN モジュールオフ
点滅	無線LAN モジュールはデータの送受信中 無線LAN モジュールはアクセスポイント、 または他の無線デバイスをスキャン中

10. 無線LANポート(オプション):無線LANデバイスにあるポートで、移動可能な多方向デュアルバンドアンテナを接続して無線LANの範囲を広げることができます。
11. USB 2.0 ポート 8 (オプション):USB 2.0デバイスを接続できます。
12. USB 2.0 ポート 3 と 4:USB 2.0デバイスを接続できます。
13. USB 2.0 ポート 1 と 2:USB 2.0デバイスを接続できます。
14. マイクポート(ピンク):マイクを接続します。
15. サイドスピーカ出力ポート(グレー):8チャンネルオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。
16. IEEE 1394a ポート:この 6 ピン IEEE 1394a ポートはオーディオ/動画デバイス、記憶装置、PC、ポータブルデバイス等の高速接続を可能にします。
17. 光学 S/P DIF 出力ポート:光学 S/P DIF ケーブルを使って外付けオーディオ出力でデバイスを接続できます。
18. 同軸 S/P DIF 出力ポート:同軸 S/P DIF ケーブルを使って外付けオーディオ出力でデバイスを接続できます。
19. PS/2 キーボードポート(パープル):PS/2 キーボード用です。

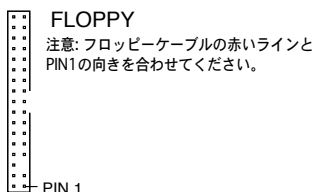
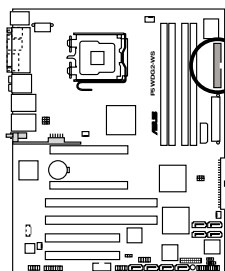
2.7.2 内部コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1 ピン FLOPPY)

フロッピーディスクドライブ(FDD)ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。



誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。



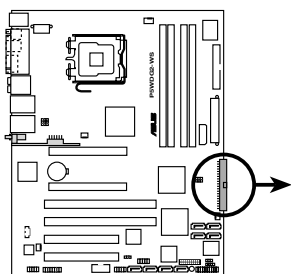
P5WDG2-WS Floppy disk drive connector

2. プライマリ IDE コネクタ (40-1 ピン PRI_IDE)

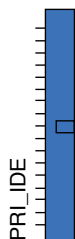
Ultra ATA 100/66 ケーブル用です。Ultra ATA 100/66 ケーブルには 3 つのコネクタがあり、マザーボードのプライマリ IDE コネクタに接続するコネクタはブルーです。HDD を 2 台取り付ける場合は、HDD のジャンパ設定で、セカンドドライブをスレーブにします。ジャンパ設定については、HDD または光学ドライブの取り扱い説明書等を参考にしてください。



- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- Ultra ATA 133/100/66 IDE デバイスの場合は、80 ピンの IDE ケーブルを使用します。



P5WDG2-WS IDE connector



注意: IDE ケーブルの赤いマークとPIN 1の向きを合わせてください。

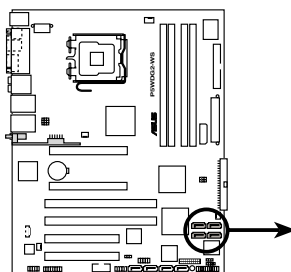
3. ICH7R Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1 [レッド]、SATA2 [レッド]、SATA3 [ブラック]、SATA4 [ブラック])

これらのコネクタは Serial ATA HDDのSerial ATA ケーブル用です。

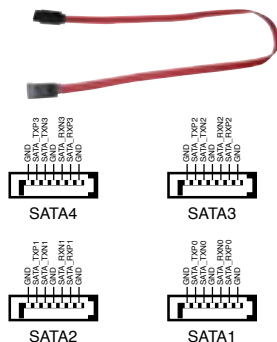
Serial ATA HDDを取り付けると、オンボード搭載の Intel® ICH7R RAID コントローラを通じ、Intel® Matrix Storage Technology で RAID 0、RAID 1、RAID 10、RAID 5 の構築が可能です。



- これらのコネクタはデフォルトで「Standard IDE mode」に設定されています。「Standard IDE mode」では、Serial ATA ブートHDD/データHDDを接続できません。これらのコネクタでSerial ATA RAID セットを構築する場合は、BIOSの Configure SATA As の項目で、[RAID]にしてください。(詳細4.3.6 IDE Configuration 参照)
- RAID 5 には最低 3 台、RAID 10には 4 台のHDDが必要です。RAID 0 または RAID 1 には 2 ~ 4 台のSerial ATA HDDを使用します。



P5WDG2-WS SATA connectors





Serial ATAに関する注記

- Serial ATA HDDを使用する場合は、Windows® 2000 Service Pack4、またはWindows® XP Service Pack 1以降のバージョンをインストールしてください。Serial ATA RAID (RAID 0/RAID 1/RAID 5/RAID 10)にはWindows® 2000/XP/Server 2003 以降のバージョンが必要です。
- Standard IDE mode でコネクタを使用しているときは、プライマリ (boot) HDDをSATA1 またはSATA2 コネクタに接続します。接続の際は下の図を参考にしてください。

Serial ATAハードディスクドライブ接続

コネクタ	色	設定	用途
SATA1/SATA2	レッド	マスター	ブートディスク
SATA3/SATA4	ブラック	スレーブ	データディスク

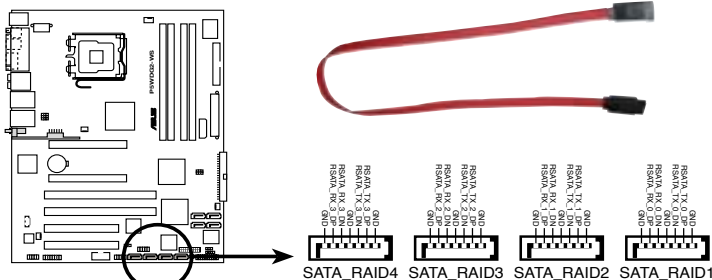
4. Marvell® 88SE6141 Serial ATA RAID コネクタ

(7ピン SATA_RAID1、SATA_RAID2、SATA_RAID3、SATA_RAID4)

これらのコネクタは Serial ATA ケーブル用です。Serial ATA HDDに対応し、オンボード Serial ATA RAID コントローラを通じてRAID 0、RAID 1、RAID 10、JBOD を構築できます。



BIOSで Onboard SATA Controller の項目を [Enabled] にし、RAID構築のためにコネクタを使用可能にします。(詳細「4.4.6「オンボードデバイス設定」」参照)



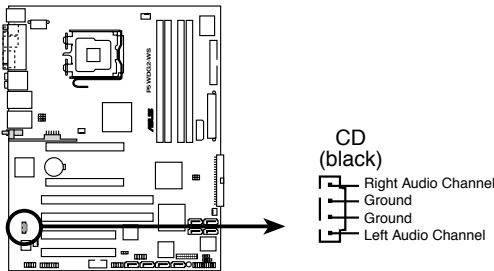
P5WDG2-WS SATA RAID connector



Serial ATA ハードディスクで RAID を構築する際は、Serial ATA ケーブルを接続していることと、Serial ATA HDDを取り付けていることを確認してください。Marvell® 88SE6141 RAID ユーティリティを起動することができません。

5. 光学ドライブオーディオ入力コネクタ (4ピンCD)

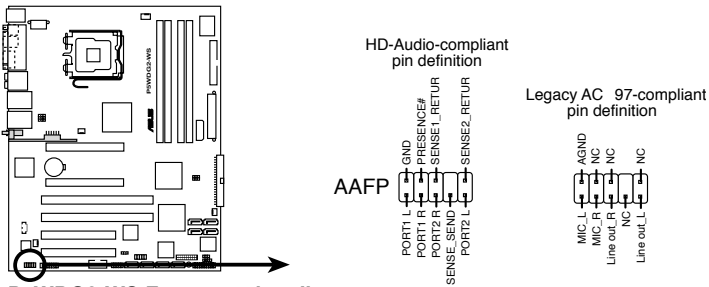
CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信します。



P5WDG2-WS Internal audio connector

6. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン AAFP)

ケースのフロントパネルオーディオI/Oモジュール用コネクタで、HDオーディオ及びAC'97オーディオをサポートしています。オーディオI/Oモジュールケーブルの一方をこのコネクタに接続します。



P5WDG2-WS Front panel audio connector

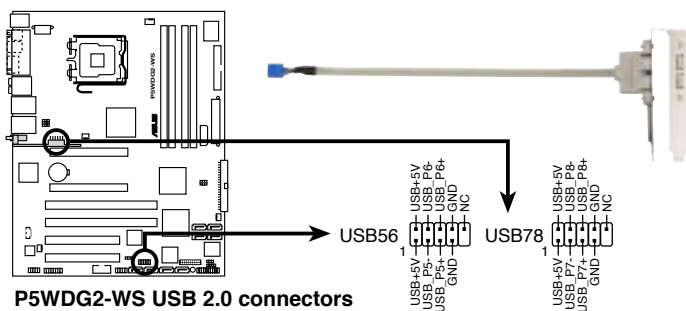


- HDオーディオ機能を最大限に活用するため、HDフロントパネルオーディオモジュールを接続することをお勧めします。
- デフォルトではこのコネクタはAC97になっています。HDオーディオを活用するには Front Panel Support Type の項目を [HD Audio] にします。
(詳細 セクション4.4.6「オンボードデバイス設定構成構成」参照)

7. USBコネクタ (10-1 ピン USB56、USB78 [オプション])

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USB/GAME ケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 仕様に準拠しています。

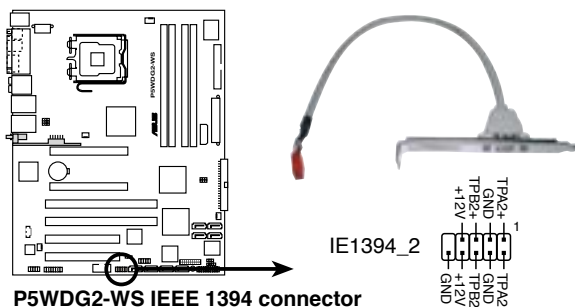
USB78 はオプションの無線 Wireless LAN とリアパネルにある 5 つ目の USB ポート用です。このポートは Wi-Fi add-on configuration に使用します。



1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。

8. IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1 ピン IE1394_2 [レッド])

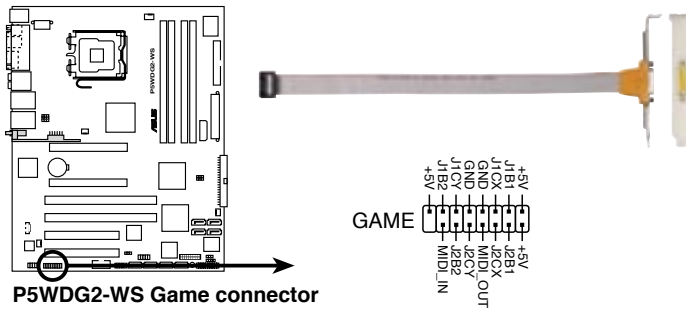
追加 IEEE 1394a ポート用です。IEEE 1394a ケーブル (オレンジ) をこのコネクタに接続します。



USB ケーブルを IEEE 1394a コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。

9. GAME/MIDI ポートコネクタ (16-1 ピン GAME)

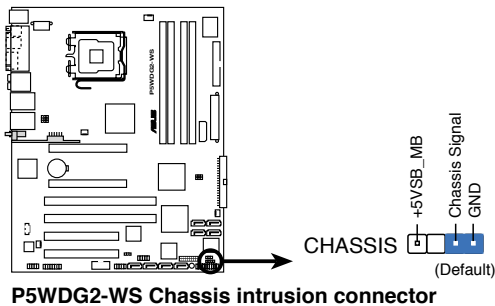
GAME/MIDI ポート用コネクタです。USB/GAME モジュールケーブルを接続します。GAME/MIDI ポートはゲームのプレーの場合はジョイスティックやゲームパッドを、オーディオファイルの再生や編集の場合は MIDI デバイスを接続します。



10. ケース開閉検出コネクタ(4-1ピン CHASSIS)

ケース開閉検出センサーまたはスイッチ用コネクタです。センサーまたはスイッチを接続してください。システムコンポーネントを取り外したり交換するときにケースを開けると、ケース開閉検出センサーまたはスイッチはこのコネクタに信号を送信します。信号はその後、ケース開閉検出イベントを発行します。

デフォルトでは、「Chassis Signal」と「Ground」のピンの間はジャンパキャップにより、ショートされています。ケース開閉検出機能を使用する場合にのみ、ジャンパを取り外してください。

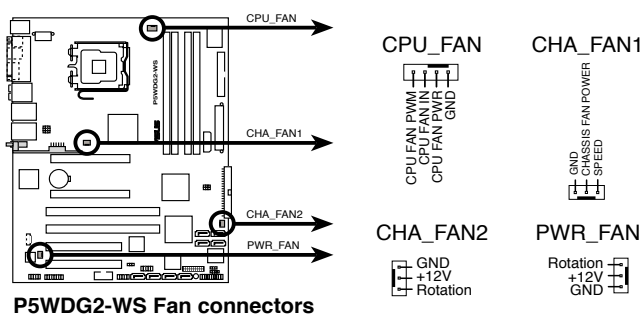


11. CPU/ケース/電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン PWR_FAN、3ピン CHA_FAN1、3ピン CHA_FAN2)

ファンコネクタは +12Vで、350 mA ~ 2000mA (最高24W)または、合計1 A ~ 3.48A (最高 41.76W)の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



ファンケーブルをファンコネクタに必ず接続してください。ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。



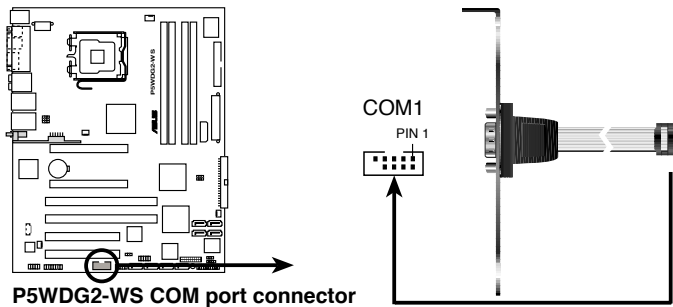
CPU_FAN と CHA_FAN1 コネクタのみがASUS Q-Fan 2機能に対応しています。



ビデオカードを2枚取り付けた場合は、散熱の観点からリアケースファンケーブルをマザーボード側の CHA_FAN1 と表示のあるコネクタに接続することをお勧めします。

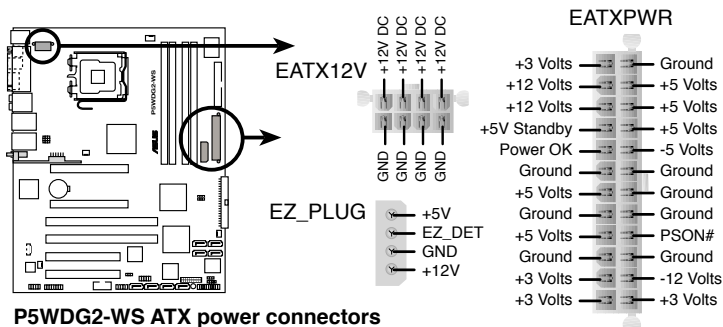
12. Serialポートコネクタ (10-1ピン COM1)

シリアル(COM)ポート用コネクタです。シリアルポートのモジュールケーブルを接続します。



13. ATX電源コネクタ (24ピン EATXPWR、2x4ピン EATX12V、4ピン EZ_PLUG)

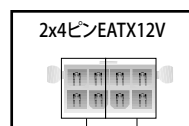
ATX電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。



20ピン+12Vの電源コネクタで、ビデオカードを2枚使用しているときは、EZ Plug™を接続してください。詳細は電源ユニットの説明書等のデュアルビデオカードの項目等をご覧ください。



- 4ピン ATX +12V 電源プラグを接続してください。
- 8ピン EPS +12V 電源プラグを接続する前に、必ずコネクタのキャップを外してください。
- 必ず4ピン ATX12V または 8ピン EPS +12V 電源プラグを使用してください。それ以外のものを使用すると、システムに大きなダメージを与えることがあります。



8ピン電源プラグを使用する前にキャップを外す

4ピン電源プラグを接続

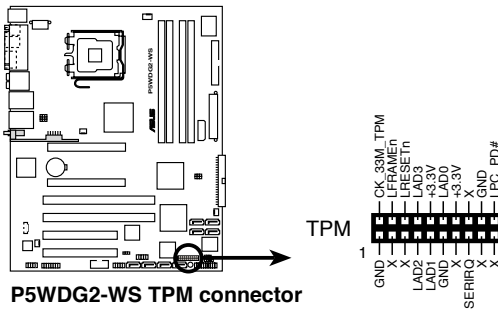


電源に関する注記

- 完全に設定したシステムには、最低 400 W の ATX 12 V 規格 2.0 対応電源ユニット (またはそれ以降) を使用することをお勧めします。
- 8ピン/4ピン EATX12 V電源プラグを必ず接続してください。システムが起動しなくなります。
- +12V_1 リード線に最低 8 A、+12V_2 リード線に13 A 供給可能な電源が必要です。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分だと、システムが不安定になったり起動できなくなったりします。
- ハイエンド PCI Express x16 ビデオカードを 2 枚使用する際は、450 ~ 500 W の電源を使用してください。
- Intel® Dual-Core CPU を 840 Extreme Edition で使用するには、少なくとも +12V_2 リード線に DC 16A (最高 22A) 供給可能な電源が必要です。

14. TPM コネクタ (20-1 ピン TPM)

Trusted Platform Module (TPM) システム対応のコネクタです。キーやデジタル証明書、パスワード、データを保存することができます。TPM システムでは、ネットワークセキュリティが向上、またデジタル証明を守り、プラットフォームの統合性を強固にします。



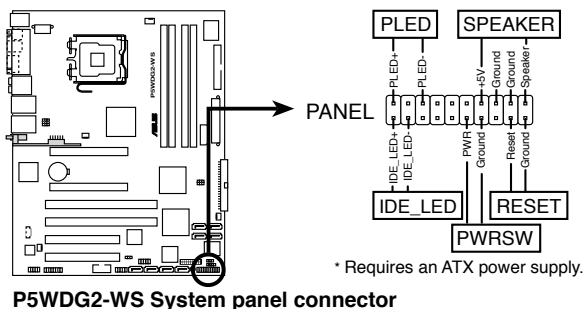
P5WDG2-WS TPM connector



TPM モジュールは別売りとなっております。

15. システムパネルコネクタ (20ピン PANEL)

ケースに取り付けられた複数の機能をサポートします。



システムパネルコネクタは簡単に接続できるように色分けされています。詳細は次の説明をご覧ください。

- システム電源LED (グリーン 3ピン PLED)
システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。
- HDD アクティビティ LED (レッド 2ピン IDE_LED)
HDDアクティビティLED用です。HDDアクティビティLEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、データがHDDと読み書きを行っているときに点灯するか点滅します。
- システム警告スピーカー (オレンジ 4ピン SPEAKER)
ケース取付システム警告スピーカー用です。スピーカーは、ビープ音で警告を發します。
- ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン (ライム 2ピン PWRSW)
システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すと、システムの電源がオンになります。また BIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを4秒以上押し、システムの電源はオフになります。
- リセットボタン (ブルー 2ピン RESET)
ケース取付リセットボタン用で、システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

電源をオンにする手順から、音声による
POSTメッセージ、電源をオフにする手順。

電源をオンにする

A large, light gray number '3' is positioned behind the main title text, serving as a page indicator.

Chapter 3

3

- 3.1 初めて起動する 3-1
- 3.2 コンピュータの電源をオフにする 3-2

3.1 初めて起動する

1. すべての接続が終了したら、システムケースのカバーを元に戻してください。
2. すべてのスイッチをオフにしてください。
3. 電源コードをケース背面の電源コネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. 以下の順番でデバイスの電源をオンにします:
 - a. モニタ
 - b. 外部のSCSIデバイス(ディジーチェーンの最後のデバイスから)
 - c. システム電源
6. システムの電源をオンにすると、システム前面パネルケースのシステム電源LEDが点灯します。ATX電源装置を搭載したシステムの場合、ATX電源ボタンを押すとシステムLEDが点灯します。モニタが“グリーン”規格に準拠している場合や、電源スタンバイ機能を搭載している場合、システムの電源をオンにすると、モニタのLEDが点灯もしくはオレンジからグリーンに切り替わります。

次にシステムは、起動時の自己診断テスト (POST) を実行します。テストを実行している間、BIOSがビーブ音を出すか、スクリーンにメッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒以内に何も表示されない場合は、電源オンテストの失敗です。ジャンパ設定と接続を確認してください。問題が解決されない場合は、販売店にお問い合わせください。

AMI BIOS ビープコード

ビーブ	エラー
ビーブ1回	キーボードコントローラエラー 時間のリフレッシュエラー マスタドライブが検出できない
短いビーブ2回に続く ビーブ2回の連続	フロッピーコントローラエラー
短いビーブ4回に続く 連続ビーブ2回	ハードウェアコンポーネントエラー

7. 電源をオンにした時に、<Delete>キーを押してBIOS設定に入ります。Chapter 4の指示に従ってください。

3.2 コンピュータの電源をオフにする

3.2.1 OS シャットダウン機能を使用する

Windows® 2000をご使用の場合

1. スタートボタンを押し、シャットダウンをクリックします。
2. シャットダウンオプションボタンが選択されていることを確認し、OKボタンを押してコンピュータをシャットダウンします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置はオフになります。

Windows® XPをご使用の場合

1. スタートボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. 「電源を切る」をクリックし、コンピュータの電源をオフにします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置がオフになります。

3.2.2 電源スイッチのデュアル機能を使用する

システムがオンになっている間、電源スイッチを押してから4秒以内に離すとシステムはBIOS設定によりスリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押し、BIOS設定には関わらず、システムはソフトオフモードに入ります。
(詳細 Chapter 4「4.5 電源メニュー」参照)

BIOS セットアップメニューでのシステム設定
の変更方法。BIOS パラメータの詳細。

BIOSセットアップ⁴

4.1	BIOS管理更新.....	4-1
4.2	BIOS 設定プログラム.....	4-11
4.3	メインメニュー	4-14
4.4	拡張メニュー	4-19
4.5	電源メニュー	4-32
4.6	ブートメニュー	4-37
4.7	終了メニュー	4-41

4.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードの BIOS の管理更新を行います。

1. ASUS Update (Windows® 環境でBIOSを更新)
2. ASUS EZ Flash (DOS モードでフロッピーディスクまたはサポートCDを使用して BIOSを更新)
3. ASUS AFUDOS (ブートフロッピーディスクを使用して、DOSモードでBIOSを更新)
4. ASUS CrashFree BIOS 2 (BIOSファイルがエラーを起こしたり破損したりしたとき、ブートフロッピーディスクまたはサポートCDを使用して、BIOSを更新)

ユーティリティの詳細については、このページ以降の各説明を参照してください。



BIOS を復元できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをブートフロッピーディスクにコピーしてください。ASUS Update または AFUDOS を使用して、BIOS のコピーを行います。

4.1.1 ASUS Update

4.1.5 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能が実行できます。

- マザーボードの BIOSファイルを保存する
- インターネットから最新のBIOSファイルをダウンロードする
- 最新のBIOSファイルにBIOSを更新する
- インターネットから直接BIOSを更新する
- BIOSのバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポート CD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Updateをインストールする

手順

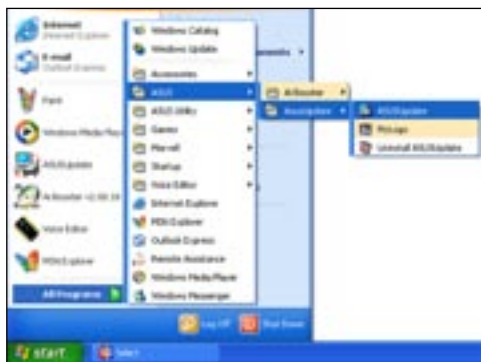
1. 光学ドライブにサポート CD をセットします。メニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、ASUS Update をクリックします。(ユーティリティのメニュー内容については、5-3 ページをご覧ください)
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。



このユーティリティを使用してBIOSを更新する場合は、すべてのWindows®アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する 手順

1. スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックします。ASUS Update を起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されません。



2. ドロップダウンメニューから、「Update BIOS from the internet」を選択し、「Next」をクリックします。



3. 最寄りのASUS FTPサイトを選択するか、「AutoSelect」をクリックし、「Next」をクリックします。

- ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「Next」をクリックします。
- 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



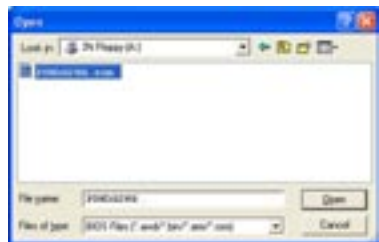
ASUS Update でインターネットから最新版 BIOS に更新できます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。

BIOSファイルからBIOSを更新する 手順

- スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
- ドロップダウンメニューから「Update BIOS from a file」を選択し、「Next」をクリックします。



- Openダイアログから BIOSファイルを探し、「Open」をクリックします。
- 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



4.1.2 ブートフロッピーディスクを作成する

1. 次のいずれかの方法で、ブートフロッピーディスクを作成します。

DOS 環境

- a. ドライブに1.44MBのフロッピーディスクを挿入します。
- b. DOSプロンプトで、`format A: /S` を入力し、<Enter>を押します。

Windows® XP 環境

- a. 1.44 MBのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows® のデスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
- c. 3.5 インチフロッピーディスクドライブアイコンを選択します。
- d. マウスを右クリックし、コンテキストメニューからフォーマットを選択します。3.5 インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
- e. フォーマットオプションから、「MS-DOSの起動ディスクを作成する」を選択し、「開始」をクリックします。

Windows® 2000 環境

Windows® 2000での起動ディスクの作成手順

- a. フォーマット済みの、1.44 MB フロッピーディスクをドライブに挿入します。
 - b. Windows® 2000 のインストールCD を光学ドライブに挿入します。
 - c. 「スタート」をクリックし、ファイル名を指定して実行を選択します。
 - d. オープンフィールドで、
D:\bootdisk\makeboot a:
と入力します。「D」は光学ドライブです。ご使用の環境によって異なります。
 - e. <Enter>を押し、スクリーンの指示に従います。
2. 更新を行うBIOSファイルをブートフロッピーディスクにコピーします。

4.1.3 ASUS EZ Flash

ASUS EZ Flash は、ブートフロッピーディスクを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。EZ Flash ユーティリティは内蔵の BIOS チップです。システム起動時の自己診断テスト (POST)中に、<Alt> + <F2>を押すとEZ Flash を起動することができます。

EZ Flashを使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードし、ファイル名を「P5WDG2WS.ROM」に変更します。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクに保存し、システムを再起動します。
3. POST 中に<Alt> + <F2> を押して下の画面を表示させます。

```
EZFlash starting BIOS update
Checking for floppy...
```

4. BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。BIOS ファイルが検出されたら、EZ Flash は自動的に BIOS 更新プロセスを実行し、完了後にシステムを再起動します。

```
EZFlash starting BIOS update
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "P5WDG2WS.rom". Completed.
Start erasing.....|
Start programming...|
Flashed successfully. Rebooting.
```



- BIOS を更新中にシステムをオフにしたり、リセットしたりしないでください。システム起動エラーの原因となります。
- ドライブにフロッピーディスクがない場合、「Floppy not found!」というエラーメッセージが表示されます。また、正しい BIOS ファイルがフロッピーディスクに見つからない場合、「P5WDG2WS.ROM . not found!」というエラーメッセージが表示されます。BIOS ファイル名が「P5WDG2WS.ROM」に変更されていることを確認してください。

BIOSファイルを更新する

AFUDOSユーティリティを使用してBIOSファイルを更新する手順

1. ASUS Web サイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードして、ブートフロッピーディスクに保存してください。



紙などにBIOSファイル名を書きとめてください。DOSプロンプトでBIOSファイル名を正確に入力する必要があります。

2. 4.1.2で作成したブートフロッピーディスクにAFUDOS (afudos.exe)をコピーします。
3. ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

```
afudos /i [filename]
```

[filename] は、BIOS ファイル名です。

```
A:\>afudos /iP5WDG2WS.rom
```

4. ファイルが確認されると、BIOS の更新が開始されます。

```
A:\>afudos /iP5WDG2WS.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done

Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOS の更新中にシステムをシャットダウンしたり、リセットしたりしないでください。システムエラーの原因となります。

5. BIOS の更新プロセスが完了すると、DOS プロンプトに戻ります。HDDからシステムを再起動してください。

```
A:\>afudos /ip5WDG2WS.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done

Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... done
Verifying flash .... done

Please restart your computer

A:\>
```

4.1.5 ASUS CrashFree BIOS 2

ASUS CrashFree BIOS 2 は BIOS の自動復元ツールで、BIOS 更新時に障害を起こしたり破損したりした BIOS ファイルを復元します。破損した BIOS は、サポート CD、または BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクで更新することができます。



- このユーティリティを使用する前に、サポート CD または BIOS を保存したフロッピーディスクをお手元にご用意ください。
- フロッピーディスクに保存した BIOS ファイルの名前が「P5WDG2WS.ROM」に変更されていることを確認してください。

フロッピーディスクから BIOS を復元する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、フロッピーディスクの BIOS ファイルがチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```

フロッピーディスクを検出すると、BIOS ファイルを自動的にチェックし、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "P5WDG2WS.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOS を更新している間、システムをシャットダウンしたり、リセットしたりしないでください。システム起動エラーの原因となります。

4. 更新プロセスが完了したら、システムを再起動してください。

サポートCDからBIOSを復元する 手順

1. フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、システムの電源をオンにします。
2. サポートCDを光学ドライブに挿入します。
3. 次のメッセージが表示され、CDのBIOSファイルを自動的にチェックします。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```

フロッピーディスクが検出されないと、光学ドライブのBIOSファイルを自動的にチェックし、破損したBIOSファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy not found!
Checking for CD-ROM...
CD-ROM found!
Reading file "P5WDG2WS.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOSを更新している間に、システムをシャットダウンしたり、リセットしたりしないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4. 更新プロセスが完了したら、システムを再起動してください。



復元されたBIOSは、最新のBIOSではないことがあります。ASUSのWebサイト (www.asus.co.jp) から最新のものをダウンロードして更新を行ってください。

4.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能なファームウェアチップセットを搭載しており、「2.1 BIOS の更新」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新をすることが可能です。

BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または“Run Setup”を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更したりすることができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、ファームウェアハブまたは CMOS RAM に記録できるように、BIOS 設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードのファームウェアハブには、BIOS 設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間にキーを押すとBIOS 設定プログラムが起動します。

POST の終了後にBIOS 設定プログラムを実行したい場合は、<Ctrl+Alt+Delete>を押すか、ケースのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合の最後の手段として行ってください。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールしたり、使用可能なオプションから設定を選択したりすることができます。



- ・ このマザーボードのデフォルトのBIOS 設定はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、デフォルト設定をロードしてください。デフォルト設定に戻すには、終了メニューの下の「Load default Setting」を選択します。（詳細は「4.7 終了メニュー」をご参照ください）
- ・ 本書に掲載したBIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- ・ 最新のBIOS はASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

4.2.1 BIOSメニュー画面



4.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次の項目があります。

Main	基本システム設定の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理(APM)設定の変更用
Boot	システム起動設定の変更用
Exit	終了オプションとロードデフォルト設定の選択用

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。

4.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されます。ナビゲーションキーを使用してメニューの項目を選択し、設定を変更します。

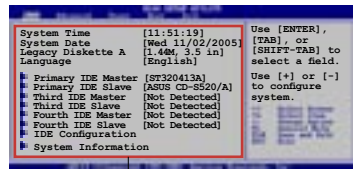


ナビゲーションキーは画面ごとに異なります。

4.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目(Advanced、Power、Boot、Exit)には、それぞれのメニューがあります。



メインのメニュー

4.2.5 サブメニュー

サブメニューの項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し<Enter>を押します。

4.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されます。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更できます。ユーザーによる変更が可能でない項目は、選択することができません。

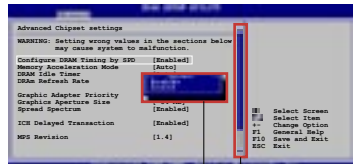
各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し<Enter>を押してオプションのリストを表示させます。

4.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し<Enter>を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

4.2.8 スクロールバー

画面に収まりきらないアイテムがある場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キー、または<Page Up>/<Page Down>キーで、スクロールすることができます。



ポップアップウィンドウ

スクロールバー

4.2.9 ヘルプ

メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

4.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「4.2.1 BIOS メニュー画面」をご参照ください。



4.3.1 System Time [xx:xx:xx]

システム時間を設定します。

4.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

4.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。

設定オプション:[Disabled] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

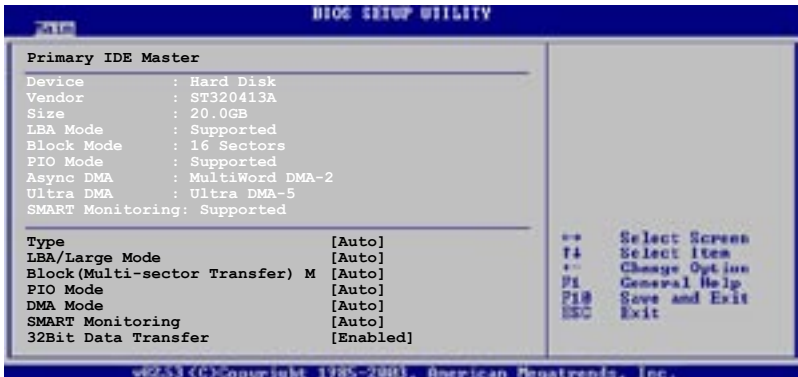
4.3.4 Language [English]

BIOS言語を選択します。

設定オプション:[English] [Français] [Deutsch] [Japanese] [Chinese (GB)] [Chinese BIG5]

4.3.5 Primary, Third, Fourth IDE Master/Slave

BIOS は接続された IDE デバイスを自動的に検出します。「Device」を選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。



BIOSは、Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART Monitoring の値を自動的に検出します。これらの項目の値をユーザーが変更することはできません。また、システムにIDEデバイスが接続されていない場合は「N/A」と表示されます。

Type [Auto]

IDEデバイスのタイプを選択します。[Auto]に設定すると、適切な IDE デバイスタイプを自動的に選択します。光学ドライブを接続している場合は[CDROM]を選択します。デバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかであれば、[ARMD] (ATAPI リムーバブルメディアデバイス)を選択します。

設定オプション:[Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの設定。デバイスがこのモードをサポートしている場合、[Auto]に設定すると、LBA モードが有効になります。デバイスが LBA モードでフォーマットされていない場合は無効になります。

設定オプション:[Disabled] [Auto]

Block (Multi-sector Transfer) M [Auto]

マルチセクタ転送の設定。[Auto]に設定すると、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送をマルチセクタで行います。[Disabled]に設定すると、デバイス間のデータ転送は1セクタごとに行います。

設定オプション:[Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。

設定オプション:[Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMAモードを選択します。

設定オプション:[Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

SMART Monitoring [Auto]

SMARTによるモニタ、分析、報告機能を設定します。

設定オプション:[Auto] [Disabled] [Enabled]

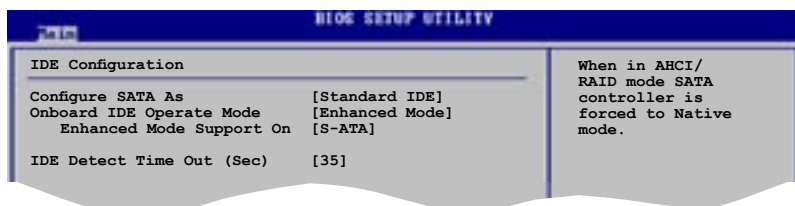
32Bit Data Transfer [Enabled]

32bit データ転送の設定。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.3.6 IDE Configuration

IDE デバイスの設定を変更します。設定を変更したい項目を選択し <Enter>を押します。



Configure SATA As [Standard IDE]

サウスブリッジがサポートするSerial ATA コネクタの設定。

AHCI で、ドライブが内部的にコマンドの指示を適切に調整するようにすることで、ランダムな負荷での記憶装置のパフォーマンスを向上する拡張 Serial ATA 機能を設定することができます。

RAID 0、RAID 1、RAID 10、RAID 5、Intel® Matrix Storage Technology を Serial ATA HDD から構築するには、この項目を [RAID] に設定してください。

Serial ATA HDD を Parallel ATA の物理記憶装置として使う場合は、[Standard IDE] に設定してください。

Serial ATA HDDで Advanced Host Controller Interface (AHCI) を使う場合は、[AHCI] に設定します。AHCI についての詳細は以下のサイトをご覧ください。

www.intel.com/support/chipsets/imst/sb/CS-012304.htm

www.intel.com/support/chipsets/imst/sb/CS-012305.htm

この項目を [RAID] または [AHCI] に設定した場合の SATA コントローラは Native モードです。



「Onboard IDE Operate Mode」とサブメニューの項目は「Configure SATA As」を [Standard IDE] に設定した場合のみ表示されます。

Onboard IDE Operate Mode [Enhanced Mode]

インストールされたオペレーティングシステム(OS)に従って、IDE 動作モードを選択します。Windows® 2000/XP などのネイティブ OS を使用している場合、[Enhanced Mode] に設定します。

設定オプション: [Disabled] [Compatible Mode] [Enhanced Mode]



Serial ATA 光学ドライブを使う場合は、サポート CD を使ってブートディスクを作成する前に、この項目を [Compatible Mode] に設定してください。

Enhanced Mode Support On [S-ATA]

デフォルト設定の[S-ATA]では、Serial ATAポートとParallel ATAポートに接続したHDDでネイティブOSを使うことができます。OSごとの互換性を安定させるためにデフォルトの設定を変更しないようにしてください。Serial ATA デバイスを取り付けていない場合は、Parallel ATAポートでレガシーOSを使ってください。

[P-ATA+S-ATA][P-ATA]は、上級ユーザー向けの設定です。この設定で、問題が起こった場合は、設定をデフォルトに戻してください。

設定オプション: [P-ATA+S-ATA] [S-ATA] [P-ATA]

Combined Mode Option [Primary P-ATA +S-ATA]

IDE ポートの選択をします。

設定オプション: [Primary P-ATA +S-ATA] [S-ATA only] [P-ATA only]

オプションの [S-ATA only] と [P-ATA only] は、上級ユーザー向けです。このオプションを選択してなにか問題があった場合は、設定をデフォルトの [Primary P-ATA+S-ATA] に戻してください。



「Combined Mode Option」は、「Onboard IDE Operate Mode」の項目を [Compatible Mode] に設定した場合のみ表示されます。

Onboard Serial-ATA BOOTROOM [Enabled]

Serial ATA boot ROM の設定をします。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]



「Onboard Serial-ATA BOOTROM」の項目は、「Configure SATA As item」の項目を [RAID] に設定した場合のみ表示されます。

ALPE and ASP [Disabled]

ALPE (Agressive Link Power Management) と ASP (Aggressive Slumber/Partial) の管理機能の設定をします。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]



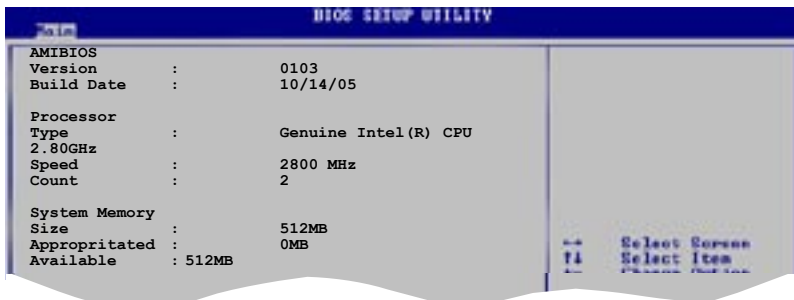
「ALPE and ASP」とサブメニューは、「Configure SATA As」の項目を [AHCI] に設定した場合のみ表示されます。

IDE Detect Time Out [35]

ATA/ATAPIデバイスを検出する際のタイムアウトの秒数を選択します。
設定オプション:[0] [5] [10] [15] [20] [25] [30] [35]

4.3.7 システム情報

システム仕様の概要です。BIOS はさまざまな情報を自動的に検出します。



AMI BIOS

自動検出された BIOS 情報を表示します。

Processor

自動検出された CPU の仕様を表示します。

System Memory

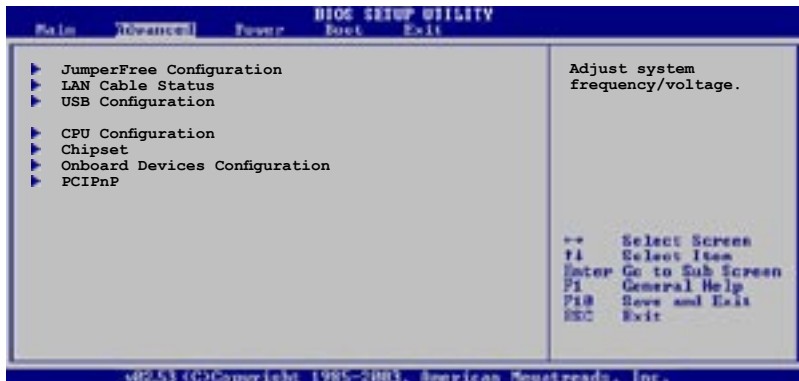
自動検出されたシステムメモリの容量を表示します。

4.4 拡張メニュー

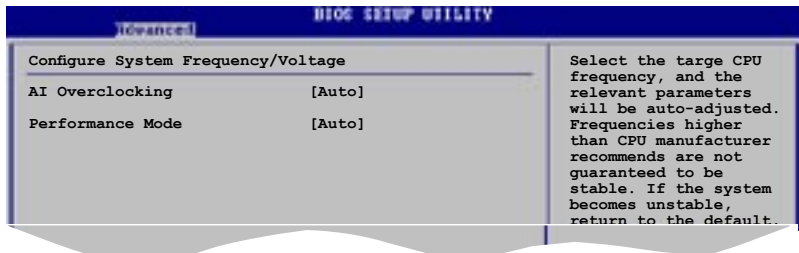
CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



4.4.1 JumperFree Configuration



AI Overclocking [Auto]

CPUの周波数を設定します。

Manual - 自分でオーバークロックパラメータの設定が可能。

Auto - 最適な設定をロードします。

AI NOS - ASUS AI Non-delay Overclocking System 機能で、システムの負荷を検出し自動的にパフォーマンスを向上させます。

Overclock Profile - オーバークロック時の安定性を図るために、最適なオーバークロックのプロファイルをロードします。



以下の項目は、ロックフリー機能をサポートするCPUをご利用の場合のみ、表示されます。最新のCPUのみがこの機能をサポートしています。

CPU Lock Free [Auto]

CPUの動作倍率を14倍まで下げることができます。[Auto]に設定すると、マザーボードは自動的にCPUの動作倍率を下げ、FSB周波数をオーバークロックしやすくします。
設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]



次の項目は、「AI Overclocking」の項目を [Manual] に設定した場合のみ表示されます。

CPU Frequency [XXX]

FSB周波数を表示します。値はBIOSにより自動検出されます。<+>と<->キー、またはニューメリックキーを使って周波数を調整してください。設定できる値は100から450の範囲です

DRAM Frequency [Auto]

DDR2メモリの動作周波数を設定します。

設定オプション: [Auto] [DDR2-400MHz] [DDR2-533MHz] [DDR2-667MHz]
[DDR2-800MHz] [DDR2-711MHz] [DDR2-889MHz] [DDR2-1067MHz]



DDR2メモリの周波数を高く設定しすぎると、システムが不安定になる原因となります。不安定になった場合は、値をデフォルトに戻してください。

Performance Mode [Auto]

システムパフォーマンスを向上させます。この項目を [Turbo] に設定してシステムが不安定になった場合は、デフォルトの [Auto] に戻してください。

設定オプション:[Auto] [Standard] [Turbo]

PCI Express Frequency [Auto]

PCI Express の周波数の設定をします。

設定オプション:[Auto] [90] ~ [150]

PCI Clock Synchronization Mode [Auto]

PCI Express または CPU 周波数で PCI 周波数の同期を取ります。

設定オプション:[To CPU] [33.33MHz] [Auto]

CPU Clock Spread Spectrum [Enabled]

CPU クロックスプレッドスペクトラムの設定をします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

PCIe Clock Spread Spectrum [Disabled]

PCI Express クロックスプレッドスペクトラムの設定をします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



次の項目は、AI Overclocking を [AI NOS] に設定したときのみ表示されます。

Memory Voltage [Auto]

DDR2 メモリの電圧を選択します。

設定オプション:[Auto] [1.80V] [1.90V] [1.95V] [2.00V] [2.10V] [2.15V] [2.20V] [2.30V]



「Memory Voltage」を調節する前にDDR2の説明書をご覧ください。メモリ電圧の変更により、メモリを損傷する場合があります。

CPU VCore Voltage [Auto]

CPU のVCore 電圧を設定できます。

設定オプション:

[Auto] [1.7000V] [1.6875V] [1.6750V] [1.6625V] [1.6500V] [1.6375V] [1.6250V] [1.6125V] [1.6000V] [1.5875V] [1.5750V] [1.5625V] [1.5500V] [1.5375V] [1.5250V] [1.5125V] [1.5000V] [1.4875V] [1.4750V] [1.4625V] [1.4500V] [1.4375V] [1.4250V] [1.4125V] [1.4000V] [1.3875V] [1.3750V] [1.3625V] [1.3500V] [1.3375V] [1.3250V] [1.3125V] [1.3000V] [1.2875V]



「CPU Vcore voltage」の設定を行う前にCPUの説明書をご覧ください。CPU VCore voltage の変更により、CPUが損傷する場合があります。

FSB Termination Voltage [Auto]

FSBターミネーション電圧を選択します。

設定オプション:[Auto] [1.20V] [1.30V] [1.40V] [1.50V]



「FSB Termination Voltage」を高く設定するとチップセットやCPUを損傷する場合があります。

MCH Chipset Voltage [Auto]

MCHチップセットの電圧の選択。

設定オプション:[Auto] [1.50V] [1.55V] [1.60V] [1.65V]



「MCH Chipset Voltage」を高く設定するとチップセットを損傷する場合があります。

ICH Chipset Voltage [Auto]

ICH (I/O controller hub) のチップセット電圧を選択します。

設定オプション:[Auto] [1.05V] [1.20V]



「ICH Chipset Voltage」を高く設定するとチップセットを損傷する場合があります。



次の項目は「AI Overclocking」の項目を[Overclock Profile] に設定した場合のみ表示されます。

Overclock Options [Overclock 5%]

CPU周波数をオーバークロックします。

設定オプション:[Overclock 5%] [FSB888/DDR2-667]

[Overclock 10%] [FSB960/DDR2-800]

[Overclock 15%] [FSB1200/DDR2-800]

[Overclock 20%] [FSB1280/DDR2-800]

[Overclock 30%] [FSB1333/DDR2-667]

[FSB1333/DDR2-834]



次の項目は「AI Overclocking」の項目を [AI NOS] に設定した場合のみ表示されます。

NOS Mode [Auto]

Non-Delay Overclocking System モードの設定をします。

設定オプション:

Auto - 適切な感度とオーバークロックのパーセンテージ設定をロードします。

Manual - 手動でオーバークロック設定をします。



次の項目は「NOS Mode」の項目を [Manual] に設定した場合のみ表示されます。

Sensitivity [Sensitive]

AI NOS センサーの感度を選択します。

設定オプション: [Normal] [Sensitive] [Less-Sensitive]

Target Frequency [Overclock XX%]

選択したNOS Mode で最大のオーバークロックパーセンテージを設定します。

設定オプション: [Overclock 3%] [Overclock 5%] [Overclock 7%] [Overclock 10%]
[Overclock 15%] [Overclock 20%] [Overclock 30%]



周波数を高く設定し、システムが不安定になった場合は設定をデフォルトに戻してください。

4.4.2 LAN Cable Status

LAN ポートに接続したLANケーブルの状態を表示します。



POST Check LAN Cable [Disabled]

POST 中に LAN ケーブルの状態をチェックする機能の設定を切り替えます。[Enabled]

に設定すると、ケーブルの異常を検知し異常のある場所を表示して知らせます。

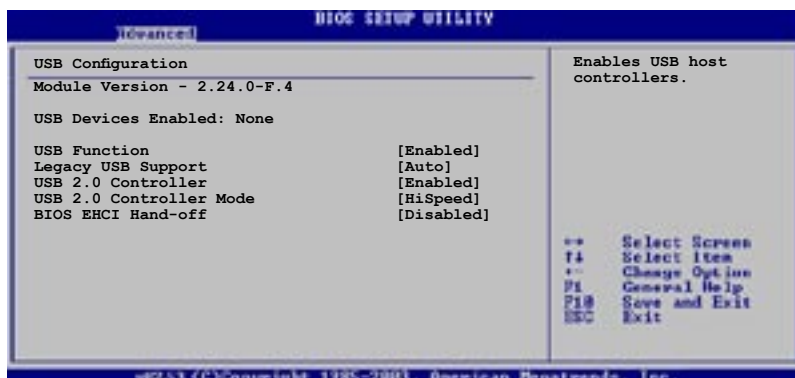
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



この機能は、Marvell LAN (LAN2)でのみ有効です。

4.4.3 USB 設定

USB 関連機能の設定をします。項目を選択して<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



[Module Version]と[USB Devices Enabled]には、自動検出された値が表示されます。USB デバイスが検出されない場合は「None」と表示されます。

USB Function [Enabled]

USB ホストコントローラの設定をします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Legacy USB Support [Auto]

レガシーUSB デバイスの設定。[Auto]に設定すると、起動時に USB デバイスを検出します。USB デバイスが検出されると、USBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないとレガシー USB のサポートは無効になります。

設定オプション:[Disabled] [Enabled] [Auto]

USB 2.0 Controller [Enabled]

USB 2.0 デバイス用のUSBコントローラの設定をします。

設定オプション:[Enabled] [Disabled]



次の項目は「USB 2.0 Controller」を [Enabled]に設定した場合のみ表示されます。

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

USB 2.0 コントローラモードの設定。HiSpeed (480 Mbps)、FullSpeed (12 Mbps)。

設定オプション:[HiSpeed] [FullSpeed]

BIOS EHCI Hand-off [Disabled]

[Enabled]に設定することによって、EHCI ハンドオフ機能のない OS でも問題なく動作させることができます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.4.4 CPU の設定

BIOS が自動的に検出するCPU 関連の情報です。



Ratio CMOS Setting [28]

CPUの動作倍率を設定します。通常はBIOSがCPUに設定されている値を自動的に検出します。対応CPUを使用した場合は、<+> または <->キーで値を調整することもできます。



ロックされていないCPUを取り付けているとき、CMOSのみ調節できます。詳細はCPUの説明書をご覧ください。

VID CMOS Setting [62]

CPUのVID信号の値を変更します。通常はBIOSが、CPUに設定されている値を自動検出します。対応CPUを使用した場合は、<+> または <->キーを使用して値を調整することも可能です。



ロックフリー機能をサポートするCPUを利用の場合のみ、以下の項目が表示されません。最新のCPUのみ、この機能をサポートしています。

Microcode Updation [Enabled]

マイクロコードの更新設定。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Max CPUID Value Limit [Disabled]

[Enabled]に設定すると、拡張 CPUID 機能を搭載した CPU 以外の CPU でも、レガシーオペレーティングシステムを起動することができます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Execute Disable Function [Disabled]

Execute Disable function の設定。Execute Disable function に対応したCPUを取り付けている場合のみ表示されます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

CPU Internal Thermal Control [Auto]

CPUの内部熱制御機能の設定。[Auto]は、TM または、TM2 サポートを可能にするために、BIOS が自動的にCPU能力をチェック。TM モードは、CPU 消費電力を抑えます。TM2 モードは、CPU コアと、VID を抑えます。

設定オプション:[Auto] [Disabled]

スクロールダウンして、以下の項目を表示

Hyper-Threading Technology [Enabled]

Hyper-Threading Technologyの設定。詳細は、「参考」をご覧ください。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



EISTをサポートするIntel® Pentium® 4をご利用の場合のみ、次の項目が表示されます。

Intel(R) SpeedStep Technology [Automatic]

EIST(Enhanced Intel SpeedStep® Technology)を使用できます。[Automatic]は、EIST機能をオンにします。

EISTを使用しない場合は、[Disabled] にしてください。

設定オプション:[Automatic] [Disabled]



-
- EIST 機能の使い方については、「参考」をご覧ください。
 - 本製品には、EIST をサポートする BIOSファイル が付属されています。
-

4.4.5 チップセット

チップセットの設定を変更します。項目を選択し、<Enter> を押すとサブメニューを表示させることができます。



Configure DRAM Timing by SPD [Enabled]

[Enabled]に設定すると、DRAM タイミングパラメータが DRAM SPD の値に従って設定されます。[Disabled]にすると、「DRAM sub-items」から、DRAM タイミングパラメータを手動で設定できます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

DRAM CAS# Latency [5 Clocks]

DDR SDRAM の読み取り、または書き込みコマンドを発行してから、データを実際に読み書きできるようになるまでの待ち時間を設定します。

設定オプション:[6 Clocks] [5 Clocks] [4 Clocks] [3 Clocks]

DRAM RAS# Precharge [4 Clocks]

プリチャージコマンドを DDR SDRAM に発行した後の待ち時間を設定します。

設定オプション:[2 Clocks] ~ [6 Clocks]

DRAM RAS# to CAS# Delay [4 Clocks]

DDR SDRAM の RAS 信号から CAS 信号への切り換えに必要な待ち時間を設定します。

設定オプション:[2 Clocks] ~ [6 Clocks]

DRAM RAS# Activate to Precharge Delay [15 Clocks]

設定オプション:[4 Clocks] ~ [18 Clocks]

DRAM Write Recovery Time [4 Clocks]

設定オプション:[2 Clocks] ~ [6 Clocks]

DRAM ECC Mode [Auto]

DRAM ECC モードの設定。

設定オプション:[Disabled] [Auto]

Hyper Path 3 [Auto]

ASUS Hyper Path 3 機能の設定をします。
設定オプション:[Disabled] [Enabled] [Auto]

DRAM Throttling Threshold [Auto]

設定オプション:[Disabled] [Auto]

Boot Graphic Adapter Priority [PCI Express/PCI]

起動時に優先的に使用するビデオコントローラを選択します。
設定オプション:[PCI Express/PCI] [PCI/PCI Express]

PEG Buffer Length [Auto]

PCI Express ビデオカードバッファの長さを設定します。
設定オプション:[Auto] [Long] [Short]

Link Latency [Auto]

PCI Express ビデオカードの待ち時間を設定します。
設定オプション:[Auto] [Slow] [Normal]

PEG Root Control [Auto]

PCI Express ビデオカードのルートコントロールを設定します。
設定オプション:[Auto] [Disabled] [Enabled]

PEG Link Mode [Auto]

PCI Express ビデオリンクモードを設定します。[Auto] に設定すると、PCI Express ビデオリンクモードを、システム設定に基づいた適切な周波数に自動的に調節します。
設定オプション:[Auto] [Slow] [Normal] [Fast] [Faster]

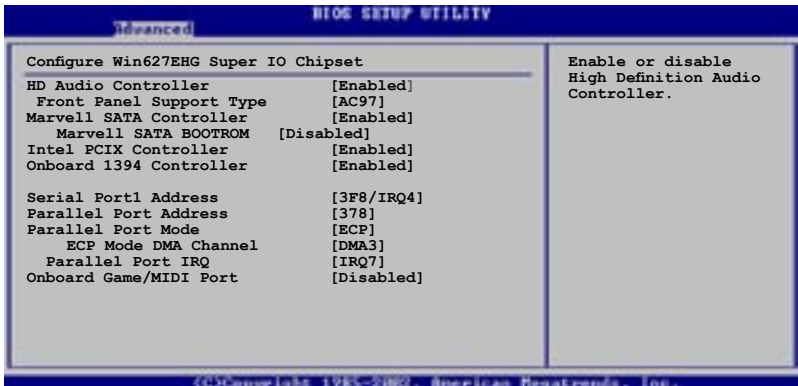
Slot Power [Auto]

PCI Express ビデオカードのスロット電力を設定します。
設定オプション:[Auto] [Light] [Normal] [Heavy] [Heavier]

High Priority Port Select [Disabled]

優先順位の高いポートを設定します。アービトレーションは VC0 以上 VC1 以下です。
設定オプション:[Disabled] [PCI Express Port 1]

4.4.6 オンボードデバイス設定構成



HD Audio Controller [Enabled]

HD オーディオ CODEC の設定をします。
設定オプション:[Enabled] [Disabled]

Front Panel Support Type [AC97]

フロントパネルオーディオコネクタ(AAFP) モードを、フロントパネルオーディオモジュールのサポートする規格に従って、レガシーAC'97 または HD オーディオ に設定します。
設定オプション:[AC97] [HD Audio]

Marvell SATA Controller [Enabled]

オンボード Marvell® 88SE6141 Serial ATA コントローラの設定をします。
設定オプション:[Enabled] [Disabled]

Marvell SATA BOOTROM [Disabled]

Marvell® 88SE6141 Serial ATA ブート ROM の設定をします。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Intel PCI-X Controller [Enabled]

Intel® PCI-X コントローラの設定をします。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Onboard 1394 Controller [Enabled]

オンボード IEEE 1394a コントローラの設定をします。
設定オプション:[Enabled] [Disabled]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1のベースアドレスを選択します。

設定オプション:[Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Parallel Port Address [378]

Parallel Portのベースアドレスを選択します。

設定オプション:[Disabled] [378] [278] [3BC]

Parallel Port Mode [ECP]

Parallel Portの動作モードを選択します。

設定オプション:[Normal] [Bi-directional] [EPP] [ECP]

ECP Mode DMA Channel [DMA3]

Parallel Port Mode が [ECP]に設定されているときのみ表示されます。Parallel Port のECP Mode DMAの設定ができません。

設定オプション:[DMA0] [DMA1] [DMA3]

EPP Version [1.9]

Parallel Port のEPP バージョンの選択。Parallel Port Modeが[EPP]に設定されているときのみ表示されます。

設定オプション:[DMA0] [DMA1] [DMA3]

Parallel Port IRQ [IRQ7]

Parallel Port IRQ の選択をします。

設定オプション:[IRQ5] [IRQ7]

Onboard Game/MIDI Port [Disabled]

Game /MIDI ポートアドレスの設定をします。

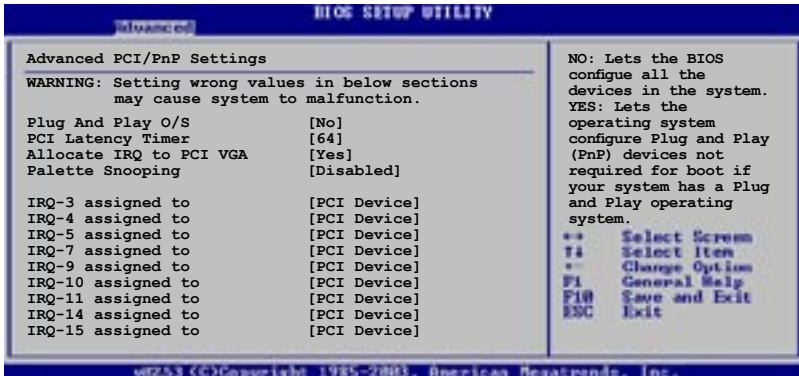
設定オプション:[Disabled] [200/300] [200/330] [208/300] [208/330]

4.4.7 PCI PnP

PCI PnP メニューでは、PCI/PnP デバイスのアドレスを変更できます。PCI/PnP またはレガシー ISA デバイス用の IRQ と DMA チャンネルリソースの設定、およびレガシー ISA デバイス用のメモリサイズブロックの設定を行います。



間違った値を設定するとシステムが誤動作する原因となります。PCI PnP メニューの設定を変更するときは注意して行ってください。



Plug And Play O/S [No]

この項目を[No]に設定すると、BIOS はマザーボードに接続されたデバイスの設定を自動的に行います。

設定オプション:[No] [Yes]

PCI Latency Timer [64]

PCI Latency Timer の値を選択します。

設定オプション:[32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]

この項目を[Yes]に設定すると、PCI スロット用のビデオカードが IRQ を要求した場合に、IRQ をビデオカードに割り当てます。[No]に設定すると、BIOSはたとえ要求されても IRQ をビデオカードに割り当てません。

設定オプション:[No] [Yes]

Palette Snooping [Disabled]

この項目を[Enabled]に設定すると、ISAビデオカードにカラーパレットが割り当てられます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

IRQ-xx assigned to [PCI Device]

この項目を[PCI Device]に設定すると、特定の IRQ が PCI/PnP デバイスを自由に使用します。[Reserved]に設定すると、IRQ はレガシー ISA デバイス専用になります。

設定オプション:[PCI Device] [Reserved]

4.5 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



4.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムのサスペンドに使用される、ACPI の状態の選択をします。

設定オプション:[S1 (POS) Only]

[S3 Only] [Auto]

4.5.2 Repost Video on S3 Resume [No]

S3/STR レジュームでVGA BIOS POSTを呼び出します。

設定オプション:[No] [Yes]

4.5.3 ACPI 2.0 Support [No]

ACPI 2.0 仕様への対応を追加できます。

設定オプション:[No] [Yes]

4.5.4 ACPI APIC Support [Enabled]

APIC が、ACPI をサポートするかどうかの切り替を行います。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.5.5 APM の設定



Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンを押したときの動作を設定します。
設定オプション:[On/Off] [Suspend]

Restore on AC Power Loss [Power Off]

この項目を[Power Off]に設定すると、停電などで電力が遮断された場合に再通電時に電源をオフにします。また、[Power On]に設定すると、再通電時に電源をオンにします。[Last State]に設定すると、再通電時に、直前の電源状態に戻ります。
設定オプション:[Power Off] [Power On] [Last State]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

指定した時刻に電源をオンにすることができます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]



次の項目は「Power On By RTC Alarm」の項目を [Enabled] に設定すると表示されます。

RTC Alarm Date [XX]

<+> <-> キーを使ってアラームの日付を設定します。
設定オプション:[Everyday] [1] [2] [3]... ~ [31]

RTC Alarm Hour

<+> <-> キーを使ってアラームの時間(時)を設定します。
設定オプション:[00] [1]... ~ [23]

RTC Alarm Minute

<+> <-> キーを使ってアラームの時間(分)を設定します。
設定オプション:[00] [1]... ~ [59]

RTC Alarm Second

<+> <-> キーを使ってアラームの時間(秒)を設定します。
設定オプション:[00] [1]... ~ [59]

Power On By External Modems [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定をします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行するまで、データの送受信はできません。従って、最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

Power On By PCI Devices [Disabled]

PCI LAN またはモデムカードを使用してシステムの電源をオンにします。+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Power On By PCIE Devices [Disabled]

PCI Express デバイスを使用してシステムの電源をオンにします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

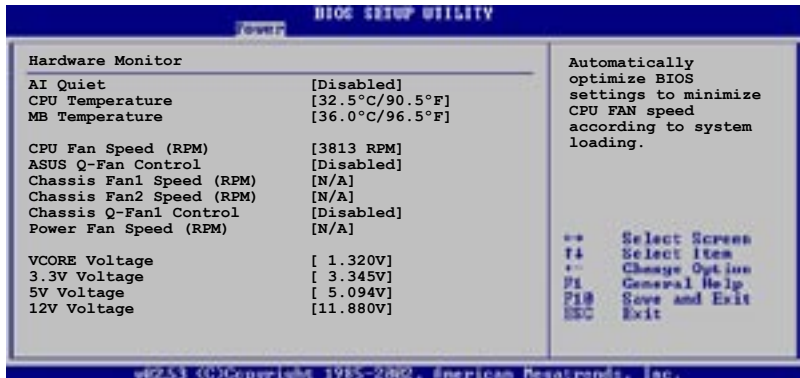
設定オプション:[Disabled] [Space Bar] [Ctrl-Esc] [Power Key]

Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled] に設定すると、PS/2 マウスを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.5.6 ハードウェアモニタ



AI Quiet [Disabled]

システムの負荷に合わせてCPU FAN 速度を自動的に低速に調整するAI Quiet 機能の設定をします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

CPU Temperature [xxx°C/xxx°F]

MB Temperature [xxx°C/xxx°F]

マザーボードと CPU 温度を自動的に検出して表示します。検出された温度を表示したくない場合は、[Disabled] を選択してください。

CPU Fan Speed (RPM) [xxxxRPM], [N/A], [Ignored]

CPU ファンの回転数を自動的に検出し、回転数/分(RPM)の単位で表示します。ファンがマザーボードに接続されていない場合は、N/A と表示されます。検出を無効に設定する場合は、[Ignored] を選択してください。

ASUS Q-FAN Control [Disabled]

各種ファンの回転数を素早く調整しシステムをより効率よく動作させる、ASUS Q-Fan 機能の設定を切り替えます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



「CPU Q-Fan Mode」と「CPU Fan Profile Mode」の項目は、「ASUS Q-FAN Control」を [Enabled] に設定した場合のみ表示されます。

CPU Q-Fan Mode [PWM]

CPU ファンコネクタに接続したCPU ファンケーブルのタイプを選択します。4ピンCPU ファンケーブルをご利用の際は、[PWM] に設定します。3ピンCPU ファンケーブルをご利用の際は、[DC] に設定してください。

設定オプション:[PWM] [DC]



4ピンケーブルのCPUファンにはIntel®のPWM ファン仕様でないものがあります。このタイプのCPU ファンをご利用の場合は、CPU Q-Fan Mode を [PWM] に設定しても、CPUファン速度を減速できないことができます。

CPU Fan Profile [Optimal]

CPU ファンパフォーマンスを設定します。[Optimal] に設定すると、CPU ファンをCPU 温度に合わせて自動的に調節します。[Silent] に設定すると、ファン速度を最低限に抑え、静音環境を実現します。[Performance Mode] に設定するとCPU ファン速度は最大になります。

設定オプション:[Optimal] [Performance Mode] [Silent]

Chassis Fan1/2 Speed [xxxxRPM] or [N/A]/[Ignored]

自動的にケースファンの回転数を検出して表示します(単位:RPM)。ファンがケースファンコネクタに接続されていないと、N/Aと表示されます。設定を無効にする場合は、[Ignore] を選択してください。

Chassis Q-Fan1 Control [Disabled]

効率的なシステム動作を実現するために、ケースファン速度を調節するASUS Q-Fan機能の設定をします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



- Chassis Q-Fan 機能は CHA_FAN1でのみ有効です。
- 「Chassis Fan Profile Mode」は「Chassis Q-Fan Control」機能が有効に設定されている場合のみ表示されます。

Chassis Fan Profile [Optimal]

Chassis Q-Fan のパフォーマンスレベルを適切に調節します。

設定オプション:[Optimal] [Performance Mode] [Silent Mode]

Power Fan Speed (RPM) [xxxxRPM], [N/A]/ [Ignored]

自動的に電源ファンの回転数を検出して表示します(単位:RPM)。ファンが電源ファンコネクタに接続されていないと、N/Aと表示されます。

設定オプション:

VCORE Voltage, 3.3V Voltage, 5V Voltage, 12V Voltage

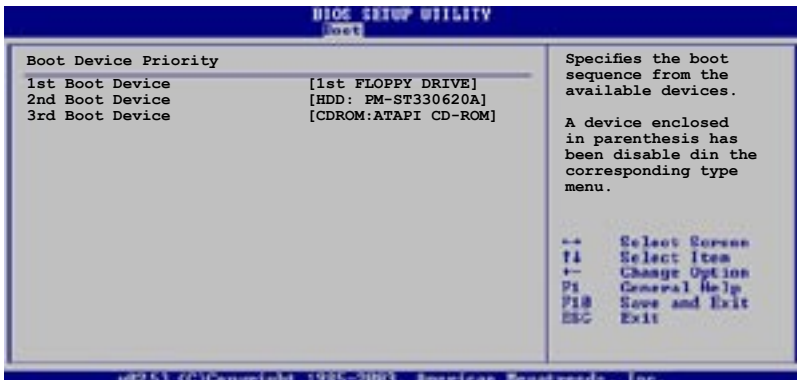
VCORE の電圧を自動的に検出して表示します。

4.6 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter> を押してサブメニューを表示します。



4.6.1 ブートデバイスの優先順位

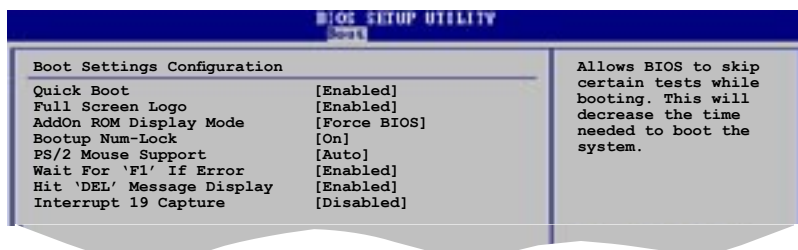


1st ~ xxth Boot Device [1st FLOPPY DRIVE]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。

設定オプション:[xxxxx Drive] [Disabled]

4.6.2 ブート設定



Quick Boot [Enabled]

起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。[Disabled] に設定しているときは、BIOS はすべての POST 項目を実行します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

フルスクリーンロゴの表示/非表示を切り替えます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



この項目は[Enabled] に設定し、是非ASUS MyLogo2™ 機能をご利用ください。

Add On ROM Display Mode [Force BIOS]

オプションROM に対するディスプレイのモードを設定します。

設定オプション:[Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。

設定オプション:[Off] [On]

PS/2 Mouse Support [Auto]

PS/2 マウスをサポートするかどうかを設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled] [Auto]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

この項目を[Enabled] に設定すると、システムはエラー発生時に F1 キーが押されるのを待ちます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

この項目を[Enabled] に設定すると、POST 中に「Press DEL to run Setup (Delete キーでBIOSメニューを表示)」というメッセージが表示されます。

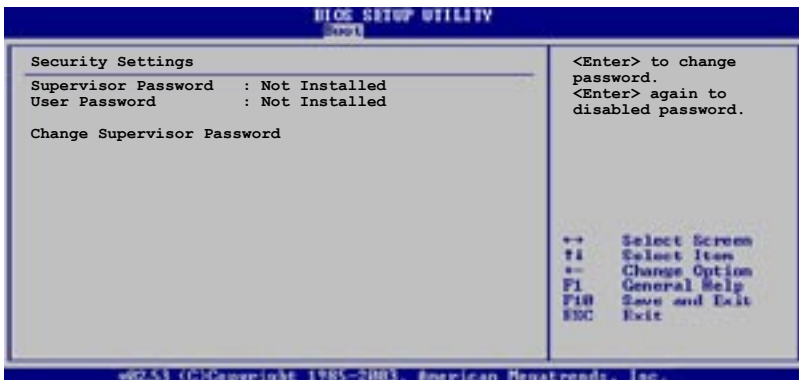
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Interrupt 19 Capture [Disabled]

この項目を[Enabled] に設定すると、Interrupt 19 をイベント通知することができます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.6.3 セキュリティ

システムセキュリティ設定の変更。項目を選択し、<Enter> を押すと設定オプションが表示されます。



Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定または変更を行います。画面上部に表示されている「Supervisor Password」は、デフォルトの状態では Not Installed になっています。パスワードを設定すると、Installed に変更されます。

管理者パスワードの設定手順

1. 「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードを変更する場合は、設定と同じ手順に従います。

管理者パスワードの消去は、「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter> を押します。消去すると「Password Uninstalled」というメッセージが表示されます。



管理者パスワードを忘れた場合、CMOSリアルタイムクロック(RTC) RAMを消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAMを消去する方法については、「2.6 ジャンプ」のページをご覧ください。

管理者パスワードを設定すると、他のセキュリティ設定を変更するための項目が表示されます。



User Access Level [Full Access]

BIOSメニューへのアクセス制限の選択。

設定オプション:[No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

[No Access]、BIOSメニューへのユーザーのアクセスを拒否します。

[View Only]、アクセスは許可しますが設定の変更はできません。

[Limited]、日時など、限られた設定のみを変更できます。

[Full Access]、すべての項目の表示、変更ができます。

Change User Password

ユーザーパスワードの設定または変更をします。画面上部に表示されている「User Password」はデフォルトの状態では Not Installed になっています。パスワードを設定すると、Installed に変更されます。

ユーザーパスワードの設定手順

1. 「Change User Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードを変更する場合は、設定と同じ手順で行います。

Clear User Password

ユーザーパスワードをクリアします。

Password Check [Setup]

この項目を[Setup]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[Always]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。

設定オプション:[Setup] [Always]

4.7 終了メニュー

BIOS設定の保存や取り消しのほか、デフォルト値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。このメニューから終了する項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit menu」からこのオプションを選択し、設定をCMOS RAMに保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保持します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「OK」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに<ESC>でBIOSメニューを終了しようとする、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は<Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときは、この項目を選択してください。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復元します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「OK」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値をロードします。

Load Setup Defaults

BIOSメニューのそれぞれの項目に対して、デフォルト値をロードします。このオプションを選択または <F5>を押すと、確認メッセージが表示されます。「OK」を選択するとデフォルト値をロードします。

サポートCDのコンテンツ

5 ソフトウェア

5.1	OSをインストールする.....	5-1
5.2	サポート CD 情報.....	5-1
5.3	ソフトウェア情報.....	5-11
5.4	RAID.....	5-25
5.5	RAID ドライブディスクを作成する.....	5-37

5.1 OSをインストールする

このマザーボードはWindows® 2000/2003 Server/XP/64-bit XP OSをサポートしています。ハードウェアの機能を最大に活用するために、OSを定期的にアップデートしてください。



- ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® 2000 Service Pack 4 または Windows® XP Service Pack 1以降の Service Pack をインストールしてください。

5.2 サポート CD 情報

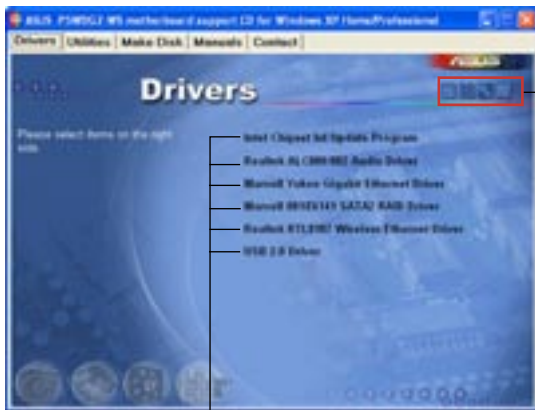
マザーボードに付属するサポートCDには、マザーボードを利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが入っています。



サポートCDの内容は、予告なしに変更する場合があります。最新のものは、ASUS webサイト (www.asus.co.jp) でご確認ください。

5.2.1 サポートCDを実行する

サポートCDを光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



サポートCDとマザーボードの情報を表示できます。

クリックしてインストールします



Autorun が有効になっていない場合は、サポートCDのBINフォルダからASSETUP.EXEを探してください。ASSETUP.EXEをダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

5.2.2 ドライバメニュー

ドライバメニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。



画面とドライバオプションは一例であり、OS のバージョンによって異なります。



Intel Chipset Inf Update Program

Intel® Chipset INF Update Program をインストールします。Intel® チップセットコンポーネントへのPlug-n-Play INF が有効になります。また、ターゲットシステムにインストールすると、チップセットコンポーネントの設定が可能になります。

インストールは、interactive、Silent、Unattended preload、の3つのモードを選択できます。Interactive モードでドライバをインストールした場合にはインストール中にユーザーIDの入力が必要です。Silentモード、Unattended preload モードではユーザーIDの入力は不要です。詳細はオンラインヘルプ、またはReadme ファイルをご覧ください。

Realtek ALC880/882 Audio Driver

Realtek® ALC882 オーディオドライバとアプリケーションをインストールします。

Marvell Yukon Gigabit Driver

Marvell® Yukon™ Gigabit Ethernet ドライバをインストールします。

Marvell 88SE6141 SATA2 RAID Driver

Marvell® 88SE6141 Serial ATA II RAID ドライバをインストールします。

Realtek RTL8187 Wireless Ethernet Driver

Realtek® RTL8187 Wireless Ethernet ドライバをインストールします (オプションの無線 LAN モジュール用に)。

USB 2.0 Driver

USB 2.0 ドライバをインストールします。

5.2.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで使用できるソフトウェアやユーティリティをインストールします。



Marvell Yukon VCT Application

LANケーブルの異常を報告する、ケーブル診断ユーティリティMarvell® Yukon Virtual Cable Tester™をインストールします。

ASUS AI Booster

Windows® 環境で CPU 速度をオーバークロックする ASUS AI Booster をインストールします。

ASUS PC Probe II

このユーティリティはファンの回転数や、CPU温度、システム電圧を監視し、何か問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えば、コンピュータをいつでも正常な状態に維持できます。

ASUS Update

Windows® 環境でASUS Webサイトから最新バージョンのBIOSをダウンロードします。ASUS Update のご利用には、インターネット接続が必要です。

ASUS Screen Saver

ASUS Screen Saverをインストールします。

ADOBE Acrobat Reader V7.0

PDF (Portable Document Format) ファイルの閲覧、プリントができるAdobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールします。

Infinion Security Platform Software

Infinion Security Platform Software をインストールします。

Microsoft DirectX 9.0c

Microsoft® DirectX 9.0 ドライバをインストールします。Microsoft DirectX® 9.0 は、コンピュータのグラフィックとサウンドを拡張するマルチメディアテクノロジーです。DirectX®はコンピュータのマルチメディア機能を向上させるので、TVや映画、ビデオキャプチャ、ゲームをよりお楽しみいただけます。

Anti-virus Utility

コンピュータウイルスからパソコンを守ります。詳細はオンラインヘルプをご覧ください。

5.2.4 Make Disk menu

RAID/Serial ATA ドライバディスクの作成。



Make Intel ICH7 32 bit RAID Driver Disk

Make Intel ICH7 64 bit RAID Driver Disk

ICH7 RAID dドライバディスクの作成をします (32/64-bit システム用)。

Marvell 88SE6140 SATA2 RAID Driver

Marvell® 88SE6141 SATA2 RAID ドライバディスクの作成。

5.2.5 マニュアルメニュー

サードパーティ製のコンポーネント、または各アプリケーションのユーザーマニュアルを見ることができます。



ほとんどのマニュアルファイルは PDF になっています。PDFファイルを見るには、UtilitiesタブのAdobe® Acrobat® Reader V7.0をインストールしてください。

5.2.6 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーション。また、このマニュアルの表紙裏にも記載してあります。

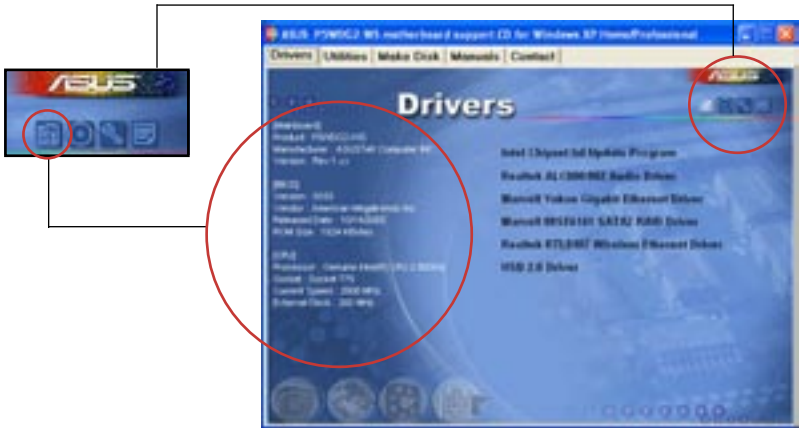


5.2.7 その他の情報

画面右上のアイコン。マザーボード、サポートCDの内容に関する追加情報です。

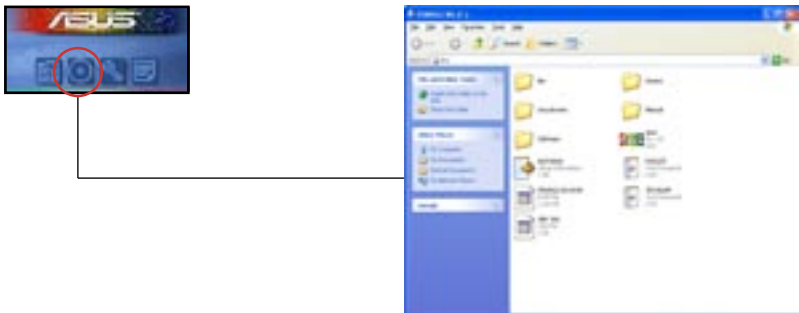
マザーボード情報

マザーボードの全般仕様を表示。



CDをブラウズする

サポートCDのコンテンツを表示。(グラフィカル形式)



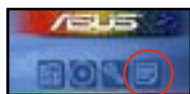
テクニカルサポートフォーム

Technical Support Request Form を表示。テクニカルサポートをご依頼の際に記入してください。



ファイルリスト

サポート CD のコンテンツを表示。(テキスト形式)



5.3 ソフトウェア情報

サポートCDのほとんどのアプリケーションはウィザードを使って簡単にインストールをすることができます。詳細はオンラインヘルプまたはアプリケーションのReadmeファイルをご参照ください。

5.3.1 ASUS MyLogo2™

ASUS MyLogo2™で起動ロゴを設定することができます。起動ロゴとは起動時の自己診断テスト (POST) の間に、表示される画像のことです。サポート CD から ASUS Update ユーティリティをインストールすると自動的にASUS MyLogo2™ もインストールされます。(詳細 5.2.3「ユーティリティメニュー」参照)



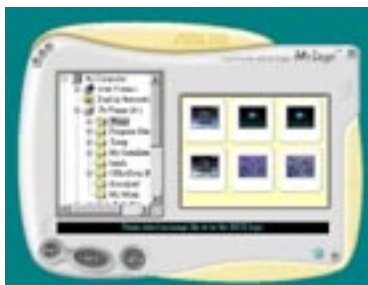
- ASUS MyLogo2™で利用になる前に Award BIOS Flash ユーティリティを使ってオリジナルBIOSファイルのコピーを作成するか、ASUS Webサイトから最新バージョンのBIOSを入手してください。(詳細 4.1.4「AFUDOS」参照)
- ASUS MyLogo2™をご利用になる場合は、BIOSの「Full Screen Logo」の項目を [Enabled] にしてください。(詳細 4.6.2「ブート設定」参照)
- オリジナルの起動ロゴは、GIF、JPG、BMP で作成できます。

ASUS MyLogo2™を起動する

1. ASUS Update ユーティリティを起動します。(詳細 4.1.1「ASUS Update」)
2. ドロップダウンメニューから「Options」を選択し、「Next」をクリックします。
3. BIOSを更新する前に起動ロゴを置き換えるために、「Launch MyLogo」をチェックして「Next」をクリックします。
4. ドロップダウンメニューから「Update BIOS」を選択し、「Next」をクリックします。
5. 指示に従って新しいBIOS ファイルを検索し「Next」をクリックすると、ASUS MyLogo 2 のウィンドウが表示されます。
6. 左ウィンドウ枠から、起動ロゴとして使用する、画像を含むフォルダを選択します。



7. ログ画像が右ウィンドウ枠に表示されたら、画像を選択してクリックし、拡大します。



8. Ratio boxの値を選択し、画像のサイズを調整します。



9. 画面が ASUS 更新ユーティリティに戻ったら、オリジナルのBIOSをフラッシュして新しい起動ロゴをロードします。
10. BIOSを更新した後、コンピュータを再起動すると、POST中に新しい起動ロゴが表示されます。

5.3.2 AI NET2

Marvell® Virtual Cable Tester™ (VCT) はケーブル診断ユーティリティで、TDRテクノロジーを使用して、LANケーブル障害とショートを報告します。VCTは、外れていたり、ショートしているケーブル、インピーダンス不一致、ペア交換、ペア極性問題、ペアスキュー問題を1メートルの精度で最大100メートルまで検出し報告します。

VCT機能は、きわめて管理が簡単で制御されたネットワークシステムを通じて、ネットワークとサポートコストを抑えています。このユーティリティはネットワークシステムソフトウェアに組み込まれ、開発診断だけでなく理想的なフィールドサポートも実現しています。

Virtual Cable Tester™ を使う

手順

1. スタート → すべてのプログラム → Marvell → Virtual Cable Tester の順にクリックして、Windows® デスクトップから VCT を起動します。
2. メニューの「Virtual Cable Tester」をクリックして、下の画面を表示させます。



3. 「Run」ボタンをクリックして、ケーブルテストを実行します。



- VCTは、Windows® XP もしくは Windows® 2000 OSでのみ実行可能です。
- VCT は、Gigabit LAN ポートに接続したイーサネットケーブルのみテストします。
- LAN ケーブルに問題が検出されない場合は、Virtual Cable Tester™メインウィンドウの「Run」ボタンは、無効です。
- OSに入る前に、システムでLANケーブルの状態をチェックしたい場合は、BIOSの「Post Check LAN Cable」の項目を[Enabled]にします。
- AI NET2 は LAN2 上でのみ利用可能です。

5.3.3 オーディオ設定

Realtek® Realtek® ALC882 オーディオ CODECは、8チャンネルのオーディオで、お使いのPCを最高のオーディオにします。また、ソフトウェアが、Jack-Sensing 機能、S/P DIF 出力、割り込み機能をサポートし、全てのオーディオポートに対応する、Realtek® 専用 UAJ® (Universal Audio Jack) テクノロジーを搭載。ケーブル接続のエラーのない、便利なプラグアンドプレイです。

ウィザードに従って、サポート CD から「Realtek® Audio Driver」をインストールしてください。

Realtek が正しくインストールされると Realtek HD Audio Managerアイコンがタスクバーに表示されます。

タスクバーの、「SoundEffect アイコン」をダブルクリックすると、Realtek HD Audio Manager が表示されます。



Realtek HD Audio Manager




下の画面は一例です。実際の画面とは異なる場合があります。

Realtek HD Audio Manager




Information

インフォメーションボタン  をクリックすると、オーディオドライババージョン、DirectX バージョン、オーディオコントローラ、オーディオコーデック、言語設定の各インフォメーションが表示されます。




最小化

最小化ボタン  をクリックすると、ウィンドウが最小化します。

Exit

Exit ボタン  をクリックすると、Realtek HD Audio Manager から退出します。


設定オプション

任意のタブをクリックし、オーディオの設定をします。矢印  をクリックすると、詳細が表示されます。

Sound Effect

Realtek® ALC882 Audio CODEC では、環境設定、イコライザーの調節、カラオケの設定、プログラム前のイコライザーの設定ができます。

サウンドエフェクトの設定

1. Realtek HD Audio Managerから、Sound Effect タブをクリック。
2. ショートカットボタンまたはドロップダウンメニューをクリックし、アコースティック環境、イコライザーの調整、カラオケの設定を選択。
3.  をクリックし Sound Effect セットアップを有効にし退出。




Mixer


Mixer オプションはオーディオ出力 (再生) ボリュームと入力 (記録) ボリュームを設定。

ミキサーのセッティング

1. Realtek HD Audio Managerから Mixer タブをクリック。
2. ボリュームボタンで Playback と Record ボリュームを調節。





ミキサーオプションはデフォルトでは全てのチャンネルからのボイス入力が有効です。ボイス入力が不要の場合は、全てのチャンネルをミュート  にしてください。

3. Wave, SW Synth, Front, Rear, Subwoofer, CD ボリューム、Mic ボリューム、Line ボリューム、Stereo mix をコントロールタブをクリック・ドラッグして調節。
4.  をクリックしミキサーセッティングから退出。

Bass Management setting

このタブをクリックしバスセッティングを調節します。

Bass Management のセッティングオプション


1. Realtek HD Audio Manager から Bass Management セッティングタブをクリック。
2. <M> または <FT> をクリックし距離をメートル単位またはフィートで表示。
3. ボックス内に数値を入力するか矢印で値をセッティング。
4.  をクリックしセッティングをテスト。
5.  をクリックし Bass Management セッティングを有効にして退出。



Audio I/O

入力/出力の設定

Audio I/O オプションの設定


1. Audio I/O をクリックします。
2. ドロップダウンメニューから、チャンネル設定 (接続するスピーカー) を選択します。
3. コントロールセッティングウィンドウに接続したデバイスの状態が表示されます。 をクリックしアナログまたは、デジタルを選択。
4. 「OK」をクリックし Audio I/O セッティングを有効にして退出。



Microphone

Microphone では入力/出力を設定し、オーディオデバイスが正しく接続されているかを確認します。

Microphone オプション

1. Realtek HD Audio Manager から Microphone をクリックします。
2. Noise Suppression をクリックし、レコーディングの際のノイズを減らします。
3. Acoustic Echo Cancellation をクリックし、レコーディングの際のフロントスピーカのエコーを減らします。
4.  をクリックし退出します。



3D Audio Demo

3D Audio Demo は 3D オーディオ機能のサウンド調整を行います。

3D Audio Demo の開始

1. Realtek HD Audio Manager から 3D Audio Demo タブをクリック。
2. オプションボタンをクリックしサウンド、ムービングパス (軌道)、環境設定を変更。
3.  をクリックし設定をテストします。
4.  をクリックし退出します。



5.3.4 ASUS PC Probe II

PC Probe II は、重要なコンピュータのコンポーネントをモニタし、問題が検出されると警告するユーティリティです。ファン回転数、CPU温度システム電圧を中心にモニタします。PC Probe II はソフトウェアベースなので、コンピュータに電源を入れた時からモニタを監視します。このユーティリティで、コンピュータをいつでも正常に動作させることができます。

PC Probe IIをインストールする

手順

1. サポートCDを光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライブインストールタブが自動的に表示されます。



Autorun が有効になっていない場合は、サポートCDのASUS PC Probe IIフォルダから setup.exe を探してください。setup.exe をダブルクリックすれば、インストールが開始されます。

2. Utilities タブ→ ASUS PC Probe II の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを終了させます。

PC Probe II を起動する

インストール終了後、または Windows® デスクトップからいつでもPC Probe II を起動することができます。

PC Probe II を Windows® デスクトップから起動させる: スタート → すべてのプログラム → ASUS → PC Probe II → PC Probe II v1.00.43 の順にクリックすると、PC Probe II のメイン画面が表示されます。

アプリケーションを起動すると、PC Probe II アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。アイコンをクリックすることで、アプリケーションを開いたり閉じたりすることができます。

PC Probe II を使う

メイン画面

PC Probe II メイン画面では、システムの現状を確認し、設定を変更することができます。デフォルトでは Preference が表示されます。画面右の三角をクリックすることで、Preference を閉じることができます。



三角をクリックして
Preference を閉じる

ボタン	機能
	設定画面を開く
	レポート画面を開く
	Desktop Management Interface 画面を開く
	Peripheral Component Interconnect 画面を開く
	Windows Management Instrumentation 画面を開く
	HDD、メモリ、CPU 使用率画面を開く
	Preference 画面を表示/非表示
	アプリケーションを最小化
	アプリケーションを閉じる

警告センサー

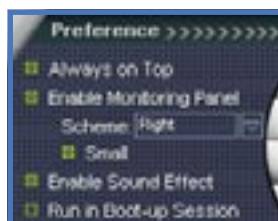
システムセンサーが問題を検出すると、下の絵のようにメイン画面の右側が赤色になります。



センサー用のモニタパネルも赤色になります。モニタパネル参照。

Preferences

メイン画面の Preference で使用中のアプリケーションをカスタマイズできます。ボックスをクリックして設定を切り替えます。



ハードウェアモニタパネル

ファン回転数、CPU 温度、電圧などのシステムセンサーの現在値を表示します。

ハードウェアモニタパネルには2種類ディスプレイモードがあります：6角形(大)と長方形(小)です。Preference で「Enable Monitoring Panel」の項目にチェックした場合は、モニタパネルがデスクトップに表示されます。



6角形(大)



長方形(小)

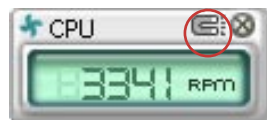
モニタパネルの位置を変える

モニタパネルのデスクトップ上の位置を変更する場合は、Scheme のボタンをクリックして、リストボックスからポジションを選択します。選択したら「OK」をクリックします。



モニタパネルを分解する

モニタパネルは、磁気効果のため全て一緒に動きます。分解する場合は、U字型のマグネットアイコンをクリックします。



センサーの基準値を調節する

ボタンをクリックしてセンサーの基準値を調節します。また、Config画面でも設定可能です。

長方形(小)のモニタパネルでは基準値を調節することはできません。



警告センサーモニタ

コンポーネントの値が基準値を上回ったり、下回ったりすると赤色になります。



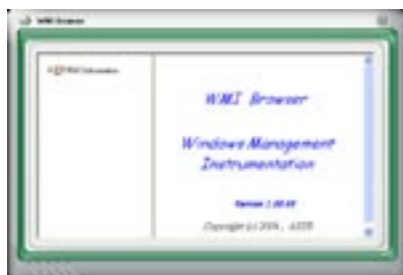
六角形(大)



長方形(小)

WMI ブラウザ

WMI をクリックして、WMI (Windows Management Instrumentation) ブラウザを表示します。様々な、Windows® 管理情報を表示します。左側のパネルの項目をクリックし、右側のパネルに表示させます。WMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



右下の角をドラッグして画面の大きさを調節することができます。

DMI ブラウザ

DMI をクリックして、DMI (Desktop Management Interface) ブラウザを表示します。様々なデスクトップ/システム情報を表示します。DMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



PCI ブラウザ

PCI をクリックして、PCI (Peripheral Component Interconnect) ブラウザを表示します。システム上のPCI デバイス情報を表示します。PCI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



Usage

CPU、HDD空き容量、メモリ使用率をリアルタイムで表示します。**Usage** をクリックして Usage を開きます。

CPU

リアルタイムのCPU 使用率が線グラフで表示されます。CPUのHyper-Threading機能が有効に設定されている場合は、2つの論理プロセッサ用に2つの線グラフが表示されます。



Hard Disk

HDDの使用率を表示します。パネルの左側には論理ドライブが表示されます。クリックすると右側に情報が表示されます。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。




Memory

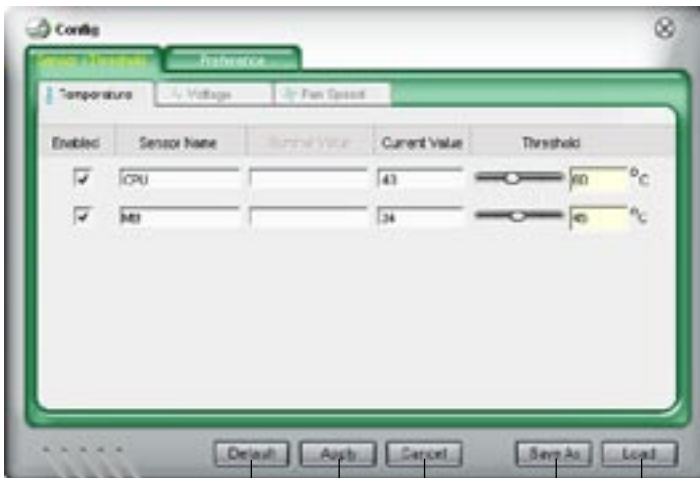
物理メモリの使用率を表示します。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



PC Probe II 設定

 をクリックしてセンサーの基本値を確認、調節します。

Config には 2 つのタブがあります: Sensor/Threshold と Preference です。Sensor/Threshold タブでは、センサーを有効にし、基本値を調節します。Preference タブでは、警告センサーをカスタマイズし、温度の変更をします。



デフォルト基本値をロード

変更を適用

変更をキャンセル

保存した設定をロード

設定を保存

5.4 RAID

本製品は、Intel® ICH7R サウスブリッジ RAID コントローラが付属しており、IDE と Serial ATA HDD をで、以下の RAID 設定が可能です。

RAID 0 (データストライピング): 2 台の同じ HDD を最適化し、パラレル方式でデータを交互に読み書きします。2 台のハードディスクの役割は、シングルドライブと同じですが、転送率はシングルディスクの 2 倍を実現し、データアクセスと保存を向上させます。セットアップには、新しい 2 台の同じ HDD が必要です。

RAID 1 (データミラーリング): 1 台目のドライブから、2 台目のドライブに、同じデータイメージをコピーし保存します。ドライブが 1 台破損しても、ディスクアレイマネジメントソフトウェアが、アプリケーションを正常なドライブに移動することによって、完全なコピーとして残ります。システム全体のデータプロテクションとフォールト・トレランスを向上させます。セットアップには、2 台の新しい HDD、または、既存のドライブと新しいドライブが必要です。既存のドライブを使う場合、新しいドライブは既存のものと同じサイズがそれ以上である必要があります。

RAID 10 : データストライピングとデータミラーリングをパリティなし (冗長データ) で結合したもので、計算して書き込む必要があります。RAID 0 と RAID 1 構成のすべての利点が得られます。セットアップには、最低 4 台の HDD が必要です。

RAID 5 : 3 台以上の HDD 間のデータとパリティ情報をストライプします。RAID 5 の利点は HDD のパフォーマンスの向上、エラーへの許容性、容量が高くなることです。RAID 5 はデータのやり取り、相関的なデータベースのアプリケーション、企業内のリソース作成など、ビジネスにおけるシステムの構築に最適です。最低同じ HDD が 3 台必要です。

Intel® Matrix Storage: ICH7R チップがサポートする Intel® マトリックス記憶装置テクノロジーは、RAID 0、1、5、10 を作成できます。Intel® マトリックス記憶装置テクノロジーはそれぞれのハードディスクドライブ上に 2 つのパーティションを作成し、仮想 RAID 0 と RAID 1 を作成します。また、データを失うことなく、ハードディスクドライブのパーティションサイズの変更もできます。



RAID が設定してある HDD からシステムをブートする場合は、OS をインストールする前に、サポート CD からフロッピーディスクに RAID ドライブをコピーしてください。(詳細「5.6 RAID ドライブディスクの作成」参照)

5.4.1 Serial ATA ハードディスクを取り付ける

本製品は、Serial ATA HDDをサポートします。最適なパフォーマンスのため、ディスクアレイを作成する場合は、モデル、容量が同じHDDをご使用ください。

RAID用にSATA ハードディスクを取り付ける手順

1. SATA ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
2. SATA シグナルケーブルを接続します。
3. SATA 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。

5.4.2 Intel® RAID

本製品は、Intel® ICH7Rサウスブリッジチップセットを通してSerialATAハードディスクドライブ用に、RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10 (0+1)、Intel® Matrix Storage 構成をサポートします。

BIOSでRAIDを設定する

RAIDを作成する前に、BIOSのセットアップで、RAIDを設定してください。

1. POST中にBIOSに入ります。
2. 「Main Menu」で「IDE Configuration」を選択し、<Enter>を押します。
3. 「Configure SATA As」を選択し、<Enter>押し、設定オプションを表示させます。
4. 「Configure SATA As」から「RAID」を選択し、<Enter>を押します。
5. 変更をセーブし BIOS から退出。



BIOSへの入り方、設定方法は、Chapter 4をご覧ください。

Intel® Matrix Storage Manager Option ROM Utility

Intel® Matrix Storage Manager Option ROM ユーティリティで、サウスブリッジの Serial ATA コネクタに接続してある Serial ATA HDD から RAID 0、RAID 1、RAID 10 (RAID 0+1)、RAID 5 の構築が可能です。

Intel® Application Accelerator RAID Option ROM ユーティリティに入る方法

1. Serial ATA HDD を取り付けます。
2. システムを起動させます。
3. POST中に<Ctrl+I>を押すと、ユーティリティメインメニューが表示されます。

```
Intel(R) Matrix Storage Manager Option ROM v5.0.0.1032 ICH7R wRAID5
Copyright(C) 2003-05 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]
1. Create RAID Volume
2. Delete RAID Volume
3. Reset Disks to Non-RAID
4. Exit

[ DISK/VOLUME INFORMATION ]

RAID Volumes:
None defined.

Physical Disks:
Port Drive Model      Serial #      Size      Type/Status (Vol ID)
0  XXXXXXXXXXXX      XXXXXXXX    XX.XXGB  Non-RAID Disk
1  XXXXXXXXXXXX      XXXXXXXX    XX.XXGB  Non-RAID Disk
2  XXXXXXXXXXXX      XXXXXXXX    XX.XXGB  Non-RAID Disk
3  XXXXXXXXXXXX      XXXXXXXX    XX.XXGB  Non-RAID Disk

[↑↓]-Select      [ESC]-Exit      [ENTER]-Select Menu
```

スクリーン下のナビゲーションキーでメニューに切り替え、メニューオプションの選択ができます。

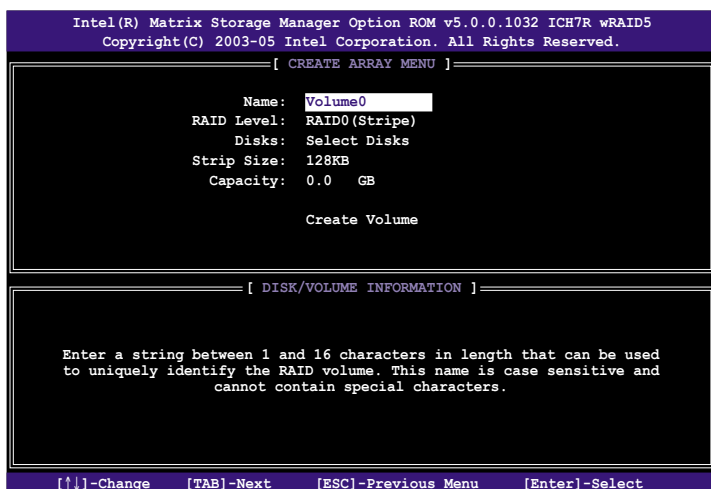


このセクションの RAID BIOS セットアップ画面は一例です。実際の画面とは異なる場合があります。

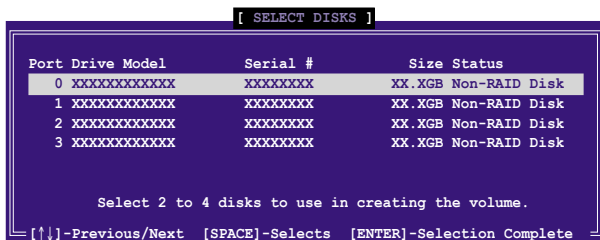
RAID 0 (ストライピング)

設定方法

1. ユーティリティメニューから「1. Create RAID Volume」を選択し、<Enter>を押すと次の画面が表示されます。



2. RAID 0 の名前を入力し、<Enter>を押します。
3. RAID Level の項目がハイライト表示されたら、上下キーで RAID 0 (Stripe) を選択し、<Enter>を押します。
4. Disks の項目がハイライト表示されたら <Enter> を押し、RAID に使用する HDD を選択します。(次のポップアップ画面が表示されます。)



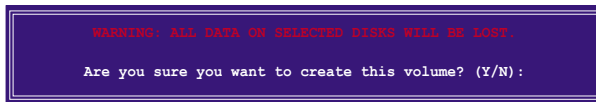
5. 上下キーでドライブをハイライト表示させ、<Space> を押して選択します。小さな三角のマークが選択したドライブを表示しています。設定を確認したら <Enter> を押し設定終了です。

6. 上下キーでRAID 0アレイのストライプのサイズを選択し、<Enter>を押します。設定可能な値は 4 KB から 128 KB です。デフォルト値は 128 KB です。



ヒント:サーバーには低めの値、オーディオ、サウンドなどの編集用のマルチメディアコンピュータシステムには高めの値をお勧めします。

7. 希望の RAID ボリューム値を入力し <Enter> を押します。デフォルトは許容最大値を示します。
8. Create Volume アイテムがハイライト表示されたら、<Enter> を押します。次の警告メッセージが表示されます。

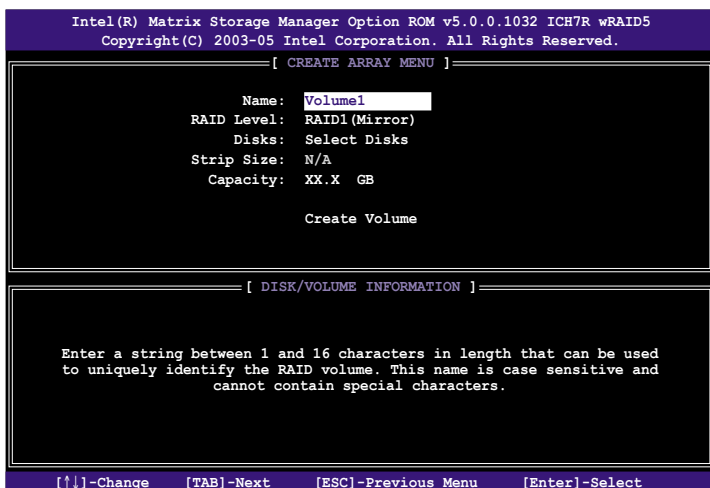


9. RAID ボリュームを作成し、メインメニューに戻る場合は <Y> を、Create Volume メニューに戻る場合は <N> を押してください。

RAID 1 (ミラーリング)

設定方法

1. ユーティリティメインメニューから「1. Create RAID Volume」を選択し、<Enter>を押すと、次のスクリーンが表示されます。



2. RAID 1 の名前を入力し、<Enter>を押します。
3. RAID Level の項目がハイライト表示されたら上下キーで RAID 1(Mirror) を選択し、<Enter>を押します。
4. Capacity の項目がハイライト表示されたら、希望の RAID ボリューム容量を入力し、<Enter>を押します。デフォルトは最高許容量を示します。
5. Create Volume の項目がハイライト表示されたら <Enter> を押すと、次の警告メッセージが表示されます。



6. RAID ボリュームを作成し、メインメニューに戻る場合は <Y> を、Create Volume メニューに戻る場合は <N> を押してください。

RAID 10 (RAID 0+1)

設定方法

1. ユーティリティメインメニューから「1. Create RAID Volume」を選択し、<Enter>を押すと、次のスクリーンが表示されます。

```
Intel(R) Matrix Storage Manager Option ROM v5.0.0.1032 ICH7R wRAID5
Copyright(C) 2003-05 Intel Corporation. All Rights Reserved.

----- [ CREATE ARRAY MENU ] -----

Name: Volume10
RAID Level: RAID10 (RAID0+1)
Disks: Select Disks
Strip Size: 128KB
Capacity: XXX.X GB

Create Volume

----- [ DISK/VOLUME INFORMATION ] -----

Enter a string between 1 and 16 characters in length that can be used
to uniquely identify the RAID volume. This name is case sensitive and
cannot contain special characters.

[↑↓]-Change [TAB]-Next [ESC]-Previous Menu [Enter]-Select
```

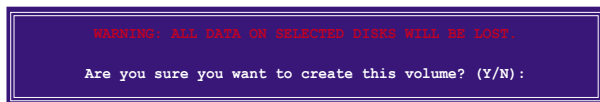
2. RAID 10 の名前を入力し、<Enter>を押します。
3. RAID Level の項目がハイライト表示されたら上下キーで RAID 10(RAID 0+1) を選択し、<Enter> を押します。
4. Capacity の項目がハイライト表示されたら、希望の RAID 10 アレイのストライプサイズを入力し、<Enter> を押します。可能な設定値は 4 KB から 128 KB です。デフォルトは 64 KB です。



ヒント:サーバーには低めの値、オーディオ、サウンドなどの編集用のマルチメディアコンピュータシステムには高めの値を推奨します。

5. Capacity アイテムがハイライト表示されたら、希望の RAID ボリューム値を入力し、<Enter> を押します。デフォルトは許容最大値を示します。

6. Create Volume の項目がハイライト表示されたら、<Enter>を押すと、次の警告メッセージが表示されます。

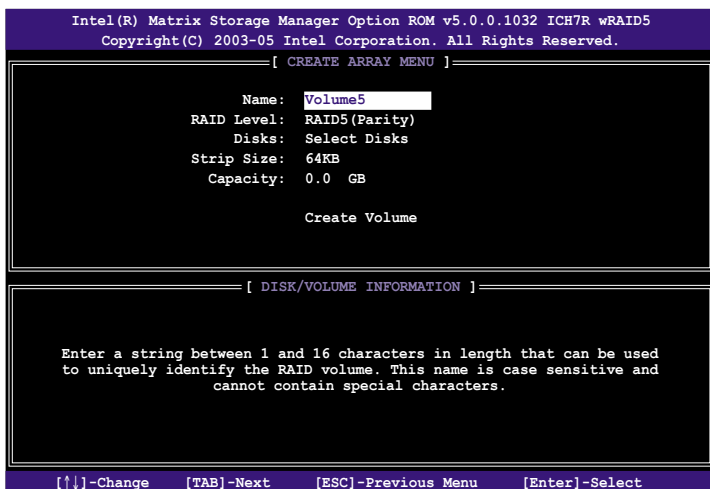


7. RAID ボリュームを作成し、メインメニューに戻る場合は <Y> を、Create Volume メニューに戻る場合は <N> を押してください。

RAID 5 (パリティ)

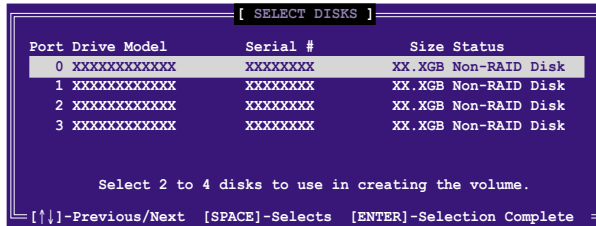
設定方法

1. ユーティリティメインメニューから「1. Create RAID Volume」を選択し、<Enter>を押すと、下のスクリーンが表示されます。



2. RAID 5 の名前を入力し、<Enter>を押します。
3. RAID Level アイテムがハイライト表示されたら上下キーで「RAID 5(Parity)」を選択し、<Enter>を押します。

4. Disks の項目がハイライト表示されたら<Enter> を押し、RAID に使用するHDDを選択します。(ポップアップスクリーンが表示されます。)

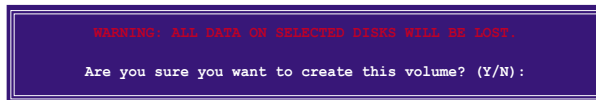


5. 上下キーで希望するドライブをハイライト表示させ、<Space> を押して選択します。小さな三角のマークが選択したドライブを示します。設定を確認したら<Enter> を押し設定終了です。
6. Stripe Size の項目がハイライト表示されたら、上下キーでRAID5アレイのストライプのサイズを選択し、<Enter> を押します。設定可能な値は 4 KB から 128 KB です。デフォルト値は 64 KB です。



ヒント:サーバーには低めの値、オーディオ、ビデオなどの編集用のマルチメディアコンピュータシステムには高めの値を設定します。

7. Capacity の項目がハイライト表示されたら、希望の RAID ボリューム値を入力し<Enter> を押します。デフォルトは許容最大値です。
8. Creat Volume の項目がハイライト表示されたら、<Enter> を押すと、次の警告メッセージが表示されます。



9. RAID ボリュームを作成し、メインメニューに戻る場合は <Y> を、Create Volume メニューに戻る場合は <N> を押してください。

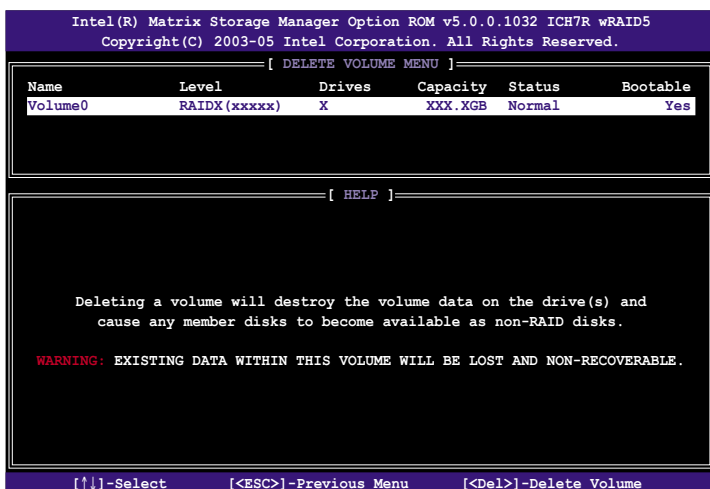
RAID の解除



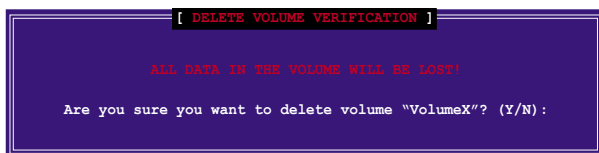
解除すると、HDD内の全てのデータが失われます。ご注意ください。

RAID の解除方法

1. ユーティリティメインメニューから「2. Delete RAID Volume」を選択し、<Enter>を押すと、次のスクリーンが表示されます。



2. 上下キーで解除したい RAID を選択し、 を押すと、次のウィンドウが表示されます。



3. RAID を解除しユーティリティメインメニューに戻るには <Y> を、Delete Volume メニューに戻るには <N> を押してください。

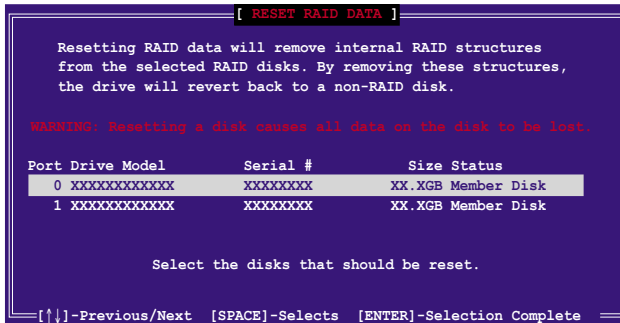
ディスクを Non-RAID にリセット



RAID ボリューム HDD を non-RAID にリセットすると、ドライブの全ての内部 RAID 設定が失われます。

RAID 構築されたHDDのリセット方法

1. ユーティリティメインメニューから「3. Reset Disks to Non-RAID」を選択し、<Enter> を押すと、次のスクリーンが表示されます。

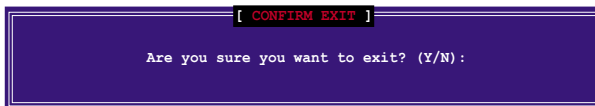


2. 上下キーでリセットしたい RAID ドライブを選び、<Space> を押して選択します。
3. <Enter> を押し RAID ドライブをリセットすると、確認メッセージが表示されます。
4. リセットするには <Y> を、ユーティリティメインメニューに戻るには <N> を押しします。

Intel® Matrix Storage Manager ユーティリティから退出

ユーティリティからの退出方法

1. ユーティリティメインメニューの「4. Exit」を選択し、<Enter> を押すと、このウィンドウが表示されます。



2. 退出するには <Y> を、メインメニューに戻るには <N> を押しします。

RAID HDD をリセットする



RAID ボリューム HDD を non-RAID にリセットすると、ドライブの全ての内部 RAID 設定が失われます。

RAID 構築されたHDDのリセット方法

1. ユーティリティメインメニューから「3. Reset Disks to Non-RAID」を選択し、<Enter> を押すと、次の画面が表示されます。

```
[ RESET RAID DATA ]

Resetting RAID data will remove the internal RAID structures
from the selected RAID disks. By removing these structures
the drive will revert back to a Non-RAID disk.

WARNING: Formatting a disk causes all data on the disk to be lost.

Port Drive Model          Serial #          Size   Status
 0 STXXXXXXXXX          XXXXXXXX         XX.GGB Member Disk
 1 STXXXXXXXXX          XXXXXXXX         XX.GGB Member Disk

Select the disk that should be reset

[↑↓]-Previous/Next  [Space]-Selects  [Enter]-Selection Complete
```

2. 上下キーでリセットしたい RAID ドライブを選び、<Space> を押して選択します。
3. <Enter> を押し RAID ドライブをリセットすると、確認メッセージが表示されます。
4. リセットするには <Y> を、ユーティリティメインメニューに戻るには <N> を押しします。
5. 2～4 をくり返し、RAID ドライブを選択してリセットします。

5.5 RAID ドライバディスクを作成する

Windows® 2000/XP OS を RAID に組み込まれた HDD にインストールするとき、RAID ドライバが入ったフロッピーディスクが必要です。DOS (サポート CD 「Makedisk application」をご利用ください) または、Windows® 環境で RAID ドライバディスクの作成が可能です。

RAID ドライバディスクを DOS 環境で作成

1. サポート CD を光学ドライブに挿入します。
2. コンピュータを再起動し、BIOS メニューに入ります。
3. サポート CD から起動させるため、光学ドライブを最初に起動するドライブに設定します。変更をセーブし BIOS メニューから出ます。
4. コンピュータを再起動します。
5. CD からの起動のプロンプトの際、任意のキーを押します

```
Loading FreeDOS FAT KERNEL GO!  
Press any key to boot from CDROM...
```

Makedisk メニューが表示されます。

```
1) Make ICH7R 32-bit RAID driver disk  
2) Make ICH7R 64-bit RAID driver disk  
3) Make Marvell 88SE6140 SATA2 RAID driver disk  
4) Format floppy disk  
5) FreeDOS command prompt  
Please choose 1 ~ 6
```

6. 空のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。フロッピーのフォーマットに対応する数値を入力すると、次のメッセージが表示されます。

```
Insert new diskette for drive B:\  
and press ENTER when ready...
```

7. <Enter> を押し、フォーマットします。
8. フォーマットしたら、オプションの中から、希望の RAID ドライバディスクタイプの数字を入力し、<Enter> を押し、次のメッセージが表示されます。

```
Please insert your formatted floppy to drive B:\  
Press a key to continue.
```



本書掲載の画面は一例です。実際の画面とは異なる場合があります。

- RAID ドライバがフロッピーディスクにコピーされました。RAID ドライバ ディスクを作成したら、フロッピーディスクを取り出しウィルスの攻撃から守るため、ライトプロテクト(書き込み禁止)にしてください。
- 任意のキーを押し、Makedisk メニューに戻ります。

RAID ドライバディスクの作成 Windows® 環境で作成

- サポート CD を光学ドライブに入れます。
- ドライバメニューが表示されたら、作成したい RAID ドライバディスクを選択します。
 - 「Make ICH7 32 bit RAID Driver Disk」をクリックし、Intel® 32-bit システム用に、ICH7 RAID ドライバディスクを作成。
 - 「Make ICH7 64 bit RAID Driver Disk」をクリックし、Intel® 64-bit システム用に、ICH7 RAID ドライバディスクを作成。
 - 「Make Marvell 88SE6141 SATA2 RAID Driver Disk」をクリックし、32-bit システム用に、Marvell® 88SE6141 SATA2 RAID ドライバディスクを作成。あるいは、

サポートCDのコンテンツを閲覧し、ドライバディスクユーティリティを探します。



詳細は「5.2.4 Make Disk menu」をご参照ください。

- フォーマットした高密度フロッピーディスクをドライブに挿入
- 画面の指示に従い手順を終了させます。
- RAID ドライバ ディスクを作成したら、ライトプロテクトしてウィルスの攻撃から守ります。

RAID ドライバのインストール

- 選択した HDD に OS をインストールします。インストール中、「サードパーティの SCSI または RAID ドライバをインストールしている場合、F6 キーを押す」という指示が表示されます。
- <F6>を押し、RAID ドライバ ディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。
- 画面の指示に従い、RAID ドライバをインストールします。

本製品がサポートするCPUについて。

CPU の機能

A.1	Intel® EM64T	A-1
A.2	EIST (拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー)	A-1
A.3	Intel® Hyper-Threading Technology	A-3

A.1 Intel® EM64T

本製品は Intel® EM64T (Extended Memory 64 Technology) Intel® Pentium® 4 CPU対応製品です。Intel® EM64T 機能は 64bit OS を起動させることができ、より広いシステムメモリ空間へのアクセスが可能なので、より速くより効率的なコンピューティングが可能になります。



本製品は 32bit OS 上で動作する Intel® LGA 775 プロセッサとの完全互換性があります。

Intel® EM64T 機能を使う

手順

1. Intel® EM64T 対応 Intel® Pentium® 4 CPU を取り付けます。
2. 64bit OS をインストールします。(Windows® XP Professional x64 Edition または Windows® Server 2003 x 64 Edition)
3. マザーボードコンポーネントとデバイス用にサポートCDから 64bit ドライバをインストールします。
4. 拡張カード、追加デバイス用に、64bit ドライバをインストールします。



拡張カードや追加デバイスの、64bit OS への対応については、各デバイスメーカーの Web サイトで確認してください。

A.2 EIST (拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー)

EIST は、CPU の負荷やシステム速度/電源条件に合わせて、自動的に CPU 電圧やコア周波数を調節することで、CPU リソースを管理します。

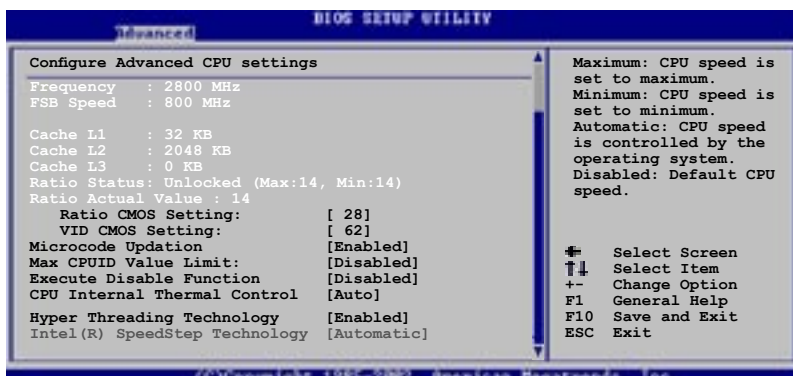
システム条件

- EIST 対応 Intel® Pentium® 4 プロセッサ
- EIST 対応 BIOS ファイル
- EIST 対応の OS (Windows® XP SP2/Windows® Server 2003 SP1/Linux 2.6 カーネルまたはそれ以降のバージョン)

EIST を使う

手順

1. コンピュータの電源を入れ、BIOS メニューを表示します。
2. Advanced Menu に進み、CPU Configuration をハイライト表示させ、<Enter> を押します。
3. オプションをスクロールダウンして Intel(R) SpeedStep Technology の項目を選択し <Enter> を押します。次の BIOS 画面をご参照ください。

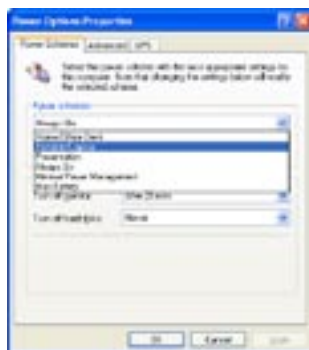


4. オプションから[Automatic] (デフォルト) を選択し、<Enter>を押します。



EIST 機能を使わない場合は、[Maximum]または [Disabled] に設定してください。
[Minimum] に設定するとCPU は常に低い内部周波数で動作します。

5. <F10> を押し、変更を保存し、BIOSメニューを終了します。
6. 再起動したら、デスクトップ上で右クリックし、プロパティを選択します。
7. 画面のプロパティが表示されたら、スクリーンセーバータブをクリックします。
8. モニタ電源欄の「電源」ボタンをクリックし、電源オプションのプロパティを表示させます。
9. 電源設定の欄で、▼をクリックし、「自宅または会社のデスク」及び「常にオン」以外を選択します。
10. 適用をクリックしOKをクリックします。
11. 画面のプロパティを閉じます。電源設定を調整すると、CPUへの負荷が低いときにCPUの周波数が僅かに低くなります。



- 本製品のBIOS ファイルはEM64T と EIST に対応しています。最新の BIOS ファイルは ASUS の Web サイト (www.asus.co.jp/support/download/) からダウンロードすることができます。
- 表示される画面や手順はOSのバージョンにより若干異なります。
- EM64T EIST 機能についての詳細は、www.intel.co.jp をご覧ください。
- Windows®64bit OS についての詳細は、www.microsoft.com/japan/ をご覧ください。

A.3 Intel® Hyper-Threading Technology



- 本製品は Hyper-Threading Technology に対応した Intel® Pentium® 4 LGA775 プロセッサをサポートしています。
 - Hyper-Threading Technology は Windows® XP/2003 Server、Linux 2.4.x カーネル以降のバージョンにのみ対応しています。Linux 環境では、Hyper-Threading compiler を使用してコードを対応させます。対応しない OS をお使いの場合は、BIOS メニューの Hyper-Threading Technology の設定を [Disabled] にしてください。
 - Windows® XP Service Pack 1 以降のご使用を推奨します。
 - OS をインストールする前に、BIOS メニューで Hyper-Threading Technology の設定を [Enabled] にしてください。
 - Hyper-Threading Technology の詳細は www.intel.co.jp/jp/info/hyperthreading/ をご覧ください。
-

Hyper-Threading Technology を使う

手順

1. Hyper-Threading Technology に対応した Intel® Pentium® 4 の CPU を使用してください。
2. システムを立ち上げ、BIOS メニューに進みます。Advanced Menu で Hyper-Threading Technology を [Enabled] に設定してください。(詳細 4-26 参照)
Hyper-Threading Technology の設定項目は、Hyper-Threading Technology に対応した CPU が使われている場合のみ表示されます。
3. システムを再起動します。

